

多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

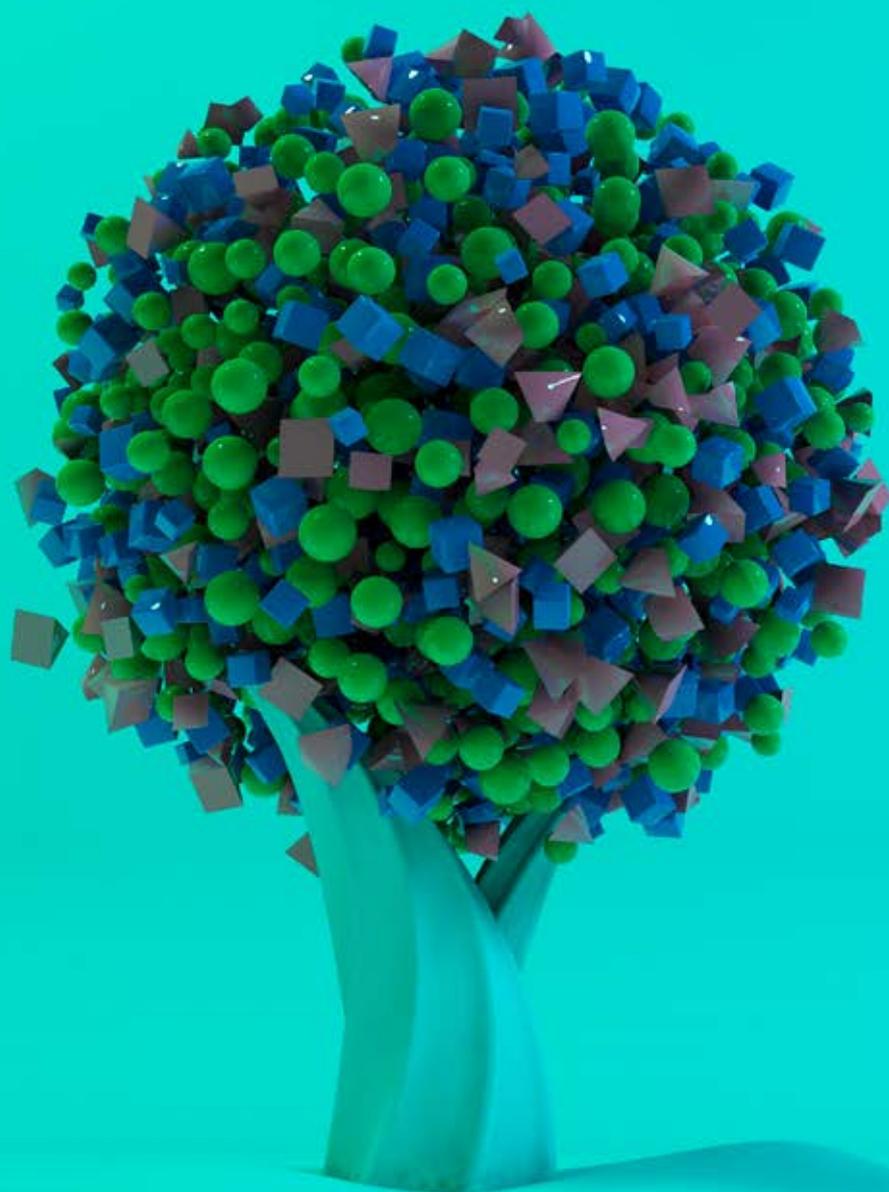
関東がん専門医療人養成拠点

中間実績報告 &
外部評価シンポジウム

2017-2019 年度

2020 年2月21日（金） 10:00～

秋葉原 UDX カンファランス 4F ギャラリー NEXT-3



多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材」養成プラン
関東がん専門医療人養成拠点



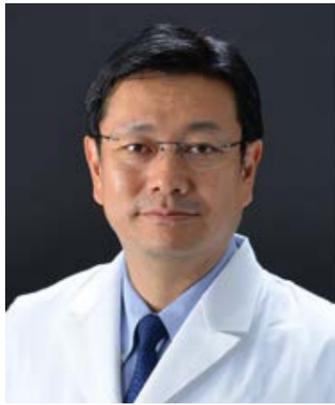


目次

ご挨拶

1	プログラム概要	7
2	プログラムの取り組み	11
2.1	教育プログラム・コース：受け入れ実績	13
2.1.1	がんゲノム医療人養成コース	15
2.1.2	小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース	27
2.1.3	包括的ライフステージサポート医療人養成コース	39
2.1.4	インテンシブコース	57
2.2	社会への発信：シンポジウム、フォーラムなど	63
2.3	大学院生の研究業績一覧	73
2.4	全国がんプロe-learning クラウド取り組み	85
3	外部評価シンポジウム	97
3.1	プレゼンテーション資料	99
3.2	外部評価委員による講評	127
3.2.1	評価結果	129
3.2.2	委員からのコメント	173





関東がん専門医療人養成拠点リーダー校



コーディネーター

小田竜也 先生
筑波大学消化器外科 教授

ご挨拶



癌だけが偉い訳ではない、医療が特別な訳ではない

何度聞いたでしょうか、「日本人の1/2が癌にかかり、1/3が癌で亡くなる時代だ。」というフレーズ。我々癌医療者がその言葉を口にする時、その裏には「だから癌医療は、癌研究は重要なのだ。従って、癌分野には大きな予算が投じられるべきである。」という、ちょっとした甘えがある事に気づいているだろうか。「医療は人の命を預かる大切な仕事である。だから特別なのだ。」と、暗に特別扱われる事を望んではいけないだろうか？

しかし、地球温暖化を止める事より、癌医療、癌教育は大切なのだろうか？福島原発事故よりも？東北の復興支援よりも？食料問題よりも？自動車産業よりも？COVID-19よりも？・・・？

私はそうは思いません。全ての癌に関連する活動が尊い訳ではなく、無条件に認めてもらえる訳もないのです。

だから、私達は誠実にがん医療人の養成をしなければならないのです、癌分野以外の人々に納得してもらえる様に。

その為に私達は独創的な教育手法を開発しました。「だれでもやり始めるけど続かない、必ず失敗する」と言われたe-learningに、一石を投じました。プログラムブックボックスと名付けたこのシステムによって、多施設、多分野、多職種の間を横たわる“時間の壁”、“距離の壁”、そして“組織の壁”を越えて教育活動をする事に挑戦し続けています。この活動は、私達の関東というグループを超え、北海道から九州までの全国の大学院に所属するがん医療職に教育を実践しています。そして、これからはインテンシブコースという枠組で大学以外の医療職も教育対象とする大きなe-learning活動に広がっていきます。

ああ、関東がんプロの活動は偉いね～、と認めてもらえる様に、私達は活動してまいります。



がんゲノム医療人養成コースリーダー校



組織マネージャー

調 憲 先生
群馬大学総合外科学 教授

ご挨拶



関東がんプロをよりよいものに

群馬大学の組織マネージャーを拝命しております調（しらべ）と申します。群馬大学は西山正彦先生が関東がんプロの運営に指導的な立場で大きな力を発揮されてきましたが、群馬大学を退任されたので、私が後を引き継がせていただくことになりました。

西山先生のような見識や人脈、行動力もない私ですが、一生懸命取り組ませていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。群馬大学はがんゲノム医療教育コースを担当させていただいております。附属病院の腫瘍センター長 塚本憲史先生、また昨年4月に総合外科学講座消化管外科学分野教授に就任された佐伯浩司先生とともに活動をさせていただきます。

外部評価シンポジウムでは多くの課題をお示しいただきましたが、がんゲノム医療教育コースのリーダー校として今年やるべきことを2つ挙げさせていただきます。

まずはE-learningの更新です。がん遺伝子パネル検査が保険収載され、全国のゲノム医療の体制も整備されました。そのような大きな変革に対応して、e-learningの講義内容も新たにすべきと考えました。具体的にはがんゲノム医療の現状と見えてきた課題といった内容を新たに収録したいと考えています。

もう一点はインテンシブ・コースの開設です。がんゲノム医療には医師以外の様々な職種の方々の関わりが必要です。新たな人材の育成は喫緊の課題です。がんプロのインテンシブ・コースはこのような人材の育成に極めて重要であると考えます。遅ればせながら、群馬大学でもインテンシブコースを開設させていただきたいと考えています。

今年度も関東がんプロのがんゲノム医療教育コースのリーダー校としての責任が果たせますよう、一生懸命努力をしておりますので、どうぞ筑波大学をはじめとしたみなさまにおかれましてはご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース



組織マネージャー

関根郁夫 先生
筑波大学腫瘍内科 教授

ご挨拶



筑波大学附属病院を含め、ほとんどの施設で小児・AYA・希少がんに総括的に対応する専門臨床部門がなく、学問的にも一つの医学領域として認知されていない状況でしたので、本教育コースを開設するのも手探りの状況でした。AYA世代がんの治療に伴う特有の問題として、成長障害、晩期合併症、妊孕性・不妊症等に加えて、思春期の精神発達への影響、学業・就労・結婚に纏わる問題、高額な医療費負担などの特徴的な心理的・社会的問題があります。そのため、医学・看護領域を越えた教員を確保し、小児・AYA世代の特徴、小児・AYA世代のがん治療総論、小児・AYA世代腫瘍各論、希少がん、晩期合併症と長期フォローアップの問題点、小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援についての講義計72章による包括的なE-ラーニング教育コースを立ち上げました。本コース正規生は2017年度20名（目標22名）、2018年度20名（同29名）、2019年度18名（同28名）で、目標数をやや下回る結果でしたが、学生に新規学問領域を紹介することの難しさを感じています。

小児・AYA・希少がんは領域としてとても広いので、まずやりやすいところからその他の活動を開始しました。妊孕性・不妊症に対応するために、茨城県がん生殖医療ネットワークを構築し、ベルン大学の視察、茨城県医師会との協議、法的手続きの調整を経て、2018年7月から筑波大学附属病院で精子凍結保存運用を開始しました。2018年12月には国内・国外の専門家を招聘し、がん生殖医療に関する国際シンポジウムを開催しました。

今後はE-ラーニングの充実と教育リソースの共有、小児・AYA・希少がんネットワークの拡充を行いながら、小児・AYA・希少がん医療の充実を図りたいと考えています。



包括的ライフステージサポート医療人養成コース



組織マネージャー

滝口裕一 先生
千葉大学大学院医学研究院臨床腫瘍学 教授

ご挨拶



ライフステージに応じた医療教育コースでは、セミナー・演習などは多職種参加を原則とし、小児・AYAコース、ゲノムコースとの壁を作ることなく幅広い基礎を土台に学生個人の専門制を高めることを重視して来ました。2017年度から2019年度までに11大学23学部・学科が参画し、合計で132名の学生が正規課程に登録され、量的目標は十分クリアしました。E-ラーニングでは多職種教員によるカリキュラム作成、講義集録が行われており、がんの一次予防、がん教育、ライフステージによるがん治療の特徴、終末期がん医療、社会とがん医療の関係、ライフステージに応じたがん医療の臨床試験など広範な内容を含んでいます。外部評価委員からもこれらの点が高く評価されたのは大変嬉しく光栄でした。今年度、高齢者がん治療に関する教科書の発行も目処が立ちました。高齢者がん医療をテーマにシンポジウムも開催しました。次度中にはこの教科書の発行までこぎ着ける予定です。これに対して外部評価委員から応援をいただいたのも私たちにとっては大きな励みになりました。是非とも成功させたいと決意を新たにしました次第です。

一方で、ホームページなどを介した社会への情報発信をさらに促進すること、セミナー・シンポジウムは予告だけではなく、結果報告も発信すべきとのお助言には、大いに啓発されました。

外部評価後のミーディングでは、次年度のワークショップの一つとして多職種連携によるバーチャル・キャンサーボード開催に向けて検討することとなりました。充実した企画にすべく努力いたしますので、どうぞ皆様のご支援をいただけますようお願い致します。

大変ご多忙の中、長時間にわたって私たちの活動内容をご審査いただき、大変貴重なお助言・ご提案をいただいた外部評価委員の皆様には心から感謝申し上げます。これに応えてますます充実したコースにしていきたいと考えております。

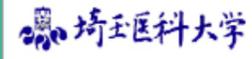


関東がん専門
医療人
養成拠点

プログラム概要

拠点 13 連携大学

リーダ校▶



目的

本邦の死因第1位である『がん』は国民の健康および生命に対する重大な課題であり、効果的ながん対策が求められ続けています。一方、がん医療を取り巻く現状も変化しており、『がんゲノム医療の実用化』、『小児・AYA世代に対するがん対策』、『患者のライフステージに応じたがん対策（特に高齢者）』などが、がん医療における新たなニーズとして求められるようになってきました。

本事業では、上述の新たなニーズに対応し得る、さまざまな職種のがん専門医療人を養成します。

課題

A) がん専門医療人養成の遅れががん難民を引き起こす原因

がん対策基本法（H18年6月）制定後10年が経過し、それまでは存在感が十分でなかった癌専門職種（腫瘍内科医、放射線腫瘍医、緩和医療医、医学物理士など）の養成はある程度進んだ。しかし、その対応はまだ発展途上であるだけでなく、小児がん、AYAがん、希少がん、高齢がん患者等に対応する医療人養成は取り残された課題で、その脆弱な医療人材資源は“ガン難民”を生む大きな原因になっている。

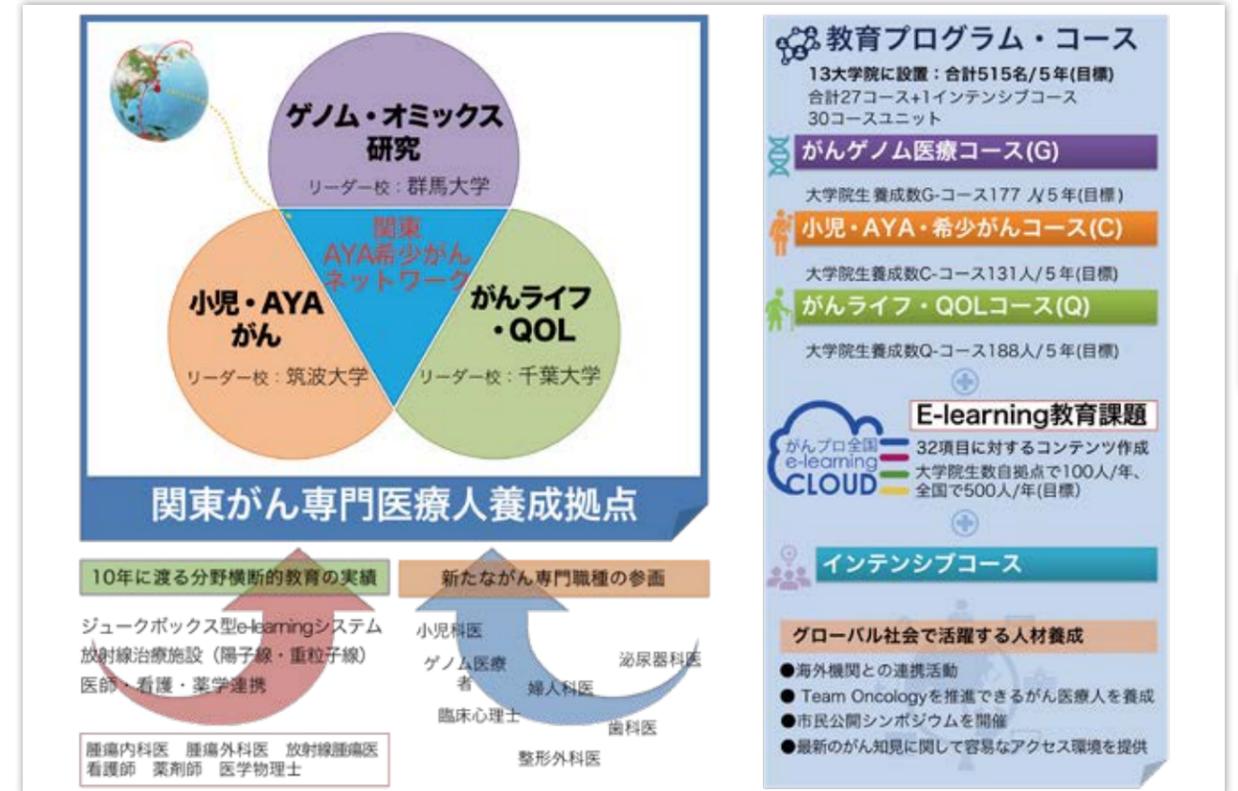
B) ゲノム・オミックス科学の臨床医学への還元不足

急速に発展するゲノム科学を始めとするomics研究、ビッグデータはがんの発生・進展メカニズム、治療薬の作用機序などの多くを明らかにしているが、日本のがん医療者がこれら先端研究の成果を十分にキャッチアップして臨床患者に還元しているとは言い難い。

C) がん医療のグローバル対応の遅れ

近年の医療者の「内向き」志向は顕著で、海外の大学や研究機関に1ヶ月以上滞在する研究者は、2000年の7674人をピークに2009年には3739人に減少した（Science 2010、p1475）。学生の海外留学も諸外国では増加傾向が続いているにもかかわらず、日本では2004年の8.3万人をピークに2011年には5.8万人へ30%以上減少している。がん医療においてもグローバル化の波は激しく押し寄せている。未来のがん医療を担う若手医療者が海外と接触する機会が減っている現状を改善しないと、日本のがん医療が世界から取り残される事が強く危惧される。

新がんプロにおいて求められる3つの柱



(1) 希少癌や小児・AYA領域に精通した人材の育成

がんの集学的治療は近年高度に専門化し、これらを担う腫瘍内科医、放射線腫瘍医、緩和医療医、医学物理士などのプロフェッショナルの存在がますます重要となっています。がん対策基本法が2006年に制定されて以降、肺がんや大腸がんなどの頻度の高いがんに対する彼らの活躍の場が広がりつつあります。一方で希少がんや小児・AYA領域に対応できる人材の育成はまだまだ十分といえる状況ではありません。医療資源や人材の不足は、いわゆる「がん難民」を生む原因となるため、分野横断的に活躍できる医療人やチーム体制づくりが今後の課題となっています。

(2) ゲノム・オミックス科学の臨床医学への還元

分子生物学は基礎医学において加速度的に発展しています。とりわけ遺伝情報を網羅的に取り扱う、ゲノム・オミックス科学は、がんの発生や進行のメカニズムを解明する上で、示唆に富む成果をあげています。しかし日本においてがんを扱う臨床家がこれら先端的な基礎研究の成果を十分に理解し活用できているとは言い難い状況にあります。がんゲノム医療を臨床医学に還元すべく、がん医療者自らが主体的に基礎医学を学ぶことが求められています。

(3) がん医療のグローバル化

情報化社会の進展に伴い、がん医療においてもグローバル化の波は激しく押し寄せています。従来の大学は狭い専門領域に閉じこもりがちでしたが、これからの医療者は多様性や柔軟性もち、激動する国際社会にいかに対応していくかが重要となるでしょう。専門や国境の壁を越えて学際的に活躍できる社会からのニーズの高い専門家を増やしていくことが期待されています。



各大学の教育プログラム・コース設置状況

大学院の教育プログラム・コース

分野	番号	教育プログラム・コース名称	設置大学名
G	1	がんゲノム医療人養成大学院コース	筑波大学
	2	がんゲノム医療人養成コース	千葉大学
	3	がんゲノム医療人養成コース	群馬大学
	4	がんゲノム医療人養成医学研究コース	日本医科大学
	5	がんゲノム医療人養成獨協コース	獨協医科大学
	6	がんゲノム医療人養成アグレッシブコース	埼玉医科大学
	7	がんゲノム医療人養成コース	東京慈恵会医科大学
C	8	小児・AYA・希少がん専門医療人養成大学院コース	筑波大学
	9	小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース	千葉大学
	10	小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース	群馬大学
	11	小児・AYA・希少がん専門医療人養成医学研究コース	日本医科大学
	12	小児・AYA・希少がん専門医療人養成獨協コース	獨協医科大学
	13	小児・AYA・希少がん専門医療人医学物理コース	茨城県立医療大学
	14	小児・AYA・希少がん専門医療人養成医学物理コース	群馬県立県民健康科学大学
	15	小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース	東京慈恵会医科大学
Q	16	包括的ライフステージサポート医療人養成大学院コース	筑波大学
	17	包括的ライフステージサポート医療人養成コース	千葉大学
	18	包括的ライフステージサポート医療人養成QOLコース	群馬大学
	19	包括的ライフステージサポート医療人養成医学研究コース	日本医科大学
	20	包括的ライフステージサポート医療人養成獨協コース	獨協医科大学
	21	包括的ライフステージサポート医療人養成アグレッシブコース	埼玉医科大学
	22	包括的ライフステージサポート医療人養成医学物理コース	茨城県立医療大学
	23	包括的ライフステージサポート医療人養成看護師コース 包括的ライフステージサポート医療人養成コース	東京慈恵会医科大学
	24	包括的ライフステージサポート医療人養成 がんチーム医療・緩和コース	昭和大学
	25	包括的ライフステージサポート医療人養成 がん医療対応専門薬剤師コース	星薬科大学
	26	包括的ライフステージサポート医療人養成 がん医療心理学コース	上智大学

インテンシブコース

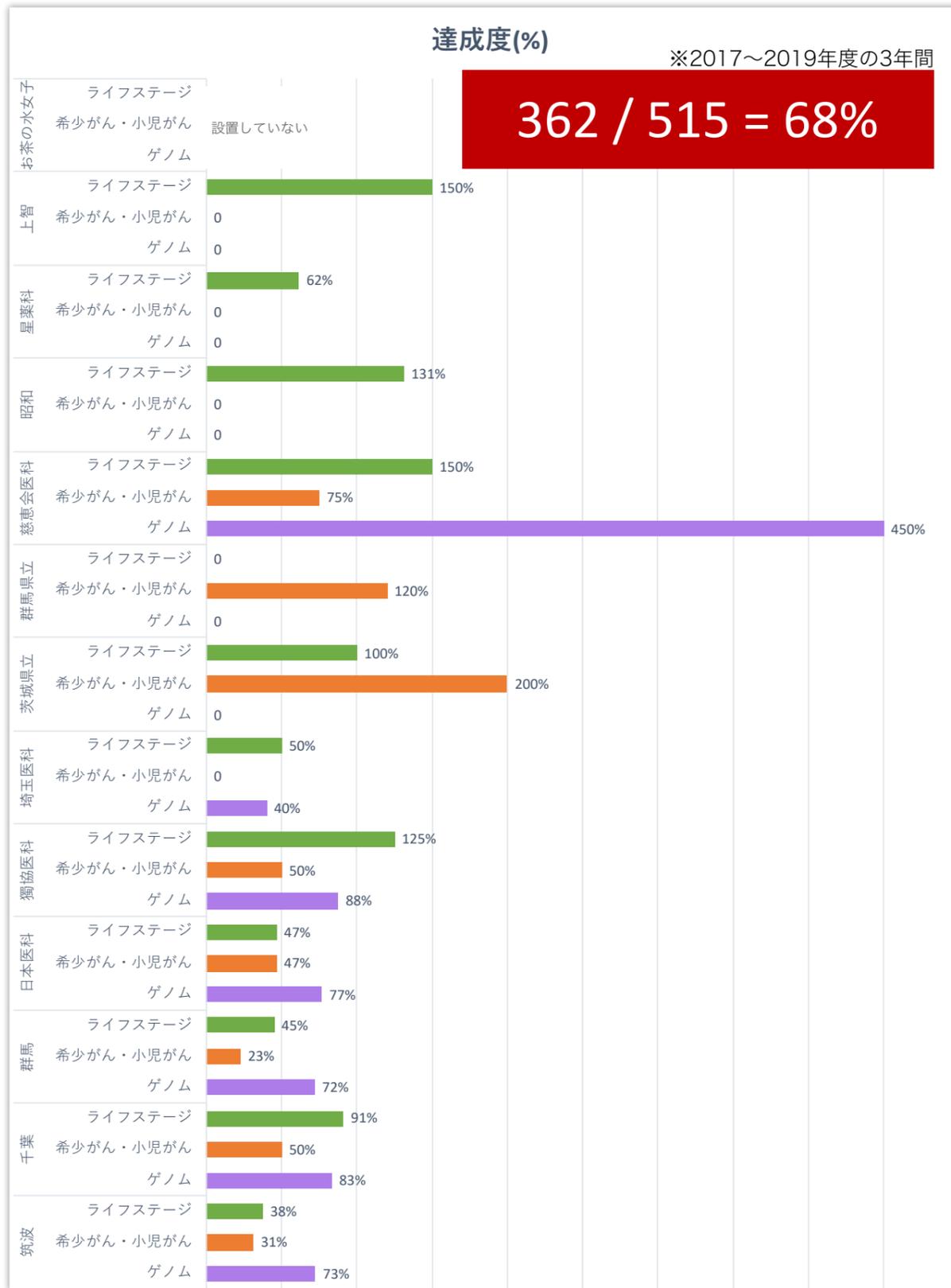
I	1	がん医療人養成インテンシブコース	筑波大学
	2	がん医療人養成インテンシブコース	千葉大学
	3	がん医療人養成インテンシブコース	埼玉医科大学
	4	がん医療人養成インテンシブコース	東京慈恵会医科大学
	5	がん医療人養成インテンシブコース	昭和大学
	6	がん医療人養成インテンシブコース	お茶の水女子大学

プログラムの取り組み



教育プログラム・コース
：受け入れ実績

大学院がんプロ正規コース生の受け入れ達成度



※「0」表示はコースを設定していない。

がんゲノム医療人養成コース

リーダ校：群馬大学

【総括】 がんゲノム医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がんゲノム医療の実地展開とケアおよび新規医療開発に寄与しうる、1.倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者 2.幅広く豊かな学識に裏打ちされた医科学分野の先端的な研究・教育能力を持つ者 3.卓越した技能を持ち、疾病の原因究明と治療戦略構築を実践できる者。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

- * 確立された最先端研究基盤（未来先端研究機構統合腫瘍学研究部門オミックス医学研究プログラム、重粒子線治療研究プログラム、ビッグデータ解析センター等）と緊密に連携したゲノム医療の教育・研究の展開
- * 専門領域ユニットとがんゲノム医療コースとを2軸とする縦横の学内および大学間持ち回りのゲノム医療教育・研究セミナー・講習会の開催
- * 多職種・多分野参加型キャンサー・ボードへのコース生の参加等による集学的・包括的ながんゲノム医療の治療方針の学習、チーム医療、患者・家族を取り巻く現状の問題点や課題認識の共有による課題解決型学習の展開
- * WHO多職種連携教育研究研修協力センターとしての機能を生かした、WHOとの取り決め事項（Terms of References）に基づいた多職種連携教育の研究・研修の導入
- * 国立がん研究センターや県内外のがん診療連携拠点病院との人材交流プログラムによるゲノム医療に関わる臨床試験やチーム医療体制の取り組みと薬物療法、放射線治療及び外科的治療含む集学的治療の役割の学習
- * モンペリエ大学やリエージュ大学等との国際的人材交流、国際セミナーの開催を通じた国際基準の包括的医療学習
- * 放射線治療最適化ゲノムプログラムなど放射線・粒子線ゲノム医療開発の最前線学習。
- * e-learningの受講による各疾患の診断・治療の効率的効果的な学習

コース修了者のキャリアパス構想

チーム医療と包括的治療の役割を自ら学び、この分野のリーダーになれる人材として、またバイオインフォマティシャンとしての展開も視野に入れ、大学、がん診療連携拠点病院などのがん医療関連施設で、実地医療、相談支援、開発研究に関わるべく養成を進める。さらに、国外の医療・研究施設や民間企業、行政においても活躍の場が得られるべく新たな道を探る。

受入目標人数

	職種等	医師	その他（薬学研究者・薬剤師）	看護師	医学修士	合計
H29 (2017)	受入目標人数	27	3	4	3	37
	受入人数	51	0	3	0	54
H30 (2018)	受入目標人数	28	4	1	3	36
	受入人数	35	1	1	0	37
R1 (2019)	受入目標人数	28	3	2	3	36
	受入人数	54	0	4	0	58

【筑波大学大学院 人間総合科学研究科】

がんゲノム医療人養成大学院コース

コンセプト

①養成すべき人材像

次世代シーケンサーの急速な普及に伴い、個人のゲノム情報を大量に得ることが可能となった。これらの情報は癌患者の診断や治療法選択のために有益であるが、一方でゲノム情報は個人情報を含むためその取扱いには注意を要する。本コースでは①ゲノム医療に関するゲノム解析能力を含めて幅広い知識を有する者②個人情報保護や倫理的諸問題に対する知識を有し、ゲノム医療を実践する上で生じる様々な問題に対して対応できる者を養成する。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

1. e-learningによる、ゲノム医療の基礎、解析法、カウンセリング、個人情報保護、倫理的諸問題についての包括的・効果的な学習環境の提供
2. がんゲノム医療に関する実習、教育研修セミナーと講習会の提供

コース修了者のキャリアパス構想

ゲノム情報に基づいた効果的な治療法の選択や倫理的・心理的諸問題に対応できる、地域のがん臨床診療拠点病院の中核となる人材を育成する。

受入目標人数

	職種等	医師	医科学修士		合計
H29 (2017)	受入目標人数	6	2		8
	受入人数	14	0		14
H30 (2018)	受入目標人数	6	2		8
	受入人数	8	0		8
R1 (2019)	受入目標人数	6	2		8
	受入人数	7	0		7
R2 (2020)	受入目標人数	6	2		8
R3 (2021)	受入目標人数	6	2		8

【千葉大学大学院医学薬学府（医学研究院/薬学研究院）

千葉大学大学院看護学研究科】

がんゲノム医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がんゲノム医療の実地展開とケアおよび新規医療開発に寄与しうる、1 倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者 2 幅広く豊かな学識に裏打ちされた医科学分野の先端的な研究・教育能力を持つ者 3 卓越した技能を持ち、疾病の原因究明と治療戦略構築を実践できる者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

それぞれの職種に応じた専門資格（がんに関する専門医など）を取得後、留学、アカデミアにおける教員、研究機関、地域がん専門病院就職など。

コース修了者のキャリアパス構想

それぞれの職種に応じた専門資格（がんに関する専門医など）を取得後、留学、アカデミアにおける教員、研究機関、地域がん専門病院就職など。

受入目標人数

	職種等	医師	看護師	その他（薬学研究 者・薬剤師）		合計
H29 (2017)	受入目標人数	8	1	3		12
	受入人数	15	2	0		17
H30 (2018)	受入目標人数	8	1	3		12
	受入人数	9	1	0		10
R1 (2019)	受入目標人数	8	1	3		12
	受入人数	19	4	0		23
R2 (2020)	受入目標人数	8	1	3		12
R3 (2021)	受入目標人数	8	1	3		12

コンセプト

①養成すべき人材像

がんゲノム医療の実地展開とケアおよび新規医療開発に寄与しうる、1 倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者 2 幅広く豊かな学識に裏打ちされた医科学分野の先端的な研究・教育能力を持つ者 3 卓越した技能を持ち、疾病の原因究明と治療戦略構築を実践できる者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

＊確立された最先端研究基盤（未来先端研究機構統合腫瘍学研究部門オミックス医学研究プログラム、重粒子線治療研究プログラム、ビッグデータ解析センター等）と緊密に連携したゲノム医療の教育・研究の展開

＊専門領域ユニットとがんゲノム医療コースとを2軸とする縦横の学内および大学間持ち回りのゲノム医療教育・研究セミナー・講習会の開催

＊多職種・多分野参加型キャンサー・ボードへのコース生の参加等による集学的・包括的ながんゲノム医療の治療方針の学習、チーム医療、患者・家族を取り巻く現状の問題点や課題認識の共有による課題解決型学習の展開

＊WHO多職種連携教育研究研修協力センターとしての機能を生かした、WHOとの取り決め事項（Terms of References）に基づいた多職種連携教育の研究・研修の導入

＊国立がん研究センターや県内外のがん診療連携拠点病院との人材交流プログラムによるゲノム医療に関わる臨床試験やチーム医療体制の取り組みと薬物療法、放射線治療及び外科的治療含む集学的治療の役割の学習

＊モンペリエ大学やリエージュ大学等との国際的人材交流、国際セミナーの開催を通じた国際基準の包括的医療学習

＊放射線治療最適化ゲノムプログラムなど放射線・粒子線ゲノム医療開発の最前線学習。

＊e-learningの受講による各疾患の診断・治療の効率的効果的な学習

コース修了者のキャリアパス構想

チーム医療と包括的治療の役割を自ら学び、この分野のリーダーになれる人材として、またバイオインフォマティシャンとしての展開も視野に入れ、大学、がん診療連携拠点病院などのがん医療関連施設で、実地医療、相談支援、開発研究に関わるべく養成を進める。さらに、国外の医療・研究施設や民間企業、行政においても活躍の場が得られるべく新たな道を探る。

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	医学修士	合計
H29 (2017)	受入目標人数	3	0	1	1	5
	受入人数	8	0	1	0	9
H30 (2018)	受入目標人数	3	1	0	1	5
	受入人数	3	1	0	0	4
R1 (2019)	受入目標人数	3	0	1	1	5
	受入人数	5	0	0	0	5
R2 (2020)	受入目標人数	3	1	0	1	5
R3 (2021)	受入目標人数	3	0	1	1	5

【日本医科大学大学院医学研究科学】

がんゲノム医療人養成医学研究コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん医療の幅広い視野に立って、がんゲノム医療領域に関する高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師・医学者の養成を行う

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

私立大学戦略的研究基盤形成事業「Clinical Rebiopsy Bank Project」を基盤とした包括的がん治療開発拠点形成によるClinical Rebiopsy Bankを基盤とした研究体制を有する。がんゲノム情報及び治療薬の副作用情報に関する研究・教育の機会が豊富に提供される。

コース修了者のキャリアパス構想

大学、大学付属病院及びがん専門病院において、がんの臨床・研究に従事、また指導者として活躍する。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	6			6
	受入人数	10			10
H30 (2018)	受入目標人数	6			6
	受入人数	4			4
R1 (2019)	受入目標人数	6			6
	受入人数	9			9
R2 (2020)	受入目標人数	6			6
R3 (2021)	受入目標人数	6			6

【獨協医科大学医学部大学病院】

がんゲノム医療人養成獨協コース

コンセプト

①養成すべき人材像

近年、遺伝子情報を利用し、個別に最適化された疾患の診断、治療、予防を実現する「ゲノム医療」への期待が急速に高まっている。また、がん医療の一部ではすでに実用化なされており、今後も急速に拡大していくことが予想される。そこで本プログラムでは遺伝子情報を解析し、その結果でテーラーメイド治療を行うための知識と実践力を身につける。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

固形癌に対する分子生物学的な診断から治療まで、幅広く遺伝子情報を駆使して個別化医療を臨床応用できるようアプローチを進める。各腫瘍のdriver geneとmutationを特定し、ピンポイントの治療による個別化医療を可能とする。分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、殺細胞性抗がん薬など治療薬をsequentialにあるいはconcurrentに使用し、根治を目指した治療の開発を行う教育をする。

コース修了者のキャリアパス構想

大学院終了時には英文論文にて学位の取得を行い、さらにポスドクとして医学研究者への教育プログラムを習得するようにする。そして臨床研究においても、遺伝子情報を用いた個別化医療に関する研究や抗癌剤の治療効果予測に関する研究に携わる部署に属するようにする。さらに国際協力連携を進めるため海外留学を積極的に推進する。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	2			2
	受入人数	3			3
R1 (2019)	受入目標人数	2			2
	受入人数	4			4
R2 (2020)	受入目標人数	2			2
R3 (2021)	受入目標人数	2			2

【埼玉医科大学大学院医学研究科】

がんゲノム医療人養成アグレッシブコース

コンセプト

①養成すべき人材像

埼玉医科大学グループ3病院におけるがん医療の専門家集団の高等教育を行い、各領域の認定・専門職の認定を目指す。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

がん患者の体細胞性および胚細胞性遺伝子変異と疾患特異性の関連を理解し、個々の患者の遺伝子情報から至適治療の選択が行える知識の習得。さらに、遺伝子解析についての基礎的な演習と実習を行う。

コース修了者のキャリアパス構想

臨床腫瘍学の専門家として、がん薬物療法専門医またはがん治療認定医の取得を目指す。さらに、遺伝専門医の資格取得を目指し、がん患者に対する適正な遺伝情報を提供するためのリーダーとなる。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	2			2
	受入人数	4			4
H30 (2018)	受入目標人数	2			2
	受入人数	0			0
R1 (2019)	受入目標人数	2			2
	受入人数	0			0
R2 (2020)	受入目標人数	2			2
R3 (2021)	受入目標人数	2			2

【東京慈恵会医科大学 大学院博士課程】

がんゲノム医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

あらゆる悪性腫瘍に対する薬物療法が実践できる人材。加えて基礎研究を通して分子標的薬のバイオマーカーの探索、薬剤耐性、発がんなどゲノム医療の実践ができる人材。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

独自の教育プログラムのもと、がん薬物療法専門医取得を目的とした臨床研修を行い、ゲノム医療の方法論を学び次世代シーケンサー等を用いた基礎研究を通してゲノム医療が実践できる人材を育成する。

コース修了者のキャリアパス構想

大学病院、関連施設における指導的立場となり、標準的がん薬物療法の普及とがん薬物療法専門医の育成、ゲノム研究での経験を生かした新薬の開発への従事。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	1			1
	受入人数	8			8
R1 (2019)	受入目標人数	1			1
	受入人数	10			10
R2 (2020)	受入目標人数	1			1
R3 (2021)	受入目標人数	1			1



小児・AYA・希少がん専門医療人
養成コース

リーダ校：筑波大学

【総括】小児・AYA・希少がん専門医療 人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児・AYA世代・希少がんの実地診療展開、粒子線がん治療などの高度医療実施、新規医療開発および心理・社会的支援に寄与しうる、1.倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者、2.卓越した技能を持ち、医学分野の先端的な研究・教育を遂行する能力を持つ者、および3.幅広く豊かな学識に裏打ちされ、様々な心理的・社会的問題を持ったがん患者を社会の様々な仕組みを利用しながら支援・解決していく実行力に溢れた者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

医学（小児科学、小児外科学、外科学、内科学、放射線医学、緩和医学、基礎医学など）、薬学、看護学、心理学における腫瘍学を基盤に、1. e-learningによる、小児・AYA世代・希少がんの診断・治療、および特有の心理的・社会的問題についての効率的・効果的な学習環境の提供 2. 多職種・多分野を交えたキャンサー・ボードへの参加や on the job training(OJT)を通じた、集学的・包括的な治療、および対象の心理的・社会的状況を踏まえた治療方針の立て方についての課題解決型学習の展開 3. 小児・AYA世代・希少がんを対象とした学位研究の展開 4. 小児・AYA世代・希少がんをテーマとする、国立がん研究センター、全国のがん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院との人材交流プログラムを活用した教育セミナー、研究セミナー、臨床試験セミナー、ケースカンファレンス、講習会の提供 5. モンペリエ大学やリエージュ大学等との国際的人材交流、国際セミナー、ケースカンファレンスの開催を通じた国際基準の包括的医療学習 6. 放射線治療最適化ゲノムプログラム、国際重粒子線がん治療研修コースへの参加、教育研究用リニアックの使用等による、小児・AYA・希少がん医療に期待される粒子線治療の最前線学習 7. 医学物理士を目指す学生への骨肉腫等の希少がんに対する重粒子線治療計画に関する学習

コース修了者のキャリアパス構想

患者の心理的・社会的問題を考慮し、求められる医療を実践でき、この分野のリーダーになれる人材として、それぞれの職種に応じた専門資格（がんに関する専門医・専門看護師・専門薬剤師・臨床心理士・医学物理士・放射線治療品質管理士・放射線治療専門放射線技師など）を取得後、大学、がん診療連携拠点病院、地域市中病院、診療所などの医療関連施設で、開発研究、実地診療、心理・社会的支援に関わるべく養成を進める。また、このような人材が活躍する場として、国立がん研究センターと連携する希少がんサテライト医療センターや大学病院等での小児・AYAがん診療センターの設立をも目指す。

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	医学物理士	合計
H29 (2017)	受入目標人数	18	1	1	2	22
	受入人数	17	0	3	0	20
H30 (2018)	受入目標人数	21	1	2	5	29
	受入人数	16	0	0	4	20
R1 (2019)	受入目標人数	20	2	2	3	28
	受入人数	15	0	0	3	18
R2 (2020)	受入目標人数	22	2	1	4	29
R3 (2021)	受入目標人数	22	1	2	4	29

【筑波大学 人間総合科学研究科】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成大学院コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児・AYA世代・希少がんの实地診療展開、新規医療開発および心理・社会的支援に寄与し、1.倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者、2.卓越した技能を持ち、医学分野の先端的な研究・教育を遂行する能力を持つ者、および3.幅広く豊かな学識に裏打ちされ、様々な心理的・社会的問題を持ったがん患者を社会の様々な仕組みを利用しながら支援・解決していく実行力に溢れた者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

1. e-learningによる、小児・AYA世代・希少がんの診断・治療、および特有の心理的・社会的問題についての効率的・効果的な学習環境の提供 2. 多職種・多分野を交えたカンサー・ボードへの参加や on the job training(OJT)を通じた、集学的・包括的な治療、および対象の心理的・社会的状況を踏まえた治療方針の立て方についての学習 3. 小児・AYA世代・希少がんを対象とした学位研究の展開 4. 小児・AYA世代・希少がんをテーマとする、全国のがん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院や海外学術協定校との人材交流プログラムを活用した教育・研究セミナー、ケースカンファレンス、講習会の提供

コース修了者のキャリアパス構想

患者の心理的・社会的問題を考慮し、求められる医療を実践でき、この分野のリーダーになれる人材として、大学、がん診療連携拠点病院、地域市中病院、診療所などの医療関連施設で、開発研究、实地診療、心理・社会的支援に関わるべく養成を進める。

受入目標人数

	職種等	医師	医学物理士		合計
H29 (2017)	受入目標人数	8	0		8
	受入人数	8	0		8
H30 (2018)	受入目標人数	8	2		10
	受入人数	9	0		4
R1 (2019)	受入目標人数	8	2		10
	受入人数	3	0		3
R2 (2020)	受入目標人数	8	2		10
R3 (2021)	受入目標人数	8	2		10

【千葉大学大学院医学薬学府（医学研究院/薬学研究院）

千葉大学大学院看護学研究科】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児・AYA世代・希少がんの实地診療展開、新規医療開発および心理・社会的支援に寄与し、1.倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者、2.卓越した技能を持ち、医学分野の先端的な研究・教育を遂行する能力を持つ者、および3.幅広く豊かな学識に裏打ちされ、様々な心理的・社会的問題を持ったがん患者を社会の様々な仕組みを利用しながら支援・解決していく実行力に溢れた者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

医学（小児科学、小児外科学、外科学、内科学、放射線医学、緩和医学、基礎医学など）、薬学、看護学における腫瘍学を基盤に、これら職種がチームとなり、小児がん、AYA世代が抱える問題点、希少がんの課題・その対応策を解決・開発する実践的実習を行う。

コース修了者のキャリアパス構想

それぞれの職種に応じた専門資格（がんに関する専門医など）を取得後、留学、アカデミアにおける教員、研究機関、地域がん専門病院就職など。

受入目標人数

	職種等	医師	看護師	その他（薬学研究 者・薬剤師）	合計
H29 (2017)	受入目標人数	4	1	1	6
	受入人数	8	2	0	10
H30 (2018)	受入目標人数	4	1	1	6
	受入人数	2	0	0	2
R1 (2019)	受入目標人数	4	1	1	6
	受入人数	3	0	0	3
R2 (2020)	受入目標人数	4	1	1	6
R3 (2021)	受入目標人数	4	1	1	6

【群馬大学大学院医学系研究科】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児・AYA・希少がん医療の実地展開とケアおよび新規医療開発に寄与しうる、1 倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者 2 幅広く豊かな学識に裏打ちされた医科学分野の先端的な研究・教育能力を持つ者 3 卓越した技能を持ち、疾病の原因究明と治療戦略構築を実践できる者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

- * 専門領域ユニットと小児・AYA・希少コースとを2軸とする縦横の学内および大学間持ち回りのゲノム医療教育・研究セミナー・講習会の開催
- * 多職種・多分野参加型キャンサー・ボードへのコース生の参加等による集学的・包括的な小児・AYA・希少がんの治療方針の学習、チーム医療、患者・家族を取り巻く現状の問題点や課題認識の共有による課題解決型学習の展開
- * 国立がん研究センター中央病院希少がんセンターや小児がん拠点病院である埼玉県立小児医療センターとの人材交流プログラムによる臨床試験やチーム医療体制の取り組みと薬物療法、放射線治療及び外科的治療含む集学的治療の役割の学習
- * WHO多職種連携教育研究研修協力センターとしての機能を生かした、WHOとの取り決め事項（Terms of References）に基づいた多職種連携教育の研究・研修の導入
- * 国立がん研究センターや県内外のがん診療連携拠点病院との人材交流プログラムによる小児・AYA・希少がん医療に関わる臨床試験やチーム医療体制の取り組みと薬物療法、放射線治療及び外科的治療含む集学的治療の役割の学習
- * モンペリエ大学やリエージュ大学等との国際的人材交流、国際セミナーの開催を通じた国際基準の包括的医療学習
- * e-learningの受講による各疾患の診断・治療の効率的効果的な学習*国際的人材交流、国際セミナーの開催を通じた国際基準の包括的医療学習
- * 放射線治療最適化ゲノムプログラム、国際重粒子線がん治療研修コースへの参加等による、小児・AYA・希少がん医療に期待される粒子線治療の最前線学習。
- * 医学物理士を目指す学生への骨肉腫等の希少がんに対する重粒子線治療計画に関する学習
- * e-learningの受講による各疾患の診断・治療の効率的効果的な学習

コース修了者のキャリアパス構想

チーム医療と包括的治療の役割を自ら学び、この分野のリーダーになれる人材として、大学、大学、がん診療連携拠点病院などのがん医療関連施設で、実地医療、相談支援、開発研究に関わるべく養成を進める。さらに、国外の医療・研究施設や民間企業、行政においても活躍の場が得られるべく新たな道を探る。また、このような人材が活躍する場として、国立がん研究センターと連携する希少がんサテライト医療センターや大学病院等でのAYAセンターの設立をも目指す

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	医学物理士	合計
H29 (2017)	受入目標人数	3	0	0	0	3
	受入人数	1	0	1	0	2
H30 (2018)	受入目標人数	3	0	1	1	5
	受入人数	2	0	0	0	2
R1 (2019)	受入目標人数	3	1	1	0	5
	受入人数	1	0	0	0	1
R2 (2020)	受入目標人数	3	1	0	1	5
R3 (2021)	受入目標人数	3	0	1	0	4

【日本医科大学大学院医学研究科】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成医学研究コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん医療の幅広い視野に立って、小児・AYA・希少がん領域に関する高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師・医学者の養成を行う。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

小児がん、特に血液がんでは、骨髄移植及び白血病治療共同研究グループの中心施設となっている。泌尿器科および整形外科領域のがんに関する研究・教育の機会が豊富に提供される。

コース修了者のキャリアパス構想

大学、大学付属病院、特定機能病院及びがん専門病院において、がんの臨床・研究に従事、また指導者として活躍する人材育成を目指す。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	3			3
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	3			3
	受入人数	3			3
R1 (2019)	受入目標人数	3			3
	受入人数	4			4
R2 (2020)	受入目標人数	3			3
R3 (2021)	受入目標人数	3			3

【獨協医科大学医学部大学病院】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成獨協コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児・AYA世代における悪性腫瘍のなかでも特に頻度の高い白血病と脳腫瘍は、近年のゲノム解析の進歩により急速に診断と治療が変化しており、これらに関する最新の知識を習得して、最適な診療ができるようになるとともに、更なる進歩を目指した基礎研究、臨床研究に積極的に貢献できる人材の育成を目指す。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

臨床と研究のスムーズな連携が本学の特色でもあり、それを活用した効率的な学習が可能になる。

コース修了者のキャリアパス構想

引き続き本学のジュニアスタッフとして臨床と研究に従事する環境を整備するとともに、学内給付制度を用いた海外留学を奨励する予定である。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	1			1
	受入人数	1			1
R1 (2019)	受入目標人数	1			1
	受入人数	1			1
R2 (2020)	受入目標人数	1			1
R3 (2021)	受入目標人数	1			1

【茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科】

小児・AYA・希少がん専門医療人医学物理コース

コンセプト

①養成すべき人材像

放射線治療は重粒子線、陽子線など多様化・複雑化しており、今後世界を視野に入れた放射線治療に関わる医療者の養成を考えた場合、これら先端技術設備を使った実習、教育は不可欠である。また、小児、AYA世代の放射線治療は、治療後の生存期間が長い場合合併症の少ない放射線治療が求められる。そのためには、放射線をピンポイントで正確にがん照射する技術が必要である。重粒子線、陽子線などは本邦の治療施設数の2%程度であり、多くはX線および電子線によるリニアックを使用した施設である。教育研究用リニアック（付属機器を含む。）を有している本学の特徴を生かし、小児がん放射線治療の安全な治療技術の提供と合併症に大きな影響を及ぼす治療精度の向上を目的とした実践研究を展開できる人材の養成を行う。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

教育研究用リニアックを有している本学の特徴を生かし、将来携わる機会があるリニアックを用いた治療において実践的な技術の習得機会を提供する。現在の医学物理士教育は、放射線治療領域においては知識・技能の習得を主体としている。小児がん放射線治療の安全な治療技術の提供と合併症に大きな影響を及ぼす治療精度の向上を目的としたより専門的な研究を展開していく。これまで本学で行ってきた体外指標を使用した小児がん放射線治療の照射位置精度改善と線量分布の再現性向上に関する研究を進展させ、医学物理の観点から恒常的に小児がん放射線治療が安全に行える体系開発を行う。

コース修了者のキャリアパス構想

本学では、深い専門性を持ちつつ、近い将来の地域放射線治療技術におけるリーダーを託すことができる能力を備えた人材を養成します。また、多角的な視野で専門的な知識を用いて課題を発見し、統合的解決策をデザインし、多職種と連携して実行できる能力を備えた人材を養成します。地域の放射線治療施設で活躍できる医学物理士を目指します。

受入目標人数

	職種等	医学物理士			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	0			0
	受入人数	3			3
R1 (2019)	受入目標人数	1			1
	受入人数	1			1
R2 (2020)	受入目標人数	0			0
R3 (2021)	受入目標人数	1			1

【群馬県立県民健康科学大学大学院 診療放射線学研究科】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成医学物理コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児・AYA・希少がん等に対応できる癌専門医療人、特に重粒子線、陽子線など高度に複雑化する放射線治療を担う医療人（医学物理士・放射線治療専門技師）、多様な新しいニーズに対応し集学的医療において活躍できる人材

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

正確な診断や集学的医療において、がんの放射線治療では、医師、看護師、薬剤師、医学物理士、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師等がそれぞれの役割を担っており、相互の専門性とその協力によるチーム医療の結果としての集学的医療が成り立っている。本学のコースでは、これまでに培った放射線技術に関する基礎教育と継続教育の知識をベースとして小児・AYA・希少がん等に対応できる人材を養成する。また、放射線治療に関わる医学物理士や診療放射線技師等の継続教育の充実を目指して講習および講演等を行う。

コース修了者のキャリアパス構想

医学物理士および放射線治療専門放射線技師等の資格を取得し、放射線治療分野における癌治療の専門職として日本のがん治療水準の向上に貢献する。博士後期課程に進み、重粒子線治療を初めとした最先端医療技術の発展に寄与できる研究者となる。

受入目標人数

	職種等	医師	医学物理士		合計
H29 (2017)	受入目標人数	0	1		1
	受入人数	0	2		2
H30 (2018)	受入目標人数	0	1		1
	受入人数	0	1		1
R1 (2019)	受入目標人数	0	1		1
	受入人数	0	3		3
R2 (2020)	受入目標人数	0	1		1
R3 (2021)	受入目標人数	0	1		1

【東京慈恵会医科大学 医学研究科博士課程】

小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

小児悪性腫瘍に対する標準的治療が行えると共に、小児・AYA世代のがんサバイバーを取り巻く諸問題（就学、就職、心理など）を理解し、これらの問題に対応できる人材と家族性腫瘍の遺伝相談や発症年齢（ライフサイクル）による最適な治療の提供がおこなえる遺伝カウンセラーとなる人材

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

独自の教育プログラムを通して、小児の悪性腫瘍に対する医療を緩和医療・在宅医療支援・社会的問題を含め網羅的に学び、がん医療専門資格（小児血液腫瘍専門医）の取得すると共に、遺伝カウンセリング（臨床遺伝専門医）ができる人材の育成を行う。

コース修了者のキャリアパス構想

大学病院、関連施設における指導的立場となり、自施設にとどまらず全国の小児がん医療人の育成と遺伝カウンセラーの人材育成を通して社会貢献を行う。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	1			1
	受入人数	1			1
R1 (2019)	受入目標人数	1			1
	受入人数	2			2
R2 (2020)	受入目標人数	1			1
R3 (2021)	受入目標人数	1			1

包括的ライフステージサポート 医療人養成コース

リーダ校：千葉大学

【総括】 包括的ライフステージサポート 医療人養成コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん専門家として、がんの病態、がん患者の身体的・精神的症状の機序とそれらへの対処法を理解し実践できることを基本とし、小児、AYA世代、就労世代、高齢者などライフステージそれぞれ固有の課題を患者と家族の関係において分析した上でその対応策を研究開発できる人材を養成する。外科治療、薬物治療、放射線治療、緩和ケア、歯科治療、がん専門看護、がん薬学、がん理学・作業療法、臨床心理など特定の職種のみでは解決が困難な問題に対しては、医療者間はもちろん非医療職を含む多様な職種と連携し、がん医療を社会全体の問題の中で解決でき、またコンサルテーションに対応できることを目標とする。その前提として、1.倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者 2.幅広く豊かな学識に裏打ちされた医科学分野の先端的な研究・教育能力を持つ者 3.卓越した技能を持ち、疾病の原因究明と治療戦略構築を実践できる者を養成する。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

医学（外科学、内科学、放射線医学、緩和医学など）、薬学、看護学における腫瘍学を基盤に、これら職種がチームとなり、分野横断的なオンコロジーカンファレンスやカンサーボードなどを通じて、ライフステージそれぞれ固有の課題・その対応策を社会全体のなかで捕らえて解決する実践的実習を行う。上智大学博士課程におけるがん医療心理学専攻は本邦唯一のものであり、これがチーム医療実習に参画することにより、連携大学の他職種に対する大きな波及効果が期待できることは本プログラムの特徴のひとつである。筑波大、群馬大、千葉大などにおける国際的人材交流・国際セミナーにはそれ以外の連携大学も利用することができる。

コース修了者のキャリアパス構想

それぞれの職種に応じた専門資格（がんに関する専門医など）を取得後、留学、アカデミアにおける教員、地域がん専門病院就職など。

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	医学物理士	臨床心理士	歯科医師	合計
H29 (2017)	受入目標人数	21	3	5	3	0	0	32
	受入人数	31	3	5	2	3	0	44
H30 (2018)	受入目標人数	26	7	6	2	1	1	43
	受入人数	29	5	15	0	1	3	53
R1 (2019)	受入目標人数	26	6	7	3	1	1	44
	受入人数	30	4	4	1	0	3	42
R2 (2020)	受入目標人数	25	6	7	3	1	0	42
R3 (2021)	受入目標人数	25	5	8	2	1	0	41

コンセプト

①養成すべき人材像

対象のライフステージを踏まえ、常にQOLの回復・維持・向上を視座に入れて、がん医療を実践できる人材を養成する。具体的な養成すべき人材像は以下の通りである。

- 1.対象のライフステージに対応した健康上の問題と課題を特定し、解決策を講じることができる。
- 2.CureとCareの融合による高度な知識、技術を駆使して、診断から治療、療養過程の全般を管理・実践できる。
- 3.国際社会や地域社会の現状を適切にとらえ、かつ、対象のQOLの回復・維持・向上に寄与する先端的な研究および教育を行う能力を身に着けることができる。
- 4.保健医療福祉に携わる人々と連携し、必要なケアを円滑に提供できるように、多職種の専門性を理解して、専門の異なる職種の学生と良好なコミュニケーションをとることができる。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

- 1.e-learningによる、各疾患の診断・治療、およびライフステージに特有の健康問題についての効率的・効果的な学習環境の提供
- 2.多職種・多分野を交えたキャンサー・ボードへの参加を通じた、集学的・包括的な治療、および対象のQOLおよびライフステージを踏まえた治療方針の立て方についての学習
- 3.臨地実習（臨床実践）を通して、対象のライフステージに特有な健康問題・課題を特定し、患者・家族主体の医療を展開する能力を養う、課題解決型学習の実施
- 4.対象のライフステージを特定し、かつ、健康関連QOLをoutcome指標に持つ、学位研究の展開
- 5.ライフステージ・QOLをテーマとする、がん診療連携拠点病院や海外学術協定校との人材交流プログラムを活用した教育・研究セミナーや講習会の提供

コース修了者のキャリアパス構想

患者のQOLを考慮し、求められる医療と必要とされる医療について考え、実践でき、この分野のリーダーになれる人材として、大学、がん診療連携拠点病院などのがん医療関連施設で、実地医療、相談支援、開発研究に関わるべく養成を進める。さらに、国外の医療・研究施設や民間企業においても活躍の場が得られるべく新たな道を探る。また、修練した知識を生かし、心理的ケアや地域連携等を通じて治療環境への配慮が行える人材として行政にも携わる道を開く。

受入目標人数

職種等	医師	医学物理士	看護師(修士)	看護師(博士)	合計	
H29 (2017)	受入目標人数	4	0	0	4	
	受入人数	4	1	0	5	
H30 (2018)	受入目標人数	4	2	2	1	9
	受入人数	3	0	1	0	4
R1 (2019)	受入目標人数	4	2	2	1	9
	受入人数	6	0	0	0	6
R2 (2020)	受入目標人数	4	2	2	1	9
R3 (2021)	受入目標人数	4	2	2	1	9

コンセプト

①養成すべき人材像

がん専門家として、がんの病態、がん患者の身体的・精神的症状の機序とそれらへの対処法を理解し実践できることを基本とし、小児、AYA世代、就労世代、高齢者などライフステージそれぞれ固有の課題・その対応策を研究開発できる人材を養成する。特定の職種のみでは解決が困難な問題に対しては、医療者間はもちろん非医療職を含む多様な職種と連携し、がん医療を社会全体の問題の中で解決できることを目標とする。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

医学（小児科学、小児外科学、外科学、内科学、放射線医学、緩和医学、基礎医学など）、薬学、看護学における腫瘍学を基盤に、これら職種がチームとなり、小児がん、AYA世代が抱える問題点、希少がんの課題・その対応策を解決・開発する実践的実習を行う。

コース修了者のキャリアパス構想

それぞれの職種に応じた専門資格（がんに関する専門医など）を取得後、留学、アカデミアにおける教員、研究機関、地域がん専門病院就職など。

受入目標人数

	職種等	医師	薬学	看護師		合計
H29 (2017)	受入目標人数	6	1	2		9
	受入人数	16	4	0		20
H30 (2018)	受入目標人数	6	1	2		9
	受入人数	5	4	0		9
R1 (2019)	受入目標人数	6	1	2		9
	受入人数	8	4	0		12
R2 (2020)	受入目標人数	6	1	2		9
R3 (2021)	受入目標人数	6	1	2		9

【群馬大学大学院医学系研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成QOLコース

コンセプト

①養成すべき人材像

多様なライフステージに応じたがん医療の実地展開とケアおよび新規医療開発に寄与しうる、1 倫理観と使命感を持って、医学・医療・福祉分野で活躍し、国際社会や地域社会に貢献できる者
2 幅広く豊かな学識に裏打ちされた医科学分野の先端的な研究・教育能力を持つ者 3 卓越した技能を持ち、疾病の原因究明と治療戦略構築を実践できる者

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

- * 専門領域ユニットライフステージ・QOLコースとを2軸とする縦横の学内および大学間持ち回りのゲノム医療教育・研究セミナー・講習会の開催
- * 多職種・多分野参加型キャンサー・ボードへのコース生の参加等による集学的・包括的なライフステージに応じたがん医療・QOL向上を目的としたがん医療の治療方針、必要とされる精神的・肉体的・社会的ケアの学習。
- * チームによる医療とケア、患者・家族を取り巻く現状の問題点や課題認識の共有による課題解決型学習の展開
- * 高齢者、勤労者、学生・生徒・児童、小児等ライフステージに応じたがん医療とケアをテーマとした学位研究の展開
- * WHO多職種連携教育研究研修協力センターとしての機能を生かした、WHOとの取り決め事項（Terms of References）に基づいた多職種連携教育の研究・研修の導入
- * がん診療連携拠点病院との人材交流プログラムによるライフステージに応じたがん医療とケアに関わる臨床試験やチーム医療体制の取り組みと薬物療法、放射線治療及び外科的治療含む集学的治療の役割の学習、地域ニーズにあった医療の展開学習
- * モンペリエ大学やリエージュ大学等との国際的人材交流、国際セミナーの開催を通じた国際基準の包括的医療学習
- * 放射線治療最適化ゲノムプログラム、国際重粒子線がん治療研修コースへの参加等による、ライフステージに応じたがん医療に期待される粒子線治療の最前線学習。
- * e-learningの受講による各疾患の診断・治療の効率的効果的な学習
- * がん医療における口腔ケア教育の導入、歯科衛生士の教育参画

コース修了者のキャリアパス構想

患者のQOLを考慮し、求められる医療と必要とされる医療について考え、実践でき、この分野のリーダーになれる人材として、大学、がん診療連携拠点病院などのがん医療関連施設で、実地医療、相談支援、開発研究に関わるべく養成を進める。さらに、国外の医療・研究施設や民間企業においても活躍の場が得られるべく新たな道を探る。また、修練した知識を生かし、心理的ケアや地域連携等を通じて治療環境への配慮が行える人材として行政にも携わる道を開く。

受入目標人数

	職種等	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	合計
H29 (2017)	受入目標人数	3	0	0	1	4
	受入人数	1	0	0	1	2
H30 (2018)	受入目標人数	3	0	1	0	4
	受入人数	4	0	0	0	4
R1 (2019)	受入目標人数	3	0	0	1	4
	受入人数	3	0	0	0	3
R2 (2020)	受入目標人数	3	0	1	0	4
R3 (2021)	受入目標人数	3	0	0	1	4

【日本医科大学大学院医学研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成医学研究コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん医療の幅広い視野に立って、小児・AYA・希少がん領域に関する高度の専門的知識と医療倫理を備えた愛と研究心を有する医師・医学者の養成を行う。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

分野横断的なオンコロジーカンファレンス、カンサーボードが実体を持って活動している。また、副作用を専門とする教員が多領域に所属している。緩和治療及び抗がん剤の副作用情報、各ライフステージにおけるがん医療に関する研究・教育の機会が豊富に提供される。

コース修了者のキャリアパス構想

大学、大学付属病院、特定機能病院及びがん専門病院において、がんの臨床・研究に従事、また指導者として活躍する人材育成を目指す。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	6			6
	受入人数	7			7
H30 (2018)	受入目標人数	6			6
	受入人数	3			3
R1 (2019)	受入目標人数	6			6
	受入人数	4			4
R2 (2020)	受入目標人数	6			6
R3 (2021)	受入目標人数	6			6

【獨協医科大学医学部大学病院】

包括的ライフステージサポート医療人養成獨協コース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん患者の生活における精神面、身体面でのQOLを、治療開始時から支えることができるよう、がんが患者さんの人生にもたらす問題とその解決方法について十分な知識を持ち、実行することができる人材を育成する。さらにがん治療時の口腔ケアは、各ライフステージでQOLを改善するため、その科学的なマネジメントができる人材の育成を目標とする。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

本学では腫瘍センターにおける緩和ケア部とがん相談支援部門がactiveに活動しており、ここを場とした臨床の需要に即した実際的な研修と研究が可能である。

コース修了者のキャリアパス構想

引き続き本学のジュニアスタッフとして臨床と研究に従事する環境を整備するとともに、学内給付制度を用いた海外留学を奨励する予定である。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	1			1
	受入人数	4			4
R1 (2019)	受入目標人数	1			1
	受入人数	1			1
R2 (2020)	受入目標人数	1			1
R3 (2021)	受入目標人数	1			1

【埼玉医科大学大学院医学研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成アグレッシブコース

コンセプト

①養成すべき人材像

埼玉医科大学グループ3病院におけるがん医療の専門家集団の高等教育を行い、各領域の認定・専門職の認定を目指す。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

がん患者の治療成功のための支持療法についての実習と演習を行う。また、終末期医療の管理を行える緩和ケアチームのリーダーを育成する。

コース修了者のキャリアパス構想

臨床腫瘍学の専門家として、がん薬物療法専門医またはがん治療認定医の取得を目指す。さらに、緩和専門医の資格取得を目指し、がん患者に対する適正な支持療法を提供するためのリーダーとなる。

受入目標人数

	職種等	医師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	2			2
	受入人数	3			3
H30 (2018)	受入目標人数	2			2
	受入人数	0			0
R1 (2019)	受入目標人数	2			2
	受入人数	2			2
R2 (2020)	受入目標人数	2			2
R3 (2021)	受入目標人数	2			2

【茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成医学物理コース

コンセプト

①養成すべき人材像

本邦の放射線治療施設数の2%程度であり、多くはX線および電子線によるリニアックを使用した施設である。研究用リニアックを有している本学の特徴を生かし、実践的な放射線治療技術を地域放射線治療のために発揮でき、がんに関する専門的、学際的または総合的な研究を推進できるとともに、放射線治療等に係る技術の向上とその研究等の成果を普及できる人材を養成する。就労年代や高齢の患者にとって、社会的地位と療養生活の質の維持向上を目指した放射線治療のプロセスを再構築し、負担の少ない最適な放射線治療の提供を医学物理的観点からアプローチできる人材を養成する。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

教育研究用リニアックを有している本学の特徴を生かし、実践的な放射線治療技術の教育を提供するとともに、がんに関する専門的、学際的又は総合的な研究を推進するとともに、ライフステージに応じたQOLに優れた放射線治療技術の向上とその研究等の成果を普及する。就労年代や高齢の患者にとって、社会的地位と療養生活の質の維持向上を目指した放射線治療のプロセスを再構築し、負担の少ない最適な放射線治療の提供を医学物理的観点からアプローチする。

コース修了者のキャリアパス構想

本学では、深い専門性を持ちつつ、近い将来の地域放射線治療技術におけるリーダーを託すことができる能力を備えた人材を養成します。また、多角的な視野で専門的な知識を用いて課題を発見し、統合的解決策をデザインし、多職種と連携して実行できる能力を備えた人材を養成します。地域のがん診療拠点病院等で活躍できる医学物理士を目指します。

受入目標人数

	職種等	医学物理士			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0			0
	受入人数	1			1
H30 (2018)	受入目標人数	1			1
	受入人数	0			0
R1 (2019)	受入目標人数	0			0
	受入人数	1			1
R2 (2020)	受入目標人数	1			1
R3 (2021)	受入目標人数	0			0

コンセプト

【看護師】 ライフステージと治療経過に応じてQOLを維持向上できるよう、生活の場や治療機関、フォローアップ機関など治療過程に伴うあらゆる局面の連携をとり、多職種とともにチーム医療を実践できる看護師がん看護高度実践看護師コース

【医師】 がん種を問わず、全てのがんサバイバー、あらゆるライフステージのニーズに対応できるサポートケア（緩和医療を含む）の提供できる人材の育成。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

【看護師】 集学的治療を受ける患者のライフステージや生活背景、患者個々の価値観に応じたQOL向上をめざす治療・ケアを行う力を育成する。がん患者は、治癒や緩和を求め、治療機関やその後フォローアップをする病院など、複数の機関を往来する。このようながん患者のQOLを維持向上するには、生活の場だけではなく治療の場も含めて地域としてとらえ、チーム医療を基盤とし、緩和医療、心理学的配慮の実践ができる人材の育成を行う。

【医師】 独自の教育プログラムのもと、個々の患者のライフステージ・ライフスタイルに応じたQOLの向上・維持を目指した集学的治療（薬物療法、放射線治療、IVR、がんリハビリ、心理療法、カウンセリングなど）を学び、がん医療に関連した専門医（緩和医療専門医・放射線治療専門医・がんリハビリテーション資格）を取得する。同時にこれらの領域に関する基礎的・臨床的研究を通して新しい知見を得る。

コース修了者のキャリアパス構想

【看護師】 がん看護専門看護師として、がんの先端治療を推進する病院や、緩和ケア施設、療養する地域においてリーダー的立場となり、良質ながん医療の実践、ならびにがん看護の質の向上に貢献する。

【医師】 大学病院、関連施設における指導的立場となり、全国のがん医療人育成のための人材育成に貢献する。

受入目標人数

	職種等	医師	看護師			合計
H29 (2017)	受入目標人数	0	0			0
	受入人数	0	0			0
H30 (2018)	受入目標人数	1	1			2
	受入人数	4	3			7
R1 (2019)	受入目標人数	1	1			2
	受入人数	5	0			5
R2 (2020)	受入目標人数	1	1			2
R3 (2021)	受入目標人数	1	1			2

【昭和大学】

包括的ライフステージサポート医療人養成 がんチーム医療・緩和コース

コンセプト

①養成すべき人材像

医系総合大学の昭和大学の特色を活かし、各領域に共通するがん患者に対するケア・疼痛緩和の基本知識・技能・態度を修得するとともに、各専門分野の知識・技能も学習し、チーム医療を基盤とするがん患者のケアを実践できるの専門家を養成する。講義・演習を通して、終末期がん患者に対する在宅ケアを含むチーム医療によるアプローチと他職種の専門性について学習し、がんチーム医療の中心となる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、作業・理学療法士を育成する。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

医系総合大学の昭和大学の特色を活かし、がん患者に対するケア・疼痛緩和の各領域に共通する基本知識・技能・態度と各専門領域の知識・技能について学習するとともに、「4大学院がんチーム医療」では4大学院（昭和大学、東京慈恵会医科大学、星薬科大学、上智大学）が連携した多職種ワークショップ、グループ討議、ロールプレイを組み合わせた問題解決型学習を実施する。

コース修了者のキャリアパス構想

臨床腫瘍学の専門家として、がん薬物療法専門医またはがん治療認定医の取得を目指す。さらに、緩和専門医の資格取得を目指し、がん患者に対する適正な支持療法を提供するためのリーダーとなる。

受入目標人数

	職種等	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	合計
H29 (2017)	受入目標人数	0	0	0	0	0
	受入人数	0	0	0	0	0
H30 (2018)	受入目標人数	1	1	1	1	4
	受入人数	6	3	4	7	20
R1 (2019)	受入目標人数	1	1	1	1	4
	受入人数	1	0	0	0	1
R2 (2020)	受入目標人数	1	1	1	1	4
R3 (2021)	受入目標人数	1	1	1	1	4

【星薬科大学大学院薬学研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成 がん医療対応専門薬剤師コース

コンセプト

①養成すべき人材像

本学が世界に先駆けて展開している「包括的がん・緩和医療分子生物学研究」を理解し、十分な知識と柔軟な発想のもと、がん医療の現場において患者のライフステージに応じて通常療法から補完代替療法までの専門的なファーマシューティカルケアに対応できる包括的がん薬物療法管理専門薬剤師の養成。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

医師・看護師・臨床心理士とチームを組み、ケーススタディを通して実践的な考え方や対応、患者のQOLに配慮した医療の在り方について討議し、複雑な背景を持つがん患者の適切な治療・ケアについて学修し、がん医療に特化した薬剤師を養成する。

コース修了者のキャリアパス構想

- ①病院薬剤師として緩和ケア病棟等を担当し、チーム医療の一員としての役割を十分に果たせる薬剤師の養成
- ②調剤薬局の薬剤師として勤務し、在宅医療・地域医療において終末期における痛みのケアや病院（医師）との橋渡しができる薬剤師の養成

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	合計
H29 (2017)	受入目標人数		1	1
	受入人数		3	3
H30 (2018)	受入目標人数		3	3
	受入人数		1	1
R1 (2019)	受入目標人数		3	3
	受入人数		4	4
R2 (2020)	受入目標人数		3	3
R3 (2021)	受入目標人数		3	3

【上智大学大学院総合人間科学研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成 がん医療心理学コース

コンセプト

①養成すべき人材像

人は、「がん」に罹患した時、様々な心理的な反応を示す。それは、その個人のそれまでの体験や家族関係、友人関係や職場環境、地域社会との関係や信仰等に影響されているものと考えられる。そして、それぞれのライフステージに応じて留意すべき点、関係の持ち方、周囲の資源の活用方法は異なっており、配慮しなければならない点が多い。

また、「がん」とともに生きるということは、様々な選択を強いられることであり、様々な喪失を抱えて生きるということでもある。その痛みは、本人のみならず、ライフステージに応じて家族や友人にも異なる影響を及ぼす。

本コースでは、そのような個別性のある衝撃や痛み、様々な選択への迷いや喪失とともに生きるがん患者とその家族へのアセスメントと支援ができ、コンサルテーション等チームに対しても貢献できる臨床心理士の養成を目指す。さらに、この分野で今後リーダーシップを取っていくことができ、これから先多くのこの領域で活躍できる臨床心理士を養成できる臨床家／研究者の養成をも目指す。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

臨床心理学を教える大学院は数多くあるが、上智大学での臨床心理学分野での人材養成は50年以上の伝統を持ち、数多くの優秀な臨床家や研究者を輩出している。その基盤の上に、2013年度に博士後期課程においてがん医療心理学のコースを立ち上げたが、がん医療に貢献できる臨床心理士の教育を行おうとする大学院は本学が日本で最初であり、現在までのところ他にはない。これを活かし、さらに充実させる。

心理学の大学院において、他大学院と連携し、医学や薬学の最新知識にも触れることができることは画期的なことである。また、医学や薬学、看護学の大学院生に対し、最新で専門的かつ幅広い心理学の知見に触れてもらうことが可能になる。

さらに、心理学を含んだ生きたチーム医療を体験し、創り出していくことが期待される。

コース修了者のキャリアパス構想

緩和ケア病棟の臨床心理士、総合病院でリエゾンを行う臨床心理士、小児病棟や婦人科病棟に関わる臨床心理士等

大学でがん医療心理学を教えることのできる研究者兼臨床家

受入目標人数

	職種等	医師	臨床心理士		合計
H29 (2017)	受入目標人数		0		0
	受入人数		3		3
H30 (2018)	受入目標人数		1		1
	受入人数		1		1
R1 (2019)	受入目標人数		1		1
	受入人数		2		2
R2 (2020)	受入目標人数		1		1
R3 (2021)	受入目標人数		1		1



インテンシブコース

【総括】 インテンシブコース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者が、1.ゲノム医療 2.小児・AYAがん 3.ライフステージ癌といった新たな社会ニーズとして求められている癌専門領域の知識を持つ事を目的とする。大学院教育水準で作成されたe-learning教育コンテンツを使って学習する事で、個々の専門領域に加えて、がんゲノム医療、AYA世代のがん、緩和・支持医療などがん診療をとりまく課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

基本的知識については、e-learningを活用し教育を行う。

そのうえで、がんゲノム医療では、On the Job Trainingを重視し、知識だけでなく実際の医療現場で応用できる人材を育成する。

小児・AYA世代がんでは、治療前の妊孕性温存、治療後の長期間に渡るフォローアップなどの現代社会が抱えている諸問題に焦点を当てたセミナー・シンポジウムを毎年開催し理解を深める。

ライフステージがん医療ではがん患者の治療成功のための支持療法、痴呆に対するがん治療についての実習と演習を行う。また、終末期医療の管理を行える緩和ケアチームのリーダーを育成する。

コース修了者のキャリアパス構想

ゲノム・小児・AYA・希少がんの情報に基づいた効果的な治療法の選択や ライフステージに応じたがん医療を熟知し倫理的・心理的諸問題に対応できる、地域のがん臨床診療拠点病院の中核となる人材を育成する。

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	放射線技師	ケアマネジャー	看護系教員	その他	合計
H29 (2017)	受入目標人数	30							30
	受入人数	1	1	31	0	0	8	7	48
H30 (2018)	受入目標人数	34							34
	受入人数	1	2	71	0	6	1	8	89
R1 (2019)	受入目標人数	80							80
	受入人数	18	1	22	0	0	0	5	46
R2 (2020)	受入目標人数	80							80
R3 (2021)	受入目標人数	80							80

【埼玉医科大学大学院医学研究科】

包括的ライフステージサポート医療人養成インテンシブコース

コンセプト

①養成すべき人材像

埼玉医科大学グループ3病院におけるがん医療の多職種専門家集団に対して緩和・支持医療の高等教育を行い、各領域の認定・専門職の育成を行う。同時に、地域包括的ケアを目指して、近隣の多職種の医療従事者にも高度な知識を習得してもらう。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

がん患者の治療成功のための支持療法についての実習と演習を行う。また、終末期医療の管理を行える緩和ケアチームのリーダーを育成する。

コース修了者のキャリアパス構想

包括ケアシステムの中の地域がん診療拠点病院の要件にある専門職となる。地域連携のコーディネーターとなる。

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	放射線技師	ケアマネジャー	看護系教員	その他	合計
H29 (2017)	受入目標人数	30							30
	受入人数	1	1	31	0	0	8	7	48
H30 (2018)	受入目標人数	30							30
	受入人数	29	5	15	0	1		3	53
R1 (2019)	受入目標人数	30							30
	受入人数	30	4	4	1	0		3	42
R2 (2020)	受入目標人数	30							30
R3 (2021)	受入目標人数	30							30

【お茶の水女子大学】

インテンシブコース

コンセプト

関東がんプログループが中心に推進する全国がんプロe-learning教材をお茶の水女子大の遺伝カウンセラー養成コースの教材として提供する。癌以外の遺伝病を主な対象として活動している学生に対して、がんにおける遺伝学の必要性を理解させ、本分野への参画を促す。一方、関東がんプログループに不足している遺伝カウンセラーという職種の参画により、医師、看護師を初めとするがん専門多職種との連携が可能になる。

今後、ゲノム解読等で得られる遺伝情報の医療応用が一般化されたとしても、ただそれをそのまま提供しても患者は判断ができない。医療の場で、患者やその家族が最良の決定を行えるように、遺伝情報と疾患の正しい知識や、利用できる医療や社会支援等についての情報をわかりやすく提供するテクニックがあってこそ、遺伝情報が活かされる。

遺伝カウンセラーの教育の必要性は、本事業の取組の3本の柱である・ゲノム医療・小児・AYA・希少がん・ライフステージに応じたがん医療 全てとつながるものである。

また、専門カウンセラー以外でも、職種を越えて基本的な遺伝カウンセリングを知ることが、必要であると考えられる。

お茶の水女子大学は日本遺伝カウンセリング学会および日本人類遺伝学会の認定遺伝カウンセラー制度委員会によって、認定養成課程としての承認を受けており、大学院教育にてその専門性を高めることに力を入れている教育機関である。非医療系の大学であることから、医療系にない視点にもたち、関東がん専門医療人養成拠点において、相互に稔り多い連携が取れることを確信している。

受入目標人数

	職種等	遺伝カウンセラー	合計
H29 (2017)	受入目標人数	-	-
	受入人数	-	-
H30 (2018)	受入目標人数	4	4
	受入人数	4	4
R1 (2019)	受入目標人数	4	4
	受入人数	4	4
R2 (2020)	受入目標人数	4	4
R3 (2021)	受入目標人数	4	4

【関東がんプロ6大学連携（2019年新設）】

がん専門医療人養成インテンシブコース

コンセプト

①養成すべき人材像

がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者が、1.ゲノム医療 2.小児・AYAがん 3.ライフステージ癌といった新たな社会ニーズとして求められている癌専門領域の知識を持つ事を目的とする。大学院教育水準で作成されたe-learning教育コンテンツを使って学習する事で、個々の専門領域に加えて、がんゲノム医療、AYA世代のがん、緩和・支持医療などがん診療をとりまく課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。

②教育内容の特色等（新規性・独創性等）

基本的知識については、e-learningを活用し教育を行う。

そのうえで、がんゲノム医療では、On the Job Trainingを重視し、知識だけでなく実際の医療現場で応用できる人材を育成する。

小児・AYA世代がんでは、治療前の妊孕性温存、治療後の長期間に渡るフォローアップなどの現代社会が抱えている諸問題に焦点を当てたセミナー・シンポジウムを毎年開催し理解を深める。

ライフステージがん医療ではがん患者の治療成功のための支持療法、痴呆に対するがん治療についての実習と演習を行う。また、終末期医療の管理を行える緩和ケアチームのリーダーを育成する。

コース修了者のキャリアパス構想

ゲノム・小児・AYA・希少がんの情報に基づいた効果的な治療法の選択や ライフステージに応じたがん医療を熟知し倫理的・心理的諸問題に対応できる、地域のがん臨床診療拠点病院の中核となる人材を育成する。

受入目標人数

	職種等	医師	薬剤師	看護師	放射線 技師	ケアマネジ ャー	看護系 教員	その他	合計
R1 (2019)	受入目標人数	50							50
	受入人数	18	1	22	0	0	0	1	42
R2 (2020)	受入目標人数	50							50
R3 (2021)	受入目標人数	50							50

社会への発信

：シンポジウム、フォーラムなど

2017年度シンポジウム&フォーラム

開催年月日	フォーラム等の名称	主催大学		学内参加者数	学外参加者数	参加大学数 (自大学・連携大学を除く)
		申請担当大学	連携大学			
【筑波大学】						
平成30年2月14日	茨城県がん生殖医療ネットワークシンポジウム	○		55	50	5
平成29年7月11日	看護インテグレーションセミナー	○		20	15	5
平成30年3月7日	がん生殖医療ネットワーク (小児・AYA世代がん、希少がん関連)	○		17	6	14
平成30年2月1日	cancer Arena (ライフステージに応じたがん医療関連)	○		9	10	3
平成30年2月3日	HBOC教育セミナー (小児・AYA世代がん、希少がん関連)	○		10	10	3
【千葉大学】						
平成29年8月2日	第55回オンコロジーカンファレンス		○	37	11	0
平成29年9月26日	第56回オンコロジーカンファレンス		○	54	18	0
平成29年12月14日	第57回オンコロジーカンファレンス		○	26	16	0
平成30年2月5日	第58回オンコロジーカンファレンス		○	37	10	0
【群馬大学】						
平成30年2月17日	ゲノム医療学国際シンポジウム (参加大学合同教育コース/ユニットセミナー/市民公開講座を兼ねる)		○	47	17	2
平成30年2月17日	ゲノム医療学国際実践セミナー (参加全大学及び学内のコース/ユニットセミナーを兼ねる)		○	22	6	2
平成30年2月17日	ゲノム医療学市民公開講座 (参加全大学市民公開講座を兼ねる)		○	47	17	2
平成29年11月15日	平成29年度研究成果考察セミナー「腫瘍学セミナー」		○	27	0	0
【埼玉医科大学】						
平成29年9月16日	埼玉医科大学市民公開講座		○		167	0
平成29年12月7日	第1回放射線腫瘍学セミナー		○	15	4	1
平成30年2月15日	第2回放射線腫瘍学セミナー		○	18	2	1
【日本医科大学】						
2017/07/22	第8回谷根千泌尿器科懇話会	○		20	36	4
2017/09/22	がん免疫療法セミナー	○		2	59	6
2017/10/19	大学院特別講演「Wilfried Eberhardt氏」講演会	○		31	2	1
2017/10/26	東京都東北部 第7回地域連携緩和ケア勉強会	○		23	16	2
2017/11/25	市民公開講座	○		14	152	0
2017/12/07	カンファランス	○		33	6	1
【獨協医科大学】						
平成29年11月29日	関東がん専門医療人養成セミナー		○	15	0	0
【群馬県立県民健康科学大学】						
平成30年2月24日	平成29年度第1回医学物理学講演会		○	23	39	3
【星薬科大学】						
平成29年4月22日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		2	17	2
平成29年5月27日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		4	25	3
平成29年7月15日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		2	15	2
平成29年9月9日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		1	32	3
平成29年10月28日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		4	13	1
平成29年11月25日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		1	24	2
平成29年12月3日	がん治療・緩和医療特別シンポジウム (特別講演)	○		1	184	18
平成30年2月17日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		2	30	3
平成30年3月3日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		2	28	3

2018年度シンポジウム&フォーラム

開催年月日	フォーラム等の名称	主催大学		学内参加者数	学外参加者数	参加大学数 (自大学・連携大学を除く)
		申請担当大学	連携大学			
【筑波大学】						
平成30年6月23日	ライフステージ 看護国際セミナー	○		42	0	3
平成30年8月9日	講演会 がんゲノム医療の今後の展望	○		60	3	3
平成30年5月28日	がんゲノム医療: oxford week	○		271	10	3
平成30年11月29日	がんゲノム医療レクチャー 遺伝子カウンセラー	○		10	5	2
平成30年12月22日	国際シンポジウムがん生殖医療ワークショップ	○		65	46	30
平成31年2月27日	茨城がん生殖医療ネットワーク	○		50	27	15
平成30年6月23日	ライフステージに応じたがん医療 市民公開講演	○		100	50	0
平成31年2月15日	キャンサーリサーチ アリーナ セミナー	○		40	15	2
平成31年2月15日	つくばがん研究会	○		40	15	2
【千葉大学】						
平成30年11月25日	2nd International Symposium of MEXT Program "Fostering Health Professionals for Changing Needs of Cancer" Genomic Medicine		○	16	23	0
平成30年8月8日	第59回オンコロジーカンファレンス		○	22	12	0
平成31年1月25日	第60回オンコロジーカンファレンス		○	22	13	0
平成31年2月13日	第61回オンコロジーカンファレンス		○	22	11	0
平成30年5月29日	第4回肉腫診療連携の会		○	4	42	0
平成30年11月27日	第5回肉腫診療連携の会		○	9	14	0
【群馬大学】						
平成30年11月25日	ゲノム医療学国際シンポジウム (参加大学合同教育コース/ユニットセミナーを兼ねる) 千葉大学担当		○	1	39	0
平成30年11月25日	ゲノム医療学国際実践セミナー (参加全大学及び学内のコース/ユニットセミナーを兼ねる) 千葉大学担当		○	1	39	0
平成30年9月7-8日	ゲノム医療学市民公開講座 (参加全大学市民公開講座を兼ねる) 埼玉医科大学主催		○	1	100	2
平成30年11月14日	平成30年度研究成果考察セミナー「腫瘍学セミナー」		○	35	0	0
平成30年8月7-8日	テクニカルセミナー〜先端テクノロジーの基礎を学んで研究をステップアップさせよう: 統計分析フリーソフトRを用いた統計解析の基礎		○	22	5	2
【埼玉医科大学】						
平成30年6月21日	第1回放射線腫瘍学セミナー		○	14	2	1
平成30年9月8日・9日	第16回RCGMフロンティア国際シンポジウム・第1回埼玉医科大学研究ブランディングシンポジウム		○	75	26	3
平成30年11月1日	第2回放射線腫瘍学セミナー		○	15	2	1
平成31年1月12日	埼玉医科大学市民公開講座		○		117	0
平成31年2月25日	第3回放射線腫瘍学セミナー		○	15	2	1
【日本医科大学】						
2018/07/06	第28回公開シンポジウム	○		44	11	1
2018/07/20	第11回膀胱温存勉強会	○		10	18	2
2018/07/26	大学院特別講義	○		42	3	1
2018/09/12	第3回千駄木腫瘍免疫研究会	○		46	1	1
2018/10/25	地域連携緩和ケア勉強会	○		15	21	2
2019/01/25	第12回膀胱温存勉強会	○		16	13	1
2019/02/12	大学院特別講義	○		28	0	0
2019/03/15	千駄木Breast Seminar	○		9	22	2
【群馬県立県民健康科学大学】						
平成30年11月10日	平成30年度第1回医学物理学講演会		○	16	57	2
平成31年2月2日、3日	平成30年度第2回医学物理学講習会		○	15	18	4
【東京慈恵会医科大学】						
9月29日、30日	4大学院連携がんチーム医療ワークショップ	○	○	56	34	2
【星薬科大学】						
平成30年4月14日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		1	26	3
平成30年5月26日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		2	14	1
平成30年6月23日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		6	14	1
平成30年7月7日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		4	16	2
平成30年10月7日	がん治療・緩和医療特別シンポジウム (特別講演)	○		0	167	17
平成30年10月13日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		3	19	2
平成30年11月17日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		6	18	2
平成31年1月26日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		6	10	1
平成31年2月9日	がん治療・緩和医療特別セミナー (講演+症例検討)	○		4	25	3
【お茶の水女子大学】						
平成31年3月2日	市民公開講座 15周年記念シンポジウム		○	24	56	11
【昭和大学】						
平成31年2月25日	薬物動態規定因子に基づく抗がん薬の個別化投与	○		15		0

2019年度シンポジウム&フォーラム

開催年月日	フォーラム等の名称	主催大学		学内参加者数	学外参加者数	参加大学数 (自大学・連携大学を除く)
		申請担当大学	連携大学			
【筑波大学】						
令和1年5月27日	がんゲノム医療: oxford week	○		163	1	1
令和1年7月10日	パ'イオバ'ンクセミナー	○		15	0	0
令和1年7月19日	がんゲノム医療: oxford week	○		150	10	10
令和1年7月20日	茨城がん生殖医療ネットワーク	○		53	45	20
令和1年7月20日	がんゲノム医療: oxford week	○		59	0	0
令和2年2月16日	がんゲノム医療国際シンポジウム 予定	○				
令和2年2月17日	Seminar for Pediatric Oncology in Tsukuba	○				
令和2年2月19日	茨城がん生殖医療ネットワーク	○				
令和2年2月7日	がんゲノム医療国際シンポジウム 予定	○				
令和2年2月7日	つくばがん研究会 予定	○				
【千葉大学】						
令和1年9月11日	第62回オンコロジーカンファレンス	○		32	13	0
令和1年10月30日	第63回オンコロジーカンファレンス	○		27	13	0
令和1年11月20日	第64回オンコロジーカンファレンス	○		39	5	0
令和1年12月11日	第65回オンコロジーカンファレンス	○		33	4	0
令和1年5月15日	第173回エンドオブライフケア研究会	○		16	53	1
令和1年6月11日	第3回千葉県リンパ症候群対策協議会	○		91	18	1
令和1年12月10日	第4回千葉県リンパ症候群対策協議会	○		76	23	0
令和1年11月26日	第7回肉腫診療連携の会	○		9	12	0
【群馬大学】						
令和元年6月29日	IPAセミナー [Ingenuity Pathway Analysis]	○		46	0	0
令和元年6月29日	市民講座「気になる胃がんと大腸がん-内視鏡で早期発見・早期治療-」 「がんになっても自分らしく働く~当事者と就労支援者の立場から~」 (群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	○		39	142	1
令和元年7月11日	研修会「化学療法について」「がん化学療法の看護」 (群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	○		55	17	1
令和元年9月5日	研修会「癌の放射線療法」「放射線療法時の看護」 (群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	○		49	10	0
令和元年10月10日	研修会「がんの痛みと薬物療法について」「疼痛マネジメントの実際」 (群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	○		58	14	0
令和元年11月13日	令和元年度研究成果考察セミナー「腫瘍学セミナー」	○		23	0	0
令和元年11月28日	研修会「胃癌治療の現状-手術療法と化学療法について-」「がん手術療法の看護(胃がん)」 (群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	○		48	8	0
【埼玉医科大学】						
令和1年5月31日	第1回放射線腫瘍学セミナー	○		26	4	1
令和1年9月15日	乳癌学会市民公開講座(共催)	○		311		0
【獨協医科大学】						
令和1年7月11日	がんプロセミナー(がん細胞を用いた in vitro 実験法)	○		37	0	0
【群馬県立県民健康科学大学】						
令和元年12月15日	令和元年度第1回医学物理学講演会	○		19	40	2
【星薬科大学】						
平成31年4月20日	がん治療・緩和医療特別セミナー(講演+症例検討)	○		3	13	1
令和1年5月25日	がん治療・緩和医療特別セミナー(講演+症例検討)	○		6	12	1
令和1年9月7日	がん治療・緩和医療特別セミナー(講演+症例検討)	○		5	39	4
令和1年10月19日	がん治療・緩和医療特別セミナー(講演+症例検討)	○		7	12	1
【お茶の水女子大学】						
令和2年1月11日	がんゲノム医療と心理社会的サポート【開催決定】	○				
【昭和大学】						
令和元年9月21・22日	4大学院 がんチーム医療ワークショップ	○		19	1	1

シンポジウム&フォーラムのポスター

The collage features several posters and announcements:

- Genetic Counseling: lectures & workshop**: Presented by Memorial Sloan Kettering Cancer Center & GanPro, featuring speakers Kelsey Breen and Andrew Kung. Date: 16th Feb 2020 Sun, 10:00 ~ 17:00.
- Meet the CNS holder**: 2020年 2月7日(金) 17:30~. Meeting with CNS holders at the University of Tsukuba.
- がん生殖医療 ネットワークシンポジウム**: 第4回 茨城県 がん生殖医療 ネットワークシンポジウム. Date: 2月19日(水) 18:30 ~ 20:30.
- 放射線療法**: 講演: 放射線科医師 小林裕樹. Date: 12月11日(水曜日) 17時から17時半.
- 全国がんプロ合同 市民公開シンポジウム**: 「がんゲノム医療の実像」. Date: 2019年11月9日(土) 14:00~16:00.
- ひとりに合わせたがん治療**: 2019年 千葉大学病院 がん市民公開講座. Date: 1/13(日) 13:00~16:00.
- オンコロジーカンファレンス**: 千葉大学病院のがん診療の基本を学ぼう. Date: 2019年11月26日(火) 18:45-21:00.
- SarCoM (サルコム)**: Sarcoma Cooperative Meeting. Date: 2019年11月26日(火) 18:45-21:00.
- Seminar for Pediatric Oncology in Tsukuba**: Long-term follow-up and questionnaire-based study in University of Tsukuba. Date: 17th/Feb/2020 Mon. 16:00~.

取り組み

社会への発信

シンポジウム&フォーラムのポスター

シンポジウム&フォーラムのポスター

第173回 エンドオブライフケア研究会 特別講演のご案内

テーマ: Quality of Death ~がん患者エンタランス~
 講師: 櫻野英夫先生 (順天堂大学 医学部 教授)
 日時: 2019年9月18日(水) 18:00~19:30
 会場: 千葉大学医学部附属病院 3階 コーネットホール
 会費: 無料 (車込可)

緑野先生からのメッセージ

「人生の最終段階におけるケアの重要性」が、近年ますます重視されています。その中でも「Quality of Death」(死の質)は、患者さんにとって最も大切な要素の一つです。本講演では、死の質を向上させるための実践的なアプローチについて、ご自身の経験からご自身の考えを語っていただきます。

【対象】 がん患者さん、ご家族、医療従事者、学生、市民の方など
 【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学医学部附属病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: www.endoflife.jp

がんプロフェッショナル育成プラン

がん生殖医療ネットワーク

2018年3月7日(水) 18時00分~20時15分

UDXカンファレンス オフィス (千葉県千葉市中央区新大塚1-14-1)

がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

参加費無料・事前申し込み不要

2019 2/13(水) 18:00~

オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院 外来診療棟3階 セミナー室3

(テーマ) 「下咽頭癌 治療と問題点」

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

第16回 RCGMフロンティア国際シンポジウム

第1日 埼玉医科大学国際シンポジウム

日時: 2018年9月7日(金) ~ 9月8日(土)

会場: 埼玉医科大学国際シンポジウム 創立30周年記念講堂

RCGMフロンティア国際シンポジウム (英語)

「新コト領域に広がるがん医療の未来」

一般講演 (7日 13:40~16:30)
 招待講演 (8日 9:00~12:30)

東京大学 医学部 がん研究センター 教授 迫 孝男
 中国科学技術大学 教授 Xiangling Wang
 徳島大学 医学部 教授 塩見 春彦
 ガリシア大学 医学部 教授 Michael G. Rosenfeld

研究ランディングセッション (日本語)

埼玉医科大学国際シンポジウム (8日 14:00~16:10)

講演者: 迫 孝男, Xiangling Wang, 塩見 春彦, Michael G. Rosenfeld

特別講演「がんゲノム研究とがんゲノム医療」 (8日 16:30~18:00)

東京大学 先端科学技術研究センター 教授 嶋田 浩幸
 国立がん研究センター 理事長 杉本 隆

主催: 埼玉医科大学国際シンポジウム 代表 嶋田 浩幸
 シンポジウム事務局: rcgm2018@satama-med.ac.jp
 シンポジウムホームページ: <http://square.ums.ac.jp/rcgm>
 問合せ: 埼玉医科大学国際シンポジウム TEL: 047-544-4412

オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院のがん診療の基本を学ぼう
 一知っておくべきこと、やっておくべきこと

がん薬物療法の副作用マネジメント

講師: 薬剤師 金子裕美

11月20日水曜日 17時から17時半

千葉大学病院 外来診療棟3階 セミナー室3

今年度は各10分のミニレクチャーシリーズです。基本の確認、復習にぜひご参加ください!

【対象者】 医師、看護師、薬剤師、研修医、コメディカル、学生など

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

「市民公開講演会」

がんを生ききる。

2018年 6/23(土) つくば国際会議場

14:45~15:45 (www.chiba-u.jp) 15:50~16:45

【対象者】 市民の方 (医師、看護師、薬剤師、研修医、コメディカル、学生など)

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

ワークショップのご案内

がんゲノム医療にかかわる相談にどう対応する?

対象: がんゲノム医療中核・拠点・連携病院、その他でがんに関わる看護師 (初心者歓迎)

内容: ミニレクチャー、がんパネル検査、遺伝性腫瘍など、グループワーク、事例をもとにディスカッション、困りごとの共有、質疑

日時: 2020年2月11日 (火・祝日) 13:00-16:00

会場: 千葉大学医学部附属病院 セミナー室3

参加費: 無料

申し込み方法: メールにてお申し込みください mikozu@chiba-u.jp

お問い合わせ: 千葉大学医学部附属病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: mikozu@chiba-u.jp

ゲノム医療の今後の展望

2018年8月9日(水) 17:00~18:00

臨床講義室D

講師: 武藤 孝先生 (千葉大学大学院医学研究科・医学部 腫瘍学 教授)

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院のがん診療の基本を学ぼう
 一知っておくべきこと、やっておくべきこと

免疫チェックポイント阻害薬 -広がる適応とその実際-

講師: 呼吸器内科医師 岩澤俊一郎

2月12日水曜日 17時から17時半

千葉大学病院 外来診療棟3階 セミナー室3

今年度は各10分のミニレクチャーシリーズです。基本の確認、復習にぜひご参加ください!

【対象者】 医師、看護師、薬剤師、研修医、コメディカル、学生など

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

2019 1/25(金) 18:00~

オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院 外来診療棟3階 セミナー室2

(テーマ) 「オンコカルディオロジー」
 ~腫瘍医と循環器専門医との連携~
 オーガナイザー: 血液内科 竹田 勇輔

R-CHOP療法後に薬剤性心不全を併発した悪性リンパ腫の1例
 血液内科 竹田 勇輔
 循環器内科 小林 展広

アントラサイクリン系薬剤を含む化学療法レジメン
 薬剤師 今井 千晶

心毒性を有する薬剤使用時の心不全モニタリング
 循環器内科 岡田 和

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

2018 8/8(水) 18:00~

オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院 外来診療棟3階 コーネットホール

(テーマ) 「皮膚がん治療 2018」
 オーガナイザー: 皮膚科 山本 洋輔

切開不能悪性黒皮腫に対する腫瘍切除
 皮膚科 山本 洋輔

皮膚癌性腫瘍と放射線治療
 放射線科 小林 尚輝

皮膚科外来におけるがん患者への看護支援
 看護師 鈴木 とも子

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院のがん診療の基本を学ぼう
 一知っておくべきこと、やっておくべきこと

社会資源

講師: 地域医療連携部 MSW 坂本佳子

1月15日水曜日 17時から17時半

千葉大学病院 外来診療棟3階 セミナー室3

今年度は各10分のミニレクチャーシリーズです。基本の確認、復習にぜひご参加ください!

【対象者】 医師、看護師、薬剤師、研修医、コメディカル、学生など

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

第2回 医療従事者のためのがん患者さんへの経済的サポート講座

8月21日(火) 18時~19時

千葉大学医学部附属病院 3階 セミナー室3

講師: 岩田 由起先生

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

第3回 医療従事者のためのがん患者さんへの経済的サポート講座

10/16(火) 18:00-19:00

千葉大学医学部附属病院 3階 セミナー室3

講師: 岩田 由起先生

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

平成29年度 大学院特別講義A

日時: 平成29年10月19日(木) 18:30~19:30

会場: 日本医科大学 教育棟3階 講義室3

演題: 「Combined Modality treatment of locally advanced non-small cell lung cancer: Current practice and perspectives」

演者: Wilfried E E Eberhardt, MD
 Dr. med. Clinic for Internal Medicine (Tumor Research)
 University Hospital Essen, Essen, Germany

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

がんゲノム医療と心理社会的サポート

2020年11月11日(土) 13:20~16:30

会場: 千葉大学医学部附属病院 3階 セミナー室3

講師: 岩田 由起先生

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

63. オンコロジーカンファレンス

千葉大学病院のがん診療の基本を学ぼう
 一知っておくべきこと、やっておくべきこと

② 緩和ケアの基本 痛み・気持ちのつらさ

講師: 緩和ケアセンター 身体症状担当医師: 長谷川 誠
 精神症状担当医師: 長谷川 直
 看護師: 藤澤 蘭子

10月30日水曜日 17時から18時

千葉大学病院 外来診療棟3階 セミナー室3

今年度は各10分のミニレクチャーシリーズです。基本の確認、復習にぜひご参加ください!

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 無料 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

SarCoM (サルコム)

Sarcoma Cooperative Meeting

第4回 内臓腫瘍連携の会

2018年5月29日(火) 18:30-20:40

会場: ベリエール Room D+E (千葉大学病院 ベリエール 3階)

【対象者】 がん医療に関わる医療者 (医師・看護師) 大学院がんコース履修生・教員

【参加費】 500円 (車込可)

お問い合わせ: 千葉大学病院 がん診療連携推進センター
 E-mail: oncology@chiba-u.jp

取り組み

社会への発信

シンポジウム&フォーラムのポスター

第11回 つくばがん研究会
つくばがんリサーチアワード
合同開催のご案内

2019年 2月15日(土) 17:30
筑波大学 イノベーション棟 8F

つくばがんリサーチアワード
つくばがんリサーチアワード
つくばがんリサーチアワード

第11回 つくばがん研究会
オルガノイドが切り拓く新しいヒトがん生物学

第3回 茨城県がん生殖医療ネットワークシンポジウム
「がん生殖医療総論」

7.20
7月20日(土) 13:30~17:00
茨城県立こども病院 多目的ホール

がんと正しく戦うための遺伝子パネル検査
がんゲノム医療の現状と課題、そして今後の展望

7月10日(水) 18:00~19:00
筑波大学 臨床講義室D

2ND INTERNATIONAL SYMPOSIUM OF MEXT PROGRAM "FOSTERING HEALTH PROFESSIONALS FOR CHANGING NEEDS OF CANCER"
GENOMIC MEDICINE
KANTO ACADEMIC ALLIANCE FOR FOSTERING CANCER PROFESSIONALS

Sun 25th November, 2018
10:00~17:00
(Shinagawa, Tokyo)

1st International Practical Seminar of MEXT Program "Fostering Health Professionals for Changing Needs of Cancer"
Genomic Medicine
Kanto Academic Alliance for Fostering Cancer Professionals

February 18, Sun 9:30 - 14:30
Gunma University Showa Campus

第1回 遺伝性乳がん卵巣がん症候群教育セミナー(基礎編)

2018. 2/3 (土) 9:00-17:30
参加人数 40名

1) 遺伝学の基礎、遺伝性乳がんおよび卵巣がんの遺伝的発症
2) HBOC 乳癌の臨床的特徴、HBOC ガイドライン、HBOC 乳癌のサーベイランス
3) HBOC 卵巣癌の臨床的特徴、HBOC ガイドライン、HBOC 卵巣癌のサーベイランス
4) 遺伝性乳癌卵巣癌の遺伝カウンセリング(基礎編)
5) 当事者の立場から

第5回 Cancer Arena for Clinical Orientated Problem

テーマ: 高齢者消化器癌に対する治療戦略
日時: 平成30年2月1日 水曜日 19:15~20:55
場所: ホテルグランド東園 バレールーム

個別化医療の推進と遺伝学的検査の適切な実施
遺伝カウンセリングの重要性と
カウンセラー養成 における課題について

11月29日(土) 17:00~19:00
筑波大学 医学部医務局 305号室

国際シンポジウム アジアにおけるがん生殖医療
International Symposium Fertility Preservation for Cancer Patients in Asia

2018年 12月22日(土) 14:00~20:00
東京医科大学 湯島地区 M&D 2階

シンポジウム&フォーラムのポスター

= Oxford week in Tsukuba =
Date: 23(Mon) July - 24(Tue) July, 2018
Time: 18:15-19:30
Venue: Lecture hall D Medical area, University of Tsukuba

Program
18:15-18:30 "Targeting T-cell receptor signaling pathway in angioimmunoblastic T-cell lymphoma"
18:30-18:45 "The facts of EBV in Japan"
18:45-19:30 "Epigenetic Signaling: Implications for inflammatory bowel disease and beyond"

= Oxford week in Tsukuba =
Date: 28(Mon) May - 1(Fri) June, 2018
Time: 18:15-19:15
Venue: 8F Innovation building, Medical area, University of Tsukuba

Program
18:15-19:00 "Protein-protein interaction in cancer"
19:00-19:15 "Computational genomics disclosing pan-cancer metabolism"

Scientific Investigation of the Basis of Particle Therapy
- Biophysical Approach -

27th, September 2017
14:00 - 17:00
Conference Room 401 (Tsukuba International Conference Center)

米国に見るライフステージに対応したがん医療の在り方
6月23日(土) 13:00~15:00
筑波大学 医学部イノベーション棟 8F 講義室

国際シンポジウム アジアにおけるアジアにおける Fertility Preservation for Cancer Patients in Asia

2018年 12月22日(土) 14:00~20:00
東京医科大学 湯島地区 M&D 2階

第1回 医学教養ペーシングセミナー

2018年 12月22日(土) 14:00~20:00
東京医科大学 湯島地区 M&D 2階

欧州バイオバンク視察報告会
兼 つくばヒト組織バイオバンクセンター有効性検討会

日時: 平成30年4月26日(木) 17:00~18:30
場所: 医学医療系 4階 483



取り組み

社会への発信

シンポジウム&フォーラムのポスター

第3回千葉県リンチ症候群対策協議会

テーマ：がんゲノム医療におけるOUTTによる看護職教育(暫定案)

日時：2019年6月11日(水) 18:00~20:10
会場：千葉大学医学部附属病院1階1-8-1 TEL: 043-236-2324

18:00~18:15 開会のあいだつ
18:15~18:30 インタビュースhow
18:30~18:45 「医療従事者ががんの遺伝子関連検査とリンチ症候群」
18:45~19:00 特別講演
19:00~19:15 特別講演
19:15~19:30 特別講演
19:30~19:45 特別講演
19:45~20:00 特別講演
20:00~20:10 閉会のあいだつ

文部科学省 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」 「明日の高齢者ががん医療を考えるシンポジウム」

開催日時：2019年2月15日(土) 13時~17時10分
開催場所：AP東京八重洲(東京都中央区八重洲4-2-1)

特別講演
「高齢がん患者の課題とがんプロ教育-外来患者の体験をもとに」
「高齢がん患者の認知症とがんプロ教育-外来患者の体験をもとに」
「高齢がん患者の認知症とがんプロ教育-外来患者の体験をもとに」



第1回 茨城県 がん生殖医療 ネットワークシンポジウム

2018年2月14日(水)
18時30分~20時30分
筑波大学健康医科学
イノベーション棟 8F 講堂

茨城県および千葉県においてがん治療に従事する医師・生殖医療に従事する医師
がんプロコース受講者・生殖医療やがん治療に従事するコメディカル・臨床心理士

2 茨城県 がん生殖医療 ネットワークシンポジウム

2019年
2月27日(水)
18:30~20:30
筑波大学 健康医科学
イノベーション棟 8F 講堂

茨城県および千葉県においてがん治療に従事する医師・生殖医療に従事する医師
がんプロコース受講者・生殖医療やがん治療に従事するコメディカル・臨床心理士
コメディカル・学生

多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」 関東がん専門医療人養成拠点 2017年度フェイスコース(看護)

米国の高度実践看護師(APN)の実践
病歴聴取のデモンストレーション

適切な病歴聴取は、患者さんとの信頼関係の構築や的確な臨床判断にとても重要です。米国の第一線で活躍するAPNのテクニックを学びませんか?

講師：チャールズ・インリン先生
イリノイ大学シカゴ校(米国)
ファミリーナースプラクティショナープログラム
ディレクター

Charles Yingling, DNP, APN, FNP-BC

日時：平成29年11月11日(土)
13時30分~15時30分
場所：筑波大学医学キャンパス 4 B棟209号室

筑波大学 × University of Oxford

Oxford Week Lecture series on July 2019 for medical student

= Oxford week in Tsukuba =

Date: 22(Mon) July - 24(Wed) July, 2019
Time: 18:15-19:15
Venue: Lecture Hall C Medical area, University of Tsukuba

Program

- 22(Mon) July: "Inflammation and innate immunity: A playing field for the ubiquitin machinery" Dr. Mads Gyrd-Hansen
- 23(Tue) July: "From melanoblasts to melanoma" Dr. Lionel Larue
- 24(Wed) July: "Mechanotransduction and the control of cell fate" Dr. Eric O'Neill

1st International Practical Seminar of MEXT Program "Fostering Health Professionals for Changing Needs of Cancer"

Genomic Medicine

Kanto Academic Alliance for Fostering Cancer Professionals

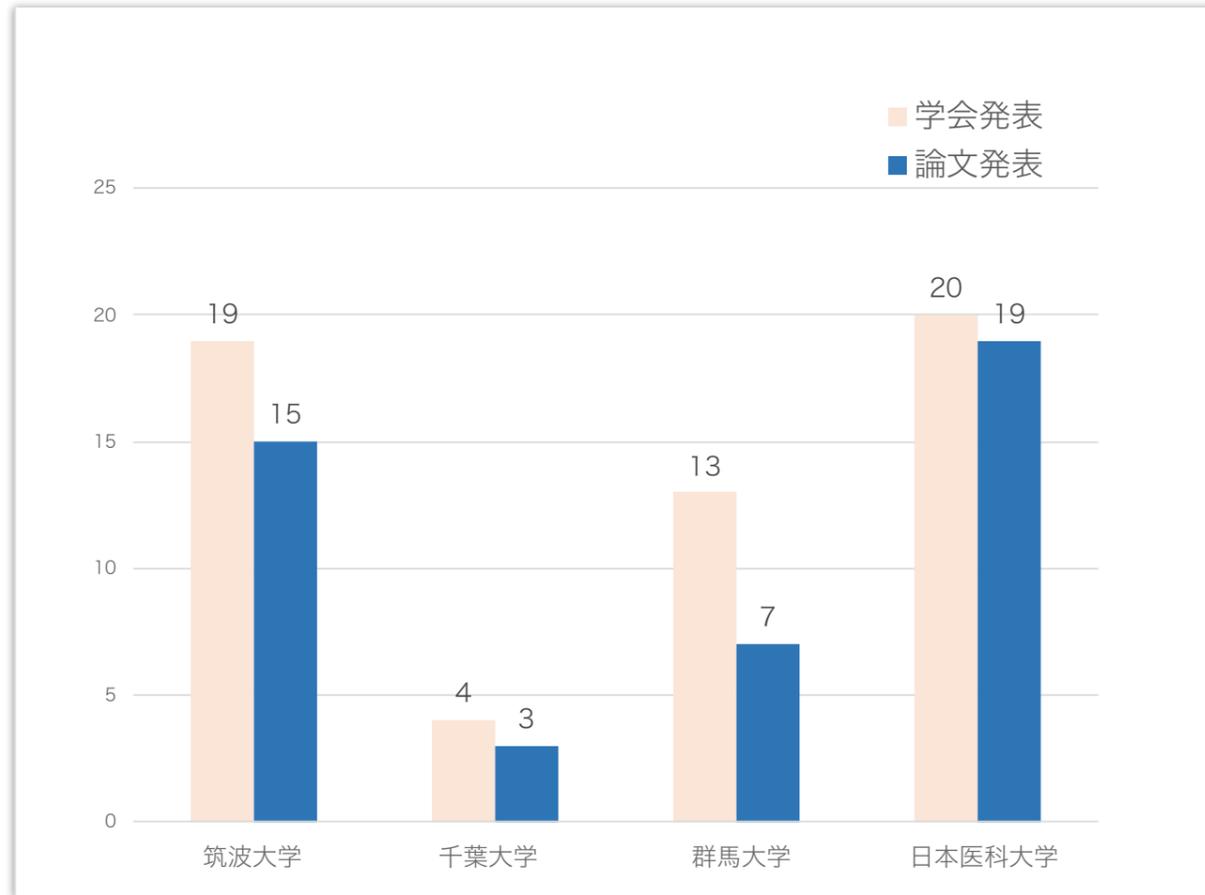
February 18, Sun 9:30 - 14:30
Gunma University Showa Campus

Session I: Basic Lecture
9:30 - 9:45 Specimen Collection and Storage
9:45 - 10:05 Next-Generation Sequencing
10:05 - 10:25 Mass Spectrometry Analysis



大学院生の研究業績一覧

英文、筆頭のみ



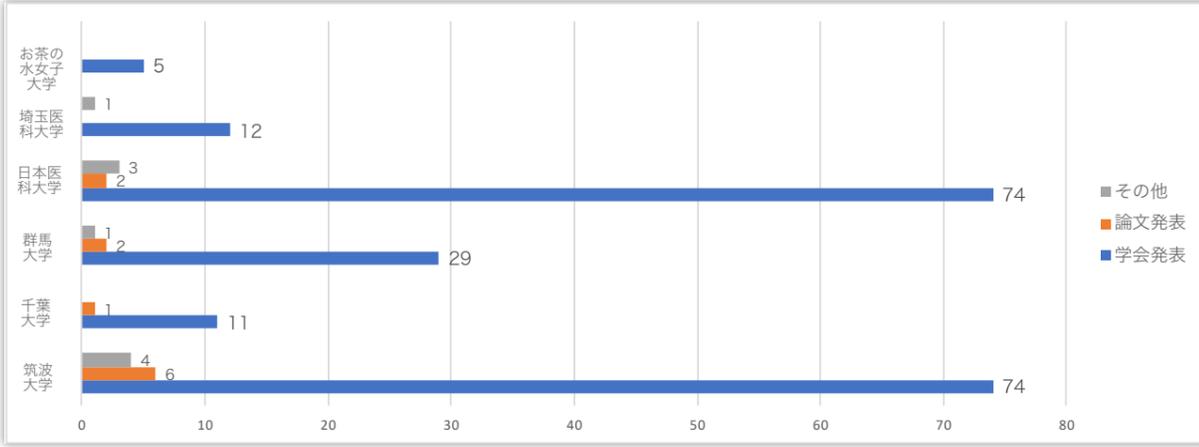
学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
松村英明	筑波大学	筆頭	論文発表	Neurol Med Chir (Tokyo).	Symptomatic Remote Cyst after BCNU Wafer Implantation for Malignant Glioma.	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	論文発表	Br J Neurosurg.	Vestibular schwannoma extending into the tympanic cavity and jugular fossa by invasion of the petrous bone.	2019
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	the World Federation of Neurosurgical Societies (WFNS) Symposia 2018	Prediction of Cerebral Hyperperfusion phenomenon after Carotid Endarterectomy by Transit time Flowmeter.	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	the 29th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function	High glucose and low ASPECTS are associated with intracranial hemorrhage after endovascular reperfusion therapy for acute ischemic stroke in the stent retriever era.	2019
古屋欽司	筑波大学	筆頭	論文発表	World Journal of Stem Cells	Enhanced hepatic differentiation in the subpopulation of human amniotic stem cells under 3D multicellular microenvironment	2019
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	25th ESTS Meeting	The consolidation volume analysis using 3D CT predicts invasiveness in lung adenocarcinoma ≤ 20 mm.	2017
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	27th ESTS Meeting	The consolidation volume and integration of modified CT value with 3D-CT predict invasiveness in lung adenocarcinoma ≤ 20 mm	2019
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	ESMO Asia 2019	Prediction of invasiveness in lung adenocarcinoma using machine learning algorithm base of 3D-CT imaging	2019

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
坂倉和樹	筑波大学	筆頭	論文発表	Child's nervous system 2019	Primary cavernous sinus germinoma with atypical extension pattern: a case report and review of the literature.	2019
坂倉和樹	筑波大学	筆頭	論文発表	Child's nervous system 2019	Pure germinoma occurring 11 years after total pineal mature teratoma removal: a case report and review of the literature.	2019
坂倉和樹	筑波大学	筆頭	論文発表	Interdisciplinary Neurosurgery 2020	Postoperative epileptic seizures after brain tumor surgery	2020
松村英明	筑波大学	筆頭	論文発表	Neurol Med Chir (Tokyo).	Symptomatic Remote Cyst after BCNU Wafer Implantation for Malignant Glioma.	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	論文発表	Br J Neurosurg.	Vestibular schwannoma extending into the tympanic cavity and jugular fossa by invasion of the petrous bone.	2019
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	the World Federation of Neurosurgical Societies (WFNS) Symposia 2018	Prediction of Cerebral Hyperperfusion phenomenon after Carotid Endarterectomy by Transit time Flowmeter.	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	the 29th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function	High glucose and low ASPECTS are associated with intracranial hemorrhage after endovascular reperfusion therapy for acute ischemic stroke in the stent retriever era.	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	論文発表	journal of neurological surgery reports	Delayed brain edema and swelling following craniectomy for epidural abscess improved by cranioplasty: case report	2017
杉井成志	筑波大学	筆頭	論文発表	Journal of Rural Medicine	Regular medications prescribed to elderly neurosurgical inpatients and the impact of hospitalization on potentially inappropriate medications	2018
杉井成志	筑波大学	筆頭	論文発表	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	Stroke mimics and accuracy of referrals made by emergency department doctors in Japan for patients with suspected stroke	2019
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	学会発表	2nd UT-NTU Radiation Oncology Joint Symposium (2018)	Analysis of the growth of vertebral bodies after radiotherapy including spine for pediatric tumor	2018
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	学会発表	PTCOG58 MANCHESTER 2019	An analysis of vertebral body growth on pediatric cancer patients after proton radiotherapy	2019
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	学会発表	3rd NTU-UT Radiation Oncology Joint Symposium(2019)	An analysis of vertebral body growth after proton radiotherapy	2019
Mingma Thsering	筑波大学	筆頭	学会発表	American Thoracic Society Conference	HAS2 mediates airway inflammation and remodeling in chronic OVA model of asthma.	2019
伴野太郎	筑波大学	筆頭	論文発表	Human Gene Therapy Methods	Infectivity assessment of recombinant adeno-associated virus and wild-type adeno-associated virus exposed to various diluents and environmental conditions	
伴野太郎	筑波大学	筆頭	論文発表	Molecular Therapy – Methods & Clinical Development	Highly efficient ultracentrifugation-free chromatographic purification of recombinant AAV serotype 9 (rAAV9)	
伴野太郎	筑波大学	筆頭	学会発表	The ASGCT 22nd annual meeting	Stability of rAAV serotype 1, 2, 8, 9 and wild-type AAV2 under various conditions	2019
伴野太郎	筑波大学	筆頭	学会発表	The ASGCT 21st annual meeting	Refinements of rAAV8 purification protocol with chromatography technology	2018
伴野太郎	筑波大学	筆頭	学会発表	The ASGCT 20th annual meeting	Ultracentrifugation-free Chromatography-mediated Purification of Recombinant Adeno-Associated Virus Serotype 9 (rAAV9)	2017
木村聡大	筑波大学	筆頭	学会発表	American Association for Cancer Research	A novel glycan targeting cancer therapy using lectin modified liposome	2019
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	8th World Congress of Endoscopic Surgery of Paranasal Sinuses, Skull Base, Brain & spine Barcelona	Treatment outcome of endoscopic endonasal surgery for tuberculum sellae meningiomas	2018
木野弘善	筑波大学	筆頭	論文発表	World neurosurgery	Combined endoscopic endonasal and bilateral subfrontal approach for a non-functioning pituitary adenoma associated with an internal carotid artery - superior hypophyseal artery aneurysm.	2019
木野弘善	筑波大学	筆頭	論文発表	J Neurosurg.	Endoscopic endonasal cyst fenestration into the sphenoid sinus with the 'mucosa coupling method' for symptomatic Rathke's cleft cyst: A novel method for maintaining cyst drainage to prevent recurrence.	2019
柳原隆宏	筑波大学	筆頭	学会発表	European Society of Thoracic Surgeons	The volume ratio of right middle lobe / right upper lobe is related to the risk of middle lobe bronchus kinking after right upper lobectomy	2019
柳原隆宏	筑波大学	筆頭	学会発表	European Society of Thoracic Surgeons	The volume ratio of right middle lobe / right upper lobe is related to the risk of middle lobe bronchus kinking after right upper lobectomy	2019
ZHANG SHUANG	筑波大学	筆頭	学会発表	The 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society	PD-L1 expression is an independent prognostic factor for survival in endometrial carcinomas	2018
栢森健介	千葉大学	筆頭	論文発表	Hematology (Amsterdam, Netherlands)	Efficacy and tolerability of rituximab and reduced-dose cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone therapy for elderly patient with diffuse large B-cell lymphoma.	2018
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	ESGO	ADJUVANT CHEMOTHERAPY MAY NOT BE NECESSARY FOR LOW-INTERMEDIATE RISK ENDOMETRIAL CANCER	2017
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	ESGO	Preoperative venous thromboembolism screening using enhanced computed tomography based on D-dimer level in patients with gynaecologic malignancy	2019

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	IGCS	METFORMIN MAY ATTENUATE THE EFFECT OF HYPERPROLACTINEMIA DURING THE FERTILITYSPARING TREATMENT MEDROXYPROGESTERONE-ACETATE FOR ATYPICAL ENDOMETRIAL HYPERPLASIA AND ENDOMETRIAL CANCER	2018
齋藤合	千葉大学	筆頭	論文発表	Internal medicine	Small Cell Lung Cancer in a 20-year-old Non-Smoking Man with Systemic Sclerosis.	2017
三科達三	千葉大学	筆頭	論文発表	International journal of myeloma	Successful autologous stem cell transplantation for POEMS syndrome with an unusually large osteolytic lesion: A case report and literature review	2019
高橋聡子	千葉大学	筆頭	学会発表	51ST CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY	FERTILITY PRESERVATION IN PEDIATRIC PATIENTS WITH HEMATOLOGIC MALIGNANCIES	2019
多田 紘恵	群馬大学	筆頭	学会発表	AACR Special Conference on Tumor Immunology and Immunotherapy	Immunological characteristics of circulating tumor cells in patients with head and neck squamous cell carcinoma.	2018
多田 紘恵	群馬大学	筆頭	学会発表	AACR Annual Meeting 2019	Detection and molecular characterization of circulating tumor cells in advanced head and neck squamous cell carcinoma	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	論文発表	Plastic and Reconstructive Surgery – Global Open	Open laparoscopic-assisted repair of abdominal wall hernia and bulge	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	論文発表	International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	Impact of sarcopenia on postoperative surgical site infections in patients undergoing flap reconstruction for oral cancer.	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	論文発表	The international journal of lower extremity wounds	Changes in Skin Perfusion Pressure After Hyperbaric Oxygen Therapy Following Revascularization in Patients With Critical Limb Ischemia: A Preliminary Study.	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	論文発表	Journal of dermatological scienc	Zinc deficiency exacerbates pressure ulcers by increasing oxidative stress and ATP in the skin.	2019
中澤信博	群馬大学	筆頭	論文発表	Annals of Surgical Oncology	High Stromal TGFBI in Lung Cancer and Intratumoral CD8-Positive T Cells were Associated with Poor Prognosis and Therapeutic Resistance to Immune Checkpoint Inhibitors	2019
中澤信博	群馬大学	筆頭	論文発表	Annals of Surgical Oncology	ASO Author Reflections: High Stromal TGFBI is a Useful Predictive Marker for Nivolumab in Non-small Cell Lung Cancer. Annals of Surgical Oncology	2019
中澤信博	群馬大学	筆頭	論文発表	Anticancer Reserch	Low IRBIT Levels Are Associated With Chemo-resistance in Gastric Cancer Patients.	2019
鎌木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2018)	Clinical significance and prognostic analyses of PTPN11, RAS, and CBL mutations in pediatric AML –the JCCG study, JPLSG AML-05–	2018
鎌木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	60th Annual Meeting of the American Society of Hematology	Comprehensive Analysis of 343 Genes using Targeted Sequencing Panel by Next-Generation Sequencer In 77 Pediatric AML Patients with Normal and Complex Karyotypes: JCCG Study, JPLSG AML-05	2018
鎌木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	61th Annual Meeting of the American Society of Hematology	Recurrent gene mutations in pediatric patients with AML by targeted sequencing —the JCCG study, JPLSG AML-05—	2019
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	論文発表	Acta Haematol. 2019 Dec 10:1-13. doi: 10.1159/000504354. [Epub ahead of print]	Risk Factors for Acute Kidney Injury and Chronic Kidney Disease following Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Hematopoietic Malignancies.	2019
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	論文発表	Int J Hematol. 2019 Nov;110(5):566-574. doi: 10.1007/s12185-019-02720-z. Epub 2019 Aug 20.	Significance of FLT3-tyrosine kinase domain mutation as a prognostic factor for acute myeloid leukemia.	2019
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	論文発表	Blood Adv. 2018 Oct 23;2(20):2744-2754. doi: 10.1182/bloodadvances.2018020305.	Prognostic impact of low allelic ratio FLT3-ITD and NPM1 mutation in acute myeloid leukemia.	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	論文発表	Ann Thorac Cardivasc Surg	A Case of Recurrent Pneumothorax Associated with Birt-Hogg-Dube Syndrome Treated with Bilateral Simultaneous Surgery and Total Pleural Covering	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	論文発表	Journal of Thoracic Disease	Atypical carcinoid localized at the bronchus accompanied by diffuse idiopathic pulmonary neuroendocrine cell hyperplasia in the distal lung: arare case report	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	論文発表	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	Preoperative management using inhalation therapy for pulmonary complications in lung cancer patients with chronic obstructive pulmonary disease.	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	18th IASLC	A New Strategy of Adjuvant Chemotherapy for Lung Cancer Based on the Expression of Anti-Aging Gene Klotho	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	18th IASLC	Photodynamic Therapy for Peripheral Lung Cancers Using Composite- Type Optical Fiberscope of 1.0 mm in Diameter	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	21st ACS (第21回アジア外科学会)	Can preoperative inhalation of LABA/LAMA reduce postoperative complications in lung cancer patients with chronic obstructive plumonary disease?	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	IASLC 19th World Conference on Lung Cancer	Anti-Aging Gene,Klotho is a Predictive Factor of Pemetrexed for Lung Cancer Treatment	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	27th European Conference on General Thoracic Surgery	CLINICOPATHOLOGICAL ANALYSIS OF LUNG CANCER LESIONS ADJOINING EMPHYSEMATOUS BULLAE	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	27th European Conference on General Thoracic Surgery	A NEW POSTOPERATIVE TREATMENT STRATEGY FOR ADVANCED LUNG CANCER DEPEND ON THE EXPRESSION OF ANTI-AGING GENE, KLOTHO	2019

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	IASLC 2019 World Conference on Lung Cancer	Expression of Anti-Aging Gene, Klotho Is a Surrogate Marker of Pemetrexed for Lung Cancer Treatment	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	10thATSC	Clinicopathological analysis of lung cancer adjoining	2019
園川卓海	日本医科大学	筆頭	学会発表	17th International Photodynamic Association World Congress	Management of multiple primary lung cancer in patients with centrally located early lung cancer lesions	2019
長岡岡太	日本医科大学	筆頭	論文発表	J Nippon Med Sch. 2018,85(3),178-182	The reality of multiple ecdocrine neoplasia type 2B diagnosis: Awareness of unique appearance is important	2018
長岡岡太	日本医科大学	筆頭	論文発表	World J Endocr Surg, 2018, 10(1),66-67	Learning curve for endoscopic thyroidectomy using the VANS method	2018
長岡岡太	日本医科大学	筆頭	学会発表	30th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference 2019	Endoscopic thyroidectomy using the VANS method for Graves' disease	2019
長岡岡太	日本医科大学	筆頭	学会発表	16th Biennial Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons	Learning curve for endoscopic thyroidectomy using the VANS method	2018
長岡岡太	日本医科大学	筆頭	学会発表	3rd World Congress on Thyroid Cancer	The reality of MEN2B diagnosis: awareness of unique physical appearance is important	2017
長岡岡太	日本医科大学	筆頭	学会発表	The 28th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference	A case of MEN2B in 13-year-old boy	2017
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	論文発表	Gastroenterology Research and Practice	Usefulness of 3-Dimensional Flexible Endoscopy in Esophageal Endoscopic Submucosal Dissection in an Ex Vivo Animal Model.	2019
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	学会発表	DDW2019	3-DIMENSIONAL FLEXIBLE ENDOSCOPY ENHANCES THE QUALITY OF PRE-ESD ASSESSMENT FOR EARLY GASTRIC CANCER	2019
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	学会発表	DDW2019	USEFULNESS OF THE FLEXIBLE TRACTION METHOD IN GASTRIC ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION: AN IN-VIVO ANIMAL STUDY	2019
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	学会発表	UEGW2019	USEFULNESS OF 3-DIMENSIONAL FLEXIBLE ENDOSCOPY IN THE DIAGNOSIS OF GASTRIC EPITHELIAL NEOPLASIA	2019
福泉彩	日本医科大学	筆頭	学会発表	第59回日本肺癌学会学術集会	Genomic Profiles of Lung Cancer associated with Idiopathic Pulmonary Fibrosis (IPF)	2018
福泉彩	日本医科大学	筆頭	論文発表	International Journal of Clinical Oncology (IJCO)	Weekly paclitaxel in combination with carboplatin for advanced non-small cell lung cancer complicated by idiopathic interstitial pneumonias: A single arm phase II study	2019
保田智彦	日本医科大学	筆頭	論文発表	Gastroenterology	MEK Inhibitor Reverses Metaplasia and Allows Re-Emergence of Normal Lineages in Helicobacter pylori-Infected Gerbils	2019
野田啓人	日本医科大学	筆頭	学会発表	Digestive disease week	ENDOCYTOSCOPY, A CONTACT-TYPE ULTRAHIGH-MAGNIFICATION ENDOSCOPY, CAN PREDICT HISTOLOGIC TYPES OF EARLY GASTRIC CANCER.	2019
高野夏希	日本医科大学	筆頭	論文発表	Lung Cancer	Improvement in the survival of patients with stage IV non-small-cell lung cancer: Experience in a single institutional 1995-2017	2019
加藤泰裕	日本医科大学	筆頭	学会発表	IASLC 2019 World Conference on Lung Cancer	A Single-Arm Phase II Trial of Weekly Nanoparticle Albumin-Bound Paclitaxel Monotherapy After Standard Therapy for Advanced NSCLC	2019
加藤泰裕	日本医科大学	筆頭	論文発表	Journal of Thoracic Disease	Impact of clinical features on the efficacy of osimertinib therapy in patients with T790M-positive non-small cell lung cancer and acquired resistance to epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors	2019
加藤泰裕	日本医科大学	筆頭	論文発表	Cancer Chemotherapy and Pharmacology	A single-arm phase II trial of weekly nanoparticle albumin-bound paclitaxel (nab-paclitaxel) monotherapy after standard of chemotherapy for previously treated advanced non-small cell lung cancer	2019
角田陽平	日本医科大学	筆頭	論文発表	The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine	The presence of amniotic fluid sludge in pregnant women with a short cervix: An independent risk of preterm delivery	2018
角田陽平	日本医科大学	筆頭	学会発表	International Federation of Placenta Associations 2018	A Case of Complete Hydatidiform Mole Coexistent with Triplets	2018
角田陽平	日本医科大学	筆頭	論文発表	Journal of Obstetrics and Gynaecology	Role of hysteroscopy in the diagnosis of uterine artery pseudoaneurysm: a case report	2019
久金翔	日本医科大学	筆頭	論文発表	Medicine	Salvage chemoradiotherapy with cisplatin and vinorelbine for postoperative locoregional recurrence of non-small cell lung cancer	2017
久金翔	日本医科大学	筆頭	論文発表	Journal of Nippon Medical School	Efficacy of Cell-Free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy for Palliative Care in a Patient with Malignant Pleural Mesothelioma: A Case Report	2017
久保田麻紗美	日本医科大学	筆頭	論文発表	J Nippon Med Sch , 86 (4), 248-253	Second Free Flap Surgery for Skull Base Tumors: Case Report and Literature Review	2019

和文、筆頭のみ



学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第19回茨城県脊髄・脊椎研究会	腫瘍栄養血管塞栓術後に摘出術を行った大型脊髄血管芽腫の1例	2017
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第33回 日本脳神経血管内治療学会学術総会	ScepterXCとマイクロカテーテルを用いたshort segmentでの母血管閉塞	2017
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第4回NPO法人筑波脳神経外科研究会総会	急性期血行再建における虚血再灌流障害についての検討	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第47回日本神経放射線学会	造影CTとワークステーションを用いた外側後頭下開頭におけるTransverse-Sigmoid junctionの正確な同定	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第43回日本脳卒中学会学術集会	脳梗塞急性期の再開通療法における酸化ストレス度評価の有用性	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第33回日本脳神経外科国際学会フォーラム	Prediction of Cerebral Hyperperfusion phenomenon after Carotid Endarterectomy by Transit time Flowmeter.	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第4回軽井沢脳血管内治療セミナー 2018.7.30(軽井沢)	脳梗塞急性期血管内再開通療法後の梗塞巣増大、浮腫性変化について	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	脳神経外科学会第77回学術集会	多施設共同データベースを用いた脳梗塞急性期血管内再開通療法における頭蓋内出血の解析	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第61回日本脳循環代謝学会学術集会	脳梗塞急性期血管内再開通療法における治療翌日の脳体積と神経機能改善の関連	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第34回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会	JSNET研修5施設での脳梗塞急性期血管内再開通療法における頭蓋内出血の解析；高血糖と低ASPECTSが頭蓋内出血と関連する	2018
角谷泰輔	筑波大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会第32回学術大会	肝細胞癌に対する陽子線治療中の肝機能・肝障害の推移	2019
古屋欽司	筑波大学	筆頭	論文発表	消化器外科	腹腔鏡下手術を施行したMeckel憩室mesodiverticular bandによる腸閉塞の1例	2019
古屋欽司	筑波大学	筆頭	学会発表	第18回日本再生医療学会総会	胎盤組織由来体性幹細胞を用いた三次元多細胞培養法による肝性分化誘導の探索	2019
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	第34回日本呼吸器外科学会総会	肺門前方からアプローチし胸腔鏡下に舌区+S8区域切除をし得た中咽頭癌肺転移の1例	2017
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	第36回日本呼吸器外科学会総会	局所進行非小細胞肺癌に対する術前導入化学放射線療法後の外科治療の忍容性	2019
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	A5aが上肺静脈の腹側を走行する右上葉切除の1例	2017
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	気管分岐部から中間幹までの狭窄に対して側孔をあけたDumon Y-stentを挿入し右上葉支を温存した1例	2019
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	第31回日本内視鏡外科学会総会	両側気腫性肺嚢胞に対する胸腔鏡アプローチによる手術のpitfallと工夫	2018
佐伯祐典	筑波大学	筆頭	学会発表	第59回日本肺癌学会学術集会	左上葉切除+肺動脈形成を行い切除したRA-LPDの1例	2018
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第6回ITAM work shop	Separation of trehalose dimycolate(TDM) subclass	2018
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第7回ITAM work shop	The antitumor immunity of cationized liposomal trehalose dimycolate isolated from Mycobacterium	2019
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第106回日本泌尿器科学会総会	精巣腫瘍に対する化学療法後の腫瘍マーカー陽性手術の治療成績	2018
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第107回日本泌尿器科学会総会	当院における転移性尿路上皮癌に対するベムプロリズマブの使用経験	2019
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第56回癌治療学会学術総会	Experience of chemotherapy for elderly patients with advanced urothelial cancer.	2018
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第36回泌尿器科手術研究会	当院におけるRPLND後の乳糜瀾に対する治療戦略	2018
志賀正宣	筑波大学	筆頭	学会発表	第7回泌尿器単孔式・Reduced port腹腔鏡手術ワークショップ	当科における尿管遺残に対する単孔式腹腔鏡下尿管摘除の初期経験	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第19回茨城県脊髄・脊椎研究会	腫瘍栄養血管塞栓術後に摘出術を行った大型脊髄血管芽腫の1例	2017
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第33回 日本脳神経血管内治療学会学術総会	ScepterXCとマイクロカテーテルを用いたshort segmentでの母血管閉塞	2017
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第4回NPO法人筑波脳神経外科研究会総会	急性期血行再建における虚血再灌流障害についての検討	2018

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第47回日本神経放射線学会	造影CTとワークステーションを用いた外側後頭下開頭におけるTransverse-Sigmoid junctionの正確な同定	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第43回日本脳卒中学会学術集会	脳梗塞急性期の再開通療法における酸化ストレス度評価の有用性	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第33回日本脳神経外科国際学会フォーラム	Prediction of Cerebral Hyperperfusion phenomenon after Carotid Endarterectomy by Transit time Flowmeter.	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第4回軽井沢脳血管内治療セミナー 2018.7.30(軽井沢)	脳梗塞急性期血管内再開通療法後の梗塞巣増大、浮腫性変化について	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	脳神経外科学会第77回学術集会	多施設共同データベースを用いた脳梗塞急性期血管内再開通療法における頭蓋内出血の解析	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第61回日本脳循環代謝学会学術集会	脳梗塞急性期血管内再開通療法における治療翌日の脳体積と神経機能改善の関連	2018
松村英明	筑波大学	筆頭	学会発表	第34回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会	JSNET研修5施設での脳梗塞急性期血管内再開通療法における頭蓋内出血の解析；高血糖と低ASPECTSが頭蓋内出血と関連する	2018
杉井成志	筑波大学	筆頭	論文発表	神経外傷	頭部外傷入院患者における予後良好の予測因子についての検討	2017
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	日本脳神経外科学会第76回学術集会	当科に入院した患者における常用薬についての検討	2017
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第36回日本脳腫瘍学会学術集会	腫瘍PD-L1発現阻害と制御性Tリンパ球抑制の併用による新たな抗腫瘍免疫療法の開発	2018
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第37回 東京脳腫瘍治療懇話会	悪性脳腫瘍生検術における合併症の検討	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第57回ニューロ・オンコロジーの会	腫瘍PD-L1発現阻害と制御性Tリンパ球抑制の併用による悪性神経腫瘍に対する新規抗腫瘍免疫療法の開発	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第20回日本分子脳神経外科学会	制御性Tリンパ球抑制と腫瘍PD-L1発現阻害の併用による悪性神経腫瘍に対する新たな抗腫瘍免疫療法の開発	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第23回日本がん免疫学会総会	制御性Tリンパ球抑制と腫瘍PD-L1発現阻害の併用による悪性神経腫瘍に対する免疫抑制的腫瘍微環境の改善	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第24回日本脳腫瘍の外科学会	脳腫瘍生検術における出血性合併症に関する検討	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	日本脳神経外科学会第78回学術集会	腫瘍PD-L1発現阻害と制御性Tリンパ球抑制の併用による悪性神経腫瘍に対する新たな抗腫瘍免疫療法の開発	2019
杉井成志	筑波大学	筆頭	学会発表	第37回日本脳腫瘍学会学術集会	Development of novel antitumor immunotherapy by the combination of PD-L1 expression blockage and Treg suppression	2019
村上基弘	筑波大学	筆頭	学会発表		繰り返し陽子線治療を行った肝臓癌の検討	日本放射線腫瘍学会第30回学術大会
村上基弘	筑波大学	筆頭	学会発表	第22回関東ハイパーサーミア研究会/全身ハイパーサーミア研究会合同学術大会	温熱化学放射線療法が著効した硬口蓋扁平上皮癌頸部リンパ節再発の1例	2018
村上基弘	筑波大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会	陽子線治療が奏効した巨大肝内胆管癌の一例	2018
村上基弘	筑波大学	筆頭	その他		第18回茨城放射線腫瘍研究会	切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法durvalumab導入前後での比較
村上基弘	筑波大学	筆頭	その他		「陽子線治療最先端の放射線治療」	2019
大川浩平	筑波大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会	波の音と能動的タッピングを用いた呼吸安定法の提案	2018
大川浩平	筑波大学	筆頭	学会発表	日本放射線技術学会 関東・東京支部合同研究発表大会2018	Robotic Radiosurgery Systemにおける患者位置認識精度の検証	2018
大川浩平	筑波大学	筆頭	学会発表	日本放射線技術学会第66回関東支部研究発表大会	Robotic Radiosurgery Systemにおける照射中の患者位置照合間隔の検討	2019
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	論文発表	日本放射線腫瘍学会第30回学術大会	エナメル上皮癌の根治的な陽子線治療が奏功した一例	2017
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会	小児腫瘍に対する陽子線治療後の椎体成長に関する解析	2018
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	学会発表	小線源治療部第20回学術大会	子宮頸部腺癌及び腺扁平上皮癌に対する画像誘導小線源治療の成績	2018
馬場敬一郎	筑波大学	筆頭	論文発表	日本放射線腫瘍学会 第32回学術大会	切除不能III期非小細胞肺癌に対する化学放射線療法の適応的解析	2019
Mingma Thsering	筑波大学	筆頭	学会発表	Japanese Respiratory Society Conference	HAS2 mediates airway inflammation and remodeling in chronic OVA model of asthma.	2019
Mingma Thsering	筑波大学	筆頭	学会発表	Japanese Society of Allergology Conference	HAS2 mediates airway inflammation and remodeling in chronic OVA model of asthma.	2019
伴野太郎	筑波大学	筆頭	学会発表	第25回日本遺伝子細胞治療学会学術集会	Comparative stability analysis of recombinant AAV and wild-type AAV under various conditions to consider environmental effect assessment	2019
伴野太郎	筑波大学	筆頭	学会発表	第23回日本遺伝子細胞治療学会学術集会	Chromatography-based rAAV9 purification protocol with ultracentrifugation-free procedure	2017
木村聡大	筑波大学	筆頭	学会発表	第119回日本外科学会学術総会	レクチン修飾リボソームによる新規糖鎖標的抗がん治療法開発	2019
木野弘善	筑波大学	筆頭	論文発表	脳神経外科	Dissecting Internal Carotid Aneurysm Causing Epistaxis:A Case Report.	2018
木野弘善	筑波大学	筆頭	その他	日本内分泌学会雑誌	再発下垂体腺腫に対する経鼻内視鏡手術	2017
木野弘善	筑波大学	筆頭	その他	Pharma Medica	再発頭蓋咽頭腫に対して経鼻内視鏡手術を行った1例	2017
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第20回日本分子脳神経外科学会	Signal transducer and activator of transcription (STAT)3経路が頭蓋底脊索腫の増殖に及ぼす影響	2019
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第78回日本脳神経外科学会総会	モーションキャプチャーと筋電図を用いた経鼻内視鏡手術中の上肢の動きの科学的解析：熟練者の動きとは？	2019
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第18回日本術中画像学会	巨大下垂体腺腫に対する経鼻内視鏡下手術における術中MRIの有用性	2018

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第27回日本定位放射線治療学会	下垂体腺腫に対するサイバーナイフの治療成績	2018
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第30回日本頭蓋底外科学会	頭蓋底側方進展病変に対する経鼻内視鏡手術の低侵襲化：機能温存を重視した経上顎洞-翼口蓋到達法	2018
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第77回日本脳神経外科学会学術総会	頭蓋咽頭腫摘出術後視床下部機能障害のリスク因子	2018
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第6回下垂体スキルアップセミナー	下垂体腺腫に対して定位放射線治療を追加した1例	2018
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第24回日本神経内視鏡学会	経鼻内視鏡手術、内視鏡支援下高位頸部到達法の二期的手術によって全摘出した斜台～頸部進展脊索腫の1例	2017
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	日本脳神経外科学会第76回学術総会	頭蓋底軟骨肉腫に対する経鼻内視鏡手術の治療成績	2017
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第29回日本頭蓋底外科学会	鞍結節部髄膜腫に対する経鼻内視鏡下手術の視機能評価を中心とした治療成績について	2017
木野弘善	筑波大学	筆頭	学会発表	第35回日本脳腫瘍病理学会	異型下垂体腺腫の一例	2017
柳原隆宏	筑波大学	筆頭	学会発表	第36回日本呼吸器外科学会総会	右上葉切除後の中葉気管支屈曲の検討	2019
柳原隆宏	筑波大学	筆頭	学会発表	第169回呼吸器内視鏡関東地方会	気管挿管後声門下肉芽形成に対して気管支鏡下に焼灼した1例	2019
柳原隆宏	筑波大学	筆頭	学会発表	第36回日本呼吸器外科学会総会	右上葉切除後の中葉気管支屈曲の検討	2019
柳原隆宏	筑波大学	筆頭	学会発表	第169回呼吸器内視鏡関東地方会	気管挿管後声門下肉芽形成に対して気管支鏡下に焼灼した1例	2019
XU CHENYANG	筑波大学	筆頭	学会発表	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	P53 Status suggested as an independent prognostic factor for poor overall survival in early-stage ovarian clear cell carcinomas.	2019
ZHANG SHUANG	筑波大学	筆頭	学会発表	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	Survival analyses based on tumor microenvironment profile in endometrial carcinoma	2018
加治瑤子	筑波大学	筆頭	論文発表	食品衛生学雑誌	Identification of Descarbonsildenafil in an Adulterated Dietary Supplement and Evaluation of its Inhibitory Activity for Phosphodiesterase type 5 (PDE5)	2019
橋爪由樹	千葉大学	筆頭	学会発表	日本看護科学学会	終末期がん患者とその家族が行ったエンドオブライフに向けた対話のテーマ	2019
栢森健介	千葉大学	筆頭	論文発表	日本老年医学会	夜間頻尿にデスモプレシンが著効した高齢女性の1症例	2013
橋爪由樹	千葉大学	筆頭	学会発表	日本看護科学学会	終末期がん患者とその家族が行ったエンドオブライフに向けた対話のテーマ	2019
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	日本産婦人科学会	妊孕性温存療法後のフォローアップに細胞診採取器具（エンドサーチ®）を用いた簡易組織診は有用である	2018
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	ホルモンとがん研究会	メトホルミンはプロゲステロン誘導性高プロラクチン血症の子宮内膜増殖促進効果を減弱させる	2018
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	婦人科腫瘍学会	子宮体癌治療後のルーチンのCT、超音波、腫瘍マーカーは予後改善に寄与するか	2017
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	日本産婦人科学会	子宮体がん術後再発中リスク患者における術後化学療法の必要性の是非についての後方視的検討	2017
羽生裕二	千葉大学	筆頭	学会発表	日本産婦人科学会	METFORMIN MAY ATTENUATE THE EFFECT OF HYPERPROLACTINEMIA DURING FERTILITY-SPARING TREATMENT USING MEDROXYPROGESTERONE ACETATE FOR ATYPICAL ENDOMETRIAL HYPERPLASIA AND ENDOMETRIAL CANCER	2019
齋藤合	千葉大学	筆頭	学会発表	日本臨床腫瘍学会	Risk Factors for Skeletal-Related Events in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients Treated with Bone-Modifying Agents	2019
齋藤合	千葉大学	筆頭	学会発表	日本肺癌学会	Clinical T1/2 N0 非小細胞肺癌の胸郭外転移に関する検討	2017
三科達三	千葉大学	筆頭	学会発表	日本血液学会	当院における末梢性T細胞リンパ腫の治療成績	2018
高橋聡子	千葉大学	筆頭	学会発表	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	臨床研究法下での国際共同臨床試験のデータセンターとしての準備-AGCT1531を例として-	2019
栗山健吾	群馬大学	筆頭	学会発表	第118回日本外科学会	食道癌術後におけるOral Assessment Guideの意義	2018
栗山健吾	群馬大学	筆頭	学会発表	第72回日本食道学会	Outcomes of Chemoradiotherapy for Cervical Esophageal Cancer.	2018
栗山健吾	群馬大学	筆頭	学会発表	第73回日本消化器外科学会	高齢者食道癌患者における手術成績とサルコペニアが与える影響について	2018
栗山健吾	群馬大学	筆頭	学会発表	第119回日本外科学会	食道癌根治的放射線治療後のサルベージESDの治療成績	2019
栗山健吾	群馬大学	筆頭	学会発表	第73回日本食道学会	食道癌術後におけるOral Assessment Guideの意義	2019
栗山健吾	群馬大学	筆頭	学会発表	第74回日本消化器外科学会	上部消化管における神経鞘腫8例の検討	2019
多田紘恵	群馬大学	筆頭	学会発表	第78回日本癌学会学術総会	進行頭頸部扁平上皮癌患者における循環癌細胞の同定とその臨床的意義について	2019
多田紘恵	群馬大学	筆頭	学会発表	第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	進行頭頸部扁平上皮癌患者における循環癌細胞の同定とその分子生物学的解析	2019
多田紘恵	群馬大学	筆頭	その他	救急・当直マニュアル-いざというときの対応法-耳鼻咽喉科・頭頸部外科第91巻第5号	遺伝性血管性浮腫	2019
大津晃	群馬大学	筆頭	学会発表	第106回日本泌尿器科学会総会	VIVID(Visualization of Various Integration with Diffusion)を用いたCognitive fusion prostate biopsyについての検討	2018
大津晃	群馬大学	筆頭	学会発表	第57回日本癌治療学会学術総会	尿路上皮癌に対するペムプロリズマブの初期治療経験	2019
大津晃	群馬大学	筆頭	論文発表	泌尿器外科 30(6) 1025-1030	腹腔鏡下腎盂形成術と腎盂切石術を同時に施行した症例の検討	2018
大津晃	群馬大学	筆頭	論文発表	日本泌尿器科学会誌 第110巻 第4号223-249	Cognitive fusion前立腺生検におけるVIVID (Visualization of Various Integration with Diffusion) の有用性	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本形成外科学会基礎学術集会	なぜ亜鉛欠乏状態では褥瘡が発生しやすいのか?—亜鉛欠乏による褥瘡発生機序の解明—	2019

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本乳房オンコプラステックサージャーリー学会	ティッシュ・エキスパンダーを用いた乳房再建における脂肪量、骨格筋量の影響についての検討	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	北関東医学会総会	なぜ亜鉛欠乏状態では褥瘡が発生しやすいのか?—亜鉛欠乏による褥瘡発生機序の解明—	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本創傷外科学会総会	口腔癌切除遊離皮弁再建SSIにおけるMuscle volume lossの影響	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本形成外科学会総会	頭頸部癌切除後皮弁再建におけるサルコペニアとSurgical Site Infection	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本口腔科学会学術集会・学術集会	口腔癌切除後皮弁再建におけるサルコペニアとSurgical Site Infection	2019
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本頭蓋頸顔面外科学会学術集会	自傷により深達性顔面潰瘍をきたした中枢性尿崩症患者に遊離腹直筋皮弁再建を行った一例	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	北関東医学会総会	口腔癌切除後に生じた頸部皮膚潰瘍、瘻孔に対し、局所陰圧閉鎖療法および局所陰圧洗浄療法を行った4例	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	頭頸部癌学会	口腔癌切除後に生じた頸部皮膚潰瘍、瘻孔に対し、局所陰圧閉鎖療法および局所陰圧洗浄療法を行った4例	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本口腔外科学会 関東支部学術集会	口腔癌切除後に生じた頸部皮膚潰瘍、瘻孔に対し、局所陰圧閉鎖療法および局所陰圧洗浄療法を行った4例	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本口腔科学会学術集会	口腔癌切除後に生じた頸部皮膚潰瘍、瘻孔に対し、局所陰圧閉鎖療法および局所陰圧洗浄療法を行った4例	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本形成外科学会総会・学術集会	重症下肢虚血患者における血行再建後の高気圧酸素療法の有用性についての検討	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本口腔腫瘍学会総会・学術大会	口腔癌切除後に生じた頸部皮膚潰瘍、瘻孔に対し、持続陰圧閉鎖療法および局所陰圧洗浄療法を行った4例	2018
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	関東形成外科学会 東京地方会	自傷による深達性顔面潰瘍をきたした中枢性尿崩症患者に遊離腹直筋皮弁再建を行った一例	2017
中村英玄	群馬大学	筆頭	学会発表	日本形成外科学会総会・学術集会	腹壁瘻ヘルニアに対する、腹腔鏡補助下anterior approachによる修正術の有用性	2017
鍋木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	第80回日本血液学会学術集会	小児急性骨髄性白血病におけるPTPN11, RAS, CBL変異の臨床的意義と予後解析	2018
鍋木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	第60回日本小児血液がん学会学術集会	再発時にKIT+ITDを認めたt(8;21)-AMLの一例	2018
鍋木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	第81回日本血液学会学術集会	343遺伝子カスタムパネルを用いた標的シーケンズで同定された小児急性骨髄性白血病における遺伝子変異	2019
鍋木多映子	群馬大学	筆頭	学会発表	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	小児急性骨髄性白血病患者におけるKMT2C変異とPHF6変異の臨床的意義について	2019
安藤文彦	日本医科大学	筆頭	学会発表	第28回消化器疾患病態治療研究会	胃および小腸に多発性胃粘膜病を合併した若年性胃腸管ポリポースの一例	2019
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	学会発表	第41回日本造血細胞移植学会総会	NPM1変異陽性かつFLT3-ITD低アレル比の急性骨髄性白血病に対する第一寛解期での同種移植の意義	2019
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	学会発表	第80回日本血液学会学術集会	Two cases of acute myeloid leukemia that FLT3-ITD became false-negative in standard PCR method	2018
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	学会発表	第79回日本血液学会学術集会	Elizabethkingia meningoseptica infections in six patients with hematological malignancies	2017
阪口正洋	日本医科大学	筆頭	学会発表	第15回日本臨床腫瘍学会学術集会	既治療EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌に対する再生検とその治療方針への寄与についての検討	2017
上田康二	日本医科大学	筆頭	学会発表	第119回日本外科学会	cfDNAによる右半結腸癌におけるBRAFV600E遺伝子変異についての検討	2019
上田康二	日本医科大学	筆頭	学会発表	第41回癌局所療法研究会	当院における大腸癌卵巣転移症例の検討	2019
上田康二	日本医科大学	筆頭	学会発表	第74回消化器外科学会	大腸癌術中腹水に対するdigital細胞診	2019
上田康二	日本医科大学	筆頭	学会発表	第73回日本大腸肛門病学会	FOLFIRI+Ramucirumab療法が奏功した一例	2018
上田康二	日本医科大学	筆頭	学会発表	第74回日本大腸肛門病学会	術前補助化学療法を行なった局所進行直腸癌の予後	2019
清水理光	日本医科大学	筆頭	学会発表	第60回日本肺癌学会学術集会	高齢者の進行・再発非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の有効性と安全性の検討	2019
大森美和子	日本医科大学	筆頭	学会発表	第59回日本肺癌学会学術集会	間質性肺炎合併進行肺癌に対する化学療法の有用性と急性増悪リスク	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第34回日本呼吸器外科学会	高齢者続発性気胸の治療戦略-当院における80歳以上の高齢者続発性気胸症例の検討-	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第34回日本呼吸器外科学会	根治的放射線治療10年後に再発をきたした原発不明縦隔リンパ節腫の1例	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	気管・気管支腔内に局限したMALTリンパ腫の1例	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第58回日本肺癌学会学術集会	アンチエイジング遺伝子Klotho発現による上皮間葉転換(EMT)の制御	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第38回日本レーザー医学会総会	進行肺癌に対するレーザー治療：高出力レーザー4 VS PDT	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第79回日本臨床外科学会	新しいCOPD合併肺癌の術後治療戦略	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	その他	肺癌診療Q&A第3版-一つ上を行く診療の実践-	④肺癌の診断6.小結節診断における新技術について教えてください	2017
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	論文発表	気管支学	早期診断し得た気管・気管支原発MALTリンパ腫の1例	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第118回日本外科学会定期学術総会	Antiaging 遺伝子 Klotho 発現に基づく新しい肺	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第35回日本呼吸器外科学会	アンチエイジング遺伝子Klotho発現に基づく新たな肺癌個別化治療法の確立	2018

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	3次元画像解析システム SYNAPSE VINCENT®を用いた術前シミュレーション：若手呼吸器外科医の視点から	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	気道狭窄に対する呼吸器インターベンション治療：当科の治療指針	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第71回日本胸部外科学会定期学術集会	気腫性肺嚢胞壁発生肺癌症例の臨床病理学的検討—新TNM分類(UICC第8版) T因子に関する提言—	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第31回日本内視鏡外科学会総会	肺切除におけるステイブルガイド付き自動縫合器およびPulse Fireの有用性	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	その他	分子標的治療・テクノロジー新時代のあたらしい肺癌現場診断学	Case4 増大するすりガラス陰影	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	その他	分子標的治療・テクノロジー新時代のあたらしい肺癌現場診断学	Case5 増大かつFDG-PET/CTで集積を認める結節性病変	2018
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第119回日本外科学会定期学術集会	アンチエイジング遺伝子 Klotho 発現を利用した分子標的治療の可能性	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第36回日本呼吸器外科学会学術集会	異時性及び同時性多発肺癌に対する治療戦略	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	中心型早期肺癌に対する光線力学的治療の現状	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第32回胸部外科教育施設協議会総会学術集会	若手呼吸器外科医が今、思うこと～呼吸器外科版"U-40"の立ち上げと今後の展望を中心に～	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第57回日本癌治療学会学術集会	アンチエイジング遺伝子 Klotho発現に基づく新しい肺がん個別化治療戦略	2019
竹ヶ原京志郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第60回日本肺癌学会学術集会	病理病期IA期非小細胞肺癌根治切除後の再発例の臨床病理学的検討	2019
園川卓海	日本医科大学	筆頭	学会発表	第60回日本肺癌学会学術集会	新しい自家蛍光内視鏡システムを用いた呼吸器インターベンションへの応用	2019
中井麻木	日本医科大学	筆頭	学会発表	第27回日本肺癌学会総会	Li-Fraumeni症候群の1例	2019
中井麻木	日本医科大学	筆頭	学会発表	第25回日本肺癌学会総会	術前化学療法におけるweekly nab-paclitaxelの有効性及び安全性に関する臨床研究報告	2017
中井麻木	日本医科大学	筆頭	学会発表	第118回日本外科学会定期学術集会	乳房トモシンセシスは診断に有用か	2018
中井麻木	日本医科大学	筆頭	学会発表	第28回癌治療病態治療研究会	オラパリブの使用経験	2019
中井麻木	日本医科大学	筆頭	学会発表	第64回日本人類遺伝学会	濃厚な家族歴を有する患者への遺伝カウンセリングの重要性	2019
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第57回日本癌治療学会学術集会	MEN2B診療の治療と実際	2019
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第30回日本内分泌外科学会総会	MEN2A診療の現状：当科における24例の経験	2018
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第24回日本家族性腫瘍学会学術集会	MEN2A診療の現状：当科における24例の経験	2018
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第31回日本内視鏡外科学会総会	VANS法手術の安全性とトラブルシューティング	2018
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第80回日本臨床外科学会総会	VANS法手術の安全性とトラブルシューティング	2018
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第31回日本小切開・鏡視外科学会	VANS法手術の安全性とトラブルシューティング	2018
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第30回日本内視鏡外科学会総会	VANS法手術開始後15例でのラーニングカーブの検討	2017
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第50回日本甲状腺外科学会学術集会	VANS法手術開始後15例でのラーニングカーブの検討	2017
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第23回日本家族性腫瘍学会学術集会	MEN2B診断の現状～特徴的身体所見の重要性	2017
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第29回日本内分泌外科学会総会	甲状腺未分化癌が疑われた再発喉頭癌の一例	2017
長岡竜太	日本医科大学	筆頭	学会発表	第52回日本内分泌外科学会学術大会	神経浸潤が疑われる症例に対してIONMを使用した手術法	2019
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	学会発表	第15回日本消化管学会総会	実臨床における3D内視鏡の早期胃癌診断能の検証	2019
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	学会発表	第91回胃癌学会総会	胃体上部後壁の0-IIc病変に対するESD後に遅発性穿孔をきたした一例	2019
樋口和寿	日本医科大学	筆頭	学会発表	第97回日本消化器内視鏡学会総会	胃ESDにおけるFlexible traction methodの有用性の検証	2019
保田智彦	日本医科大学	筆頭	学会発表	第77回日本癌学会学術総会	Amelioration of metaplasia and re-emergence of normal gastric lineages after treatment of H. pylori infected gerbils with a MEK inhibitor	2018
保田智彦	日本医科大学	筆頭	学会発表	第29回日本消化器癌発生学会総会	Amelioration of metaplasia and re-emergence of normal gastric lineages after treatment of H. pylori infected gerbils with a MEK inhibitor	2018
保田智彦	日本医科大学	筆頭	学会発表	第30回日本消化器癌発生学会総会	The formation of fundic sphere and its characteristics	2019
保田智彦	日本医科大学	筆頭	学会発表	第27回消化器疾患病態治療研究会	MEK阻害剤Selumetinibによる H. pylori感染スナネズミ胃粘膜における化生粘膜の回復	2018
野田啓人	日本医科大学	筆頭	学会発表	第27回日本消化器関連学会週間	除菌後胃癌の臨床病理学的特徴	2019
野田啓人	日本医科大学	筆頭	学会発表	第97回消化器内視鏡学会総会	早期胃癌診断におけるendocytoscopyの検討	2019

学生氏名	大学名	筆頭の別	発表方法	学会名/雑誌名	Title	年
范姜明志	日本医科大学	筆頭	学会発表	第26回乳癌基礎研究会	乳癌における血管新生阻害治療の重要性	2017
范姜明志	日本医科大学	筆頭	学会発表	第79回日本臨床外科学会総会	臨床的に乳癌が疑われた巨大葉状腫瘍の1例	2017
范姜明志	日本医科大学	筆頭	学会発表	第24回日本乳腺疾患研究会	葉状腫瘍切除後に偶然発見された非浸潤性乳管癌の一例	2018
范姜明志	日本医科大学	筆頭	学会発表	第25回日本乳腺疾患研究会	転移巣の生検診断がオラパリブの適応につながった再発乳癌の1例	2019
范姜明志	日本医科大学	筆頭	学会発表	第27回日本肺癌学会学術総会	オラパリブの有効性が異なるBRCA2変異陽性乳癌症例の検討	2019
范姜明志	日本医科大学	筆頭	論文発表	乳癌基礎研究26巻 Page25-29	乳癌における血管新生阻害治療の重要性	2018
高野夏希	日本医科大学	筆頭	学会発表	第58回日本肺癌学会学術集会	非小細胞肺癌の薬物療法と生存期間の変遷	2017
高野夏希	日本医科大学	筆頭	学会発表	第59回日本肺癌学会学術集会	既治療小細胞肺癌に対するアムルピシンの至適用量、有効性、安全性に関する後方視的検討	2018
高野夏希	日本医科大学	筆頭	学会発表	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	進行再発非小細胞肺癌に対するAtezolizumab単剤療法の有効性と安全性に関する後方視的検討	2019
加藤泰裕	日本医科大学	筆頭	学会発表	第185回日本肺癌学会関東支部学術集会	扁平上皮癌と神経内分泌分化を示す低分化癌の同時性重複癌に対しニボルマブが奏効した一例	2019
角田陽平	日本医科大学	筆頭	学会発表	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	A case of pregnancy with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria that was difficult to distinguish from hemolysis, elevated liver enzymes, and low platelet count syndrome	2018
角田陽平	日本医科大学	筆頭	学会発表	第54回日本周産期・新生児医学学会学術集会	頸管長短縮例におけるAmniotic fluid sludgeの出現は早産リスクになり得るか	2018
久金翔	日本医科大学	筆頭	学会発表	第59回日本肺癌学会学術総会	根治的放射線療法を施行した切除不能局所進行非小細胞肺癌における栄養および炎症性マーカーの意義	2018
栗山 翔	日本医科大学	筆頭	学会発表	癌免疫外科研究会	新規血管新生阻害薬afiberceptの使用経験	2019
栗山 翔	日本医科大学	筆頭	学会発表	癌局所療法研究会	当院における腹膜播種症例の検討	2019
栗山 翔	日本医科大学	筆頭	学会発表	大腸肛門病学会	当院におけるRamucirumabの使用経験	2019
栗山 翔	日本医科大学	筆頭	学会発表	消化器外科大会 (JDDW)	腺癌とmixed neuroendocrineadenocarcinomaのS状結腸重複癌の一例	2019
原田潤一郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第81回 日本臨床外科学会総会	幽門狭窄を伴う高度進行胃癌に対する腹腔鏡下胃空腸Roux-Yバイパス術の有用性に関する検討～Billroth-II法式と比較して～	2019
原田潤一郎	日本医科大学	筆頭	学会発表	第32回 日本内視鏡外科学会総会	幽門狭窄を伴う高度進行胃癌に対する腹腔鏡下胃空腸Roux Yバイパス術と幽門側胃切除による2期的手術	2019
一瀬友希	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第16回日本肺癌学会関東地方会	低血糖による意識消失発作を合併した乳房葉状腫瘍の一例	2019
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会	食道癌による嚥下障害に対する放射線治療の検討	2016
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会第29回学術大会	Benefit and Toxicity of Radiation Therapy for Dysphagia in Cases of Esophageal Cancer	2016
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	その他	第1回Tokyo Urological Cancer Conference	当院におけるゾーフィゴ®の初期使用経験	2017
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第53回日本医学放射線学会秋季臨床大会	塩化ラジウム-223治療期間中での画像評価についての検討	2017
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第55回日本癌治療学会学術集会	当院における塩化ラジウム-223の初期使用経験	2017
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会第30回学術大会	塩化ストロンチウム-89と塩化ラジウム-223投与が骨代謝マーカーに与える変化の比較	2017
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第454回日本医学放射線学会関東地方会定期大会	Xe-CTを用いた肺機能画像の放射線治療計画への利用、および新たな指標の検証	2018
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	日本放射線腫瘍学会 第31回学術大会	Xe-CTを用いた肺機能画像の、放射線治療計画への利用についての検証	2018
内海暢子	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第78回日本医学放射線学会総会	Evaluation of radiotherapy treatment planning based on functional imaging using Xe-CT	2019
北山沙知	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第38回日本アンドロロジー学会	患者由来精巣がん3次元培養系における低酸素シグナル制御による精巣がん新規治療法の探索	2019
北山沙知	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	第17回 RCGMフロンティアシンポジウム	患者由来精巣がん3次元培養系における低酸素シグナル制御による精巣がん新規治療法の探索	2019
北山沙知	埼玉医科大学	筆頭	学会発表	がん3次元培養研究会	患者由来精巣がん細胞3次元培養系における低酸素応答シグナルの活性化	2019
利田明日香	お茶の水女子大学	筆頭	学会発表	第43回日本遺伝カウンセリング学会	遺伝性疾患を持つ子どもへの告知に関する質的研究—告知の際に必要と考えられる条件について—	2019
井坂美帆	お茶の水女子大学	筆頭	学会発表	日本人類遺伝学会第64回大会	医学部を有する大学の特許出願件数に影響を及ぼす要因の検討	2019
加藤ももこ	お茶の水女子大学	筆頭	学会発表	第25回日本遺伝性腫瘍学会学術集会	遺伝性腫瘍の当事者における遺伝リテラシーの現状調査—遺伝カウンセリングが遺伝リテラシーに及ぼす影響—	2019
加藤ももこ	お茶の水女子大学	筆頭	学会発表	第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	遺伝カウンセリングが遺伝性腫瘍当事者の遺伝リテラシーに及ぼす影響	2019
森田真未	お茶の水女子大学	筆頭	学会発表	第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会/第26回日本遺伝子診療学会大会 合同学術集会	遺伝医療における地域連携に関する研究	2019

学会認定資格の取得状況

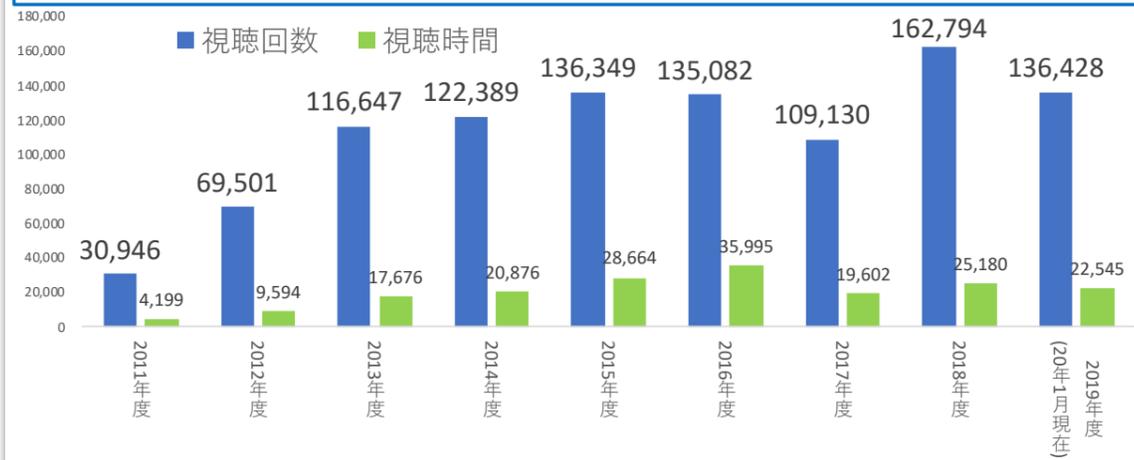
資格を認定した学会名	取得人数
日本内科学会	10
日本がん治療認定医機構	6
日本臨床腫瘍学会	4
日本外科学会	4
日本消化器外科学会	4
日本呼吸器外科学会	3
日本血液学会	3
日本呼吸器内視鏡学会	3
日本呼吸器学会	2
日本脳神経外科学会	2
日本乳癌学会	2
日本脳神経血管内治療学会	2
日本小児科学会	2
日本泌尿器科学会	2
日本産婦人科学会	2
日本遺伝カウンセリング学会	2
日本血液学会認定	1
日本放射線腫瘍学会	1
日本脳卒中学会	1
日本耳鼻咽喉科学会	1
日本周産期・新生児医学会	1
日本英語検定協会	1
日本医学放射線学会	1
日本内視鏡外科学会	1
日本消化器病学会	1
日本内分泌外科学会	1
日本輸血・細胞治療学会	1
日本内分泌学会	1
日本神経内視鏡学会	1
日本造血細胞移植学会	1
総計	67



全国がんプロe-learning クラウド
取り組み

全国e-learningクラウド取り組み

9年間に、100万回コンテンツ、17万時間を超える視聴回数



ユーザ総数



新がんプロ：3科目の設定(2017～)

がんゲノム医療	小児・AYA・希少がん	ライフステージに応じたがん医療
1. ゲノム医学の基礎とがんゲノム	1. 小児・AYA世代の特徴	1. ライフステージに応じたがん予防医学
2. がんゲノム医療総論	2. 小児・AYA世代のがん治療総論	2. ライフステージにおける壮年期がん医療
3. がんゲノム医療の実際：1 体細胞変異がん(1)	3. 小児・AYA世代腫瘍各論1 (この時期特有の腫瘍)	3. ライフステージにおける高齢者がん医療－機能・合併症の特徴と評価
4. がんゲノム医療の実際：2 体細胞変異がん(2)	4. 小児・AYA世代腫瘍各論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	4. ライフステージにおける高齢者がん医療－治療の特徴
5. がんゲノム医療の実際：3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん)	5. 希少がん(小児・AYA世代以外)	5. ライフステージに応じた包括的支援
6. ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	6. 晩期合併症と長期フォローアップの問題点(1)	6. ライフステージにおける終末期のがん医療
7. がんゲノム医療に必要な体制と人材	7. 晩期合併症と長期フォローアップの問題点(2)	7. 社会とがん医療
8. がんゲノム医療の応用と将来	8. 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援(1)	8. ライフステージに応じたがん医療の臨床試験
	9. 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援(2)	

e-learningの収録・アップロード状況 (全国連携校)

講義項目	講義コマ登録数	全国公開	公開範囲制限
1. ゲノム医学の基礎とがんゲノム	8	7	1
2. がんゲノム医療総論	8	6	2
3. がんゲノム医療の実際：1 体細胞変異がん(1)	10	9	1
4. がんゲノム医療の実際：2 体細胞変異がん(2)	9	7	2
5. がんゲノム医療の実際：3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん)	10	8	2
6. ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	6	5	1
7. がんゲノム医療に必要な体制と人材	7	6	1
8. がんゲノム医療の応用と将来	4	4	-
合計	62	52	10

講義項目	講義コマ登録数	全国公開	公開範囲制限
1. 小児・AYA世代の特徴	7	7	-
2. 小児・AYA世代のがん治療総論	11	8	3
3. 小児・AYA世代腫瘍各論1 (この時期特有の腫瘍)	10	6	4
4. 小児・AYA世代腫瘍各論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	8	8	-
5. 希少がん(小児・AYA世代以外)	10	6	4
6. 晩期合併症と長期フォローアップの問題点(1)	11	9	2
7. 晩期合併症と長期フォローアップの問題点(2)	6	4	2
8. 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援(1)	4	3	1
9. 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援(2)	5	4	1
α枠 粒子線治療の臨床	-	-	-
合計	72	55	17

講義項目	講義コマ登録数	全国公開	公開範囲制限
1. ライフステージに応じたがん予防医学	6	5	1
2. ライフステージにおける壮年期がん医療	6	6	-
3. ライフステージにおける高齢者がん医療－機能・合併症の特徴と評価	7	6	1
4. ライフステージにおける高齢者がん医療－治療の特徴	7	5	2
5. ライフステージに応じた包括的支援	8	7	1
6. ライフステージにおける終末期のがん医療	12	12	-
7. 社会とがん医療	7	6	1
8. ライフステージに応じたがん医療の臨床試験	6	5	1
合計	59	52	7



e-learning 新3科目カリキュラム

がんゲノム医療のカリキュラム

講義項目		Chapter・・・全国で討議したデフォルト			
番号	講義項目名 (全国共通: fix)	シラバス	想定されるchapter名 (例)	chapter数 (15-20分/ chapter)	
1	ゲノム医学の基礎とがんゲノム	遺伝子の病気としてがんの生物学的意味、がんゲノム医療の実際を理解出来るように、基礎生物学、遺伝学の知識を学ぶ。	ゲノムと生命現象に関わる基盤的知識	セントラルドグマとゲノム多様性、ゲノム異常の種類、ゲノムと生命現象に関わる基盤的知識を学ぶ	1.5
			ゲノム異常とがん	ゲノム異常と発がん、遺伝性(家族性)がん、がん遺伝子・がん抑制遺伝子、がんの浸潤と転移等、発がんやがん病態の様々なプロセスに関わるゲノム異常について概要を学ぶ	2
			ゲノム・オミックス解析手法	核酸抽出法、DNA/RNAの品質の検査法とその評価法、シーケンシングの原理、次世代型シーケンサー、癌関連遺伝子/全エクソーム/全遺伝子シーケンシングの方法論	1.5
2	がんゲノム医療総論	がんゲノム医療の3つのアプローチ(1)既存医薬品の選択(コンパニオン診断)、(2)遺伝子パネル検査(医学的意義が明らかになった遺伝子変異等について、複数同時に測定する検査。当該変異をターゲットとする医薬品が承認されていない変異も含む)、(3)全エクソーム解析、全ゲノム解析を理解する。がんにおけるゲノム異常が、現在、臨床医療にどのように使われているか、国内外の状況を踏まえて理解する。最新のゲノム解析手法とそれらに関する利点・欠点等についての基盤的知識を学ぶ。また、ゲノム医療に使われる検体の取り扱い、膨大なゲノム情報の実際の利用の仕方を学ぶ。	がんゲノム医療とは	コンパニオン診断、遺伝子パネル検査、全エクソーム解析、全ゲノム解析の概論、Cancer Precision Medicineの概念。	1
			がんゲノム医療の世界と日本の状況		0.5
			ゲノム・オミックス解析手がんゲノム薬学(Pharmacogenomics)	①抗がん剤のPK/PDと遺伝子多型・薬物間相互作用 ②抗腫瘍薬の効果や副作用に影響を与える遺伝的因子 ③核酸医薬を用いた薬物療法 ④DDS研究による核酸医薬品の輸送システムの構築、ゲノム薬理などの全般的な情報について概説する	2
			ビッグデータ解析・バイオインフォマティクス	バイオインフォマティクスとはなにか、ゲノム医療の新たな展開の基盤をなすビッグデータ解析について、公共データベースへのアクセス法、解析ソフトへのアクセス法と利用の実際	1
			臨床検体採取の実際と注意点	手術摘出検体の採取、保管法、血液などの正常検体の採取	0.5
3	がんゲノム医療の実際: 1 体細胞変異がん(1)	非遺伝性腫瘍におけるゲノム異常と医療への応用。各種がんにおけるdriver mutation, Biomarkerを把握し、それらを含めた遺伝子パネル検査、liquid biopsy、がんゲノム薬学(Pharmacogenomics)、コンパニオン診断などについて学ぶ。各臓器におけるがんゲノム医療の実際について学ぶ。	遺伝子診断による個別化医療と疾患リスク評価	癌関連遺伝子のパネル検査の実際	1.5
			Cancer Precision Medicine	ゲノム情報に基づく既存治療薬の選択(コンパニオン診断)	
			Cancer Precision Medicine	Cancer Precision Medicineの基本概念、Genomic Biomarkerによる発がん予測、がんのなり易さ	1.5
4	がんゲノム医療の実際: 2 体細胞変異がん(2)	各種がん(臓器別)におけるゲノム医療	Treatment Sequenceからみたバイオマーカー解析	driver mutationをはじめ分子標的薬や免疫療法、殺細胞性抗癌剤などの治療薬選択に必要なバイオマーカーを治療前および治療過程で効率的に測定し、耐性出現に迅速に対応し、可能性のある薬剤をフルに使いついでいくためのtreatment sequenceからみたゲノム医療を学ぶ	2
			がんゲノム医療における支持療法		1
			各種がん(臓器別)におけるゲノム医療	各領域がんにおけるゲノム医療の実際	4

講義項目		Chapter・・・全国で討議したデフォルト			
番号	講義項目名(全国共通: fix)	シラバス	想定されるchapter名(例)	chapter数 (15-20分/ chapter)	
5	がんゲノム医療の実際: 3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん)	家族性腫瘍・遺伝性腫瘍に対するゲノム医療の実際を包括的に学ぶ。	遺伝性腫瘍総論	遺伝性腫瘍の疫学、臨床的特徴、診断法などを学ぶ	1
			遺伝性腫瘍各論	i) リンチ症候群、ii) 遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC) iii) その他の遺伝性腫瘍	2
			遺伝カウンセリング	遺伝性(家族性)がん患者へのカウンセリングの必要性と実際	1
			ゲノム情報に基づく先制医療	遺伝性(家族性)がん素因を持つ人に対するサーベイランス、早期発見、早期治療などの予防医療について学ぶ	1
6	ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	ゲノム医療に関わる個人情報の定義、その保護義務、倫理的問題、社会的問題について学ぶ。二次的遺伝子変化検出。	ゲノム医療と倫理	ゲノム医療における個人情報管理、個人情報保護、治験参加に対する倫理も含む	1
			ゲノム研究と個人情報保護		1
			ゲノム医療に関わる患者相談システムに関連する制度	ゲノム医療に関わる医療職者の理解、遺伝カウンセラーとの連携、個人情報保護と相談のための体制構築の方法	1
			網羅的遺伝子解析と二次的所見		1
7	がんゲノム医療に必要な体制と人材	遺伝カウンセリング、情報提供後の患者・家族の心理的サポート、ゲノム医療と保険診療、等、ゲノム医療の展開に不可欠な多職種によるサポートと社会的な体制について学ぶ。がんゲノムコンソーシアム。	がんゲノム看護及びがん遺伝看護		1
			遺伝相談と患者・家族の心理的サポート	情報(不利な情報も含め)提供後の患者・家族の心理的サポート	1
			遺伝子パネル検査の患者への伝達	精度の高い情報提供方法と患者のこの負担を減らすための支援方法ー実際の治療を受ける患者に対する支援ー	1
			ゲノム医療を遂行するために必要な社会システム	ゲノム医療と保険診療、等ゲノム医療の展開に不可欠なサポートとその体制構築について学ぶ	1
8	がんゲノム医療の応用と将来	ゲノム医療の新たな展開に向けて、新規治療標的やバイオマーカーの探索、有用性を証明するための臨床試験デザイン、トランスオミックス解析やAI(人工知能)の利用等、将来へ向けての展開とその可能性について学ぶ。癌ゲノム医療に関する臨床試験/治験の実際。	がんゲノム知識データベースの構築	医療機関に対し、遺伝子変異の臨床的意義の提供等の診療支援を行う機能、制度の構築について学ぶ。	
			分子標的薬のバイオマーカーの探索と臨床試験		
			ゲノム情報に基づく創薬		
			ゲノム情報に基づく予防医療		

小児・AYA・希少がんのカリキュラム

講義項目		Chapter・・・全国で討議したデフォルト			
番号	講義項目名 (全国共通: fix)	シラバス	想定されるchapter名 (例)	chapter数 (15-20分/chapter)	
1	小児・AYA世代の特徴	小児・AYA (Adolescent and Young Adult) 世代の身体的特徴、精神心理的問題、社会的問題などの概論、同世代に発症する悪性腫瘍の特徴、代表的な疾患とその基礎的な知識、および同世代に発症する遺伝性腫瘍と遺伝カウンセリングを含めた実地診療での対応について学ぶ。	小児、AYA世代の身体的特徴	小児およびAYA (Adolescent and Young Adult) 世代の診療を行なうために必要な身体的特徴の概論を学ぶ	1
			小児、AYA世代の精神心理、社会的特徴	小児およびAYA (Adolescent and Young Adult) 世代の診療を行なうために必要な精神心理的問題、社会的問題などの概論を学ぶ	1
			小児がん、AYA世代のがん overview	小児期、AYA世代に発症する悪性腫瘍の特徴、代表的な疾患、診療を行うために必要とされる基礎的な知識について学ぶ	2
			小児・AYA世代に発症する遺伝性腫瘍・染色体異常	小児・AYA世代に発症する遺伝性腫瘍と遺伝カウンセリングを含めた実地診療での対応について学ぶ	1
2	小児・AYA世代のがん治療総論	小児・AYA世代におけるがんの化学療法、手術療法、放射線治療および緩和治療の概論を成人と比較しながら学ぶ。さらにこの世代を対象とした全日本共同研究体制、国際共同研究体制について学び、その課題について知る。	小児・AYA世代のがん薬物療法概論	小児・AYA世代におけるがん化学療法の実践について、薬効や副作用の個人差に加え、就学時期における薬物療法の課題点を学ぶ	1
			小児領域における薬物動態	小児がん患者に薬物投与をする際、成人との違い、注意点を学ぶ (薬学的な視点から)	1
			小児・AYA世代のがん外科治療の適応と役割	小児・AYA世代がんに対して手術療法が適応となる癌種、その術式の特徴、成長を考慮した手術術式について学ぶ	1
			小児・AYA世代のがん放射線治療概論	小児・AYA世代がんに対する一般放射線治療の適応や治療成績、課題について学ぶ	1
			小児・AYA世代のがん緩和治療概論		1
			小児がんの全国・国際共同研究体制について	小児がんを対象とした全日本共同研究体制、国際共同研究体制について学び、積極的に参画するきっかけとする。	1
3	小児・AYA世代腫瘍各論1 (この時期特有の腫瘍)	小児・AYA世代における小児固形腫瘍 (神経芽腫、肝芽腫・腎芽腫など)、胚細胞性腫瘍・奇形腫群腫瘍、造血器腫瘍、脳・脊髄腫瘍、円形肉腫の年齢に応じた特徴・差異と診断・治療について学ぶ。	小児固形腫瘍 (神経芽腫・肝芽腫・腎芽腫など)	小児・AYA世代における小児固形腫瘍 (神経芽腫、肝芽腫・腎芽腫など) の診断と治療について学ぶ	1
			胚細胞性腫瘍・奇形腫群腫瘍 (小児・AYA世代)	胚細胞性腫瘍・奇形腫群腫瘍の一般的な特徴、診断、治療と、年齢に応じた腫瘍の特徴と差異について学ぶ	1
			造血器腫瘍 (小児・AYA世代)	小児・AYA世代に多い造血器腫瘍の種類、診断と治療、特に治療プロトコルの特徴と骨髄移植の適応、長期的な課題点について学ぶ	1
			脳・脊髄腫瘍 (小児・AYA世代)	小児・AYA世代に多い脳腫瘍の特徴、診断、治療について学ぶ。腫瘍摘出、放射線治療に伴う晩期毒性についても学ぶ。(神経芽腫は別項)	1
			横紋筋肉腫・ユーイング肉腫 (小児・AYA世代)	強力な化学療法の導入により治療成績が向上した円形肉腫の診断、治療と集学的治療の重要性を学ぶ。	1
4	小児・AYA世代腫瘍各論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	AYA世代に発症する婦人科がん、乳がん、甲状腺がん、その他の臓器のがんの早期発見・治療の重要性および妊孕性を温存した治療法について学ぶ。	AYA世代婦人科がん	AYA世代多い婦人科がんについて学ぶ。特に子宮頸がんや卵巣がんの早期発見および早期治療の重要性および妊孕性を温存した治療法について学ぶ	1
			AYA世代乳がん	AYA世代に発症する乳がんの特徴を学ぶ。早期発見の重要性と早期診断および妊孕性を温存する治療法の可能性を学ぶ	1
			AYA世代甲状腺がん	AYA世代に発症する甲状腺がんの特徴とスクリーニング・早期発見の課題点を学ぶ。	1
			呼吸器・消化器領域における若年者の悪性腫瘍の診断と治療	呼吸器・消化器領域にみられる若年者悪性腫瘍について実際の症例を提示するとともに病理診断のポイントや課題点、最新の治療法について学ぶ	1
5	希少がん (小児・AYA世代以外)	認知度が低く診断・治療データが限られた希少がんの特徴、診断と治療、支援、およびそれらの課題について学ぶ。	希少がん (小児・AYA世代以外) の課題総論	小児・AYA世代以外の希少がんについて、その課題を総論的に学ぶ	2
			希少がん各論 1	希少がん 1 の特徴、診断、治療について学ぶ	1
			希少がん各論 2	希少がん 2 の特徴、診断、治療について学ぶ	1
			希少がん各論 3	希少がん 3 の特徴、診断、治療について学ぶ	1

講義項目		Chapter・・・全国で討議したデフォルト			
番号	講義項目名 (全国共通: fix)	シラバス	想定されるchapter名 (例)	chapter数 (15-20分/chapter)	
6	晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (1)	小児がん薬物療法、放射線治療、手術療法後の晩期合併症 (成長障害、内分泌機能障害、妊孕性、認知機能障害など) と2次がんのリスク、および長期的経過観察と2次がんのサーベイランスなどについて学ぶ。小児・AYA世代がん患者の性腺機能と妊孕性温存問題について。がん治療が性腺機能と妊孕性に与える影響、妊孕性温存療法および生殖補助医療のアップデート。	小児・AYA世代がんのフォローアップと成人後の診療における問題点	小児がんサバイバーのフォローアップ、2次がん、晩期臓器障害総論、小児科-成人科の間でのがん難民問題について学ぶ	1
			薬物療法と晩期有害事象	薬物療法後の2次癌以外の晩期有害事象 (成長障害、内分泌機能障害、妊孕性、精神発達遅滞など) リスクについて学ぶ	1
			放射線治療と晩期有害事象	放射線治療後の2次癌以外の晩期有害事象 (成長障害、内分泌機能障害、妊孕性、精神発達遅滞など) リスクについて学ぶ	1
			外科治療と晩期有害事象	術後の晩期臓器障害の問題について学ぶ。短腸症候群などの栄養障害、ホルモン欠損による成長障害など。	1
7	晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (2)	小児・AYA世代がん患者の性腺機能と妊孕性温存問題について。がん治療が性腺機能と妊孕性に与える影響、妊孕性温存療法および生殖補助医療のアップデート。	がん治療と2次発癌	小児がんを克服した患者の長期的経過観察や小児がん治療の際に行った治療による2次癌のサーベイランス、がん治療後の2次癌リスクについて学ぶ	1
			女性がん患者に対する、妊孕性に関する情報と生殖補助医療	卵巣毒性をもつ抗がん剤や放射線治療をうけることにより卵巣予備能が低下するリスクを有する女性がん患者の治療前卵子凍結保存について学ぶ。	1
			男性がん患者に対する、妊孕性に関する情報と生殖補助医療	精巣毒性をもつ抗がん剤や放射線治療をうけることにより精巣機能低下のリスクを有する男性がん患者の治療前精子凍結保存について学ぶ。	1
			妊孕性温存療法の対象と妊孕性温存療法 (婦人科がん)	子宮頸がん、体がん、卵巣がん患者に対する妊孕性温存治療選択の際の、がんの拡がりの程度、組織型などの基準と各々のがん種につき温存治療法について学ぶ	1
			妊孕性温存療法の対象と妊孕性温存療法 (乳がん)	若年乳がん患者に対する抗がん剤の妊孕性低下リスク、妊孕性温存治療の対象、適応と診療の現場における実践、乳癌治療後の妊娠と出産について学ぶ。	1
			妊孕性温存療法の対象と妊孕性温存療法 (小児がん: 女性)	妊孕性温存療法の対象と妊孕性温存療法 (小児がん: 女性)	1
			妊孕性温存療法の対象と妊孕性温存療法 (小児・AYA男性がん)	妊孕性温存療法の対象と妊孕性温存療法 (小児・AYA男性がん)	1
			小児・AYA世代におけるがん看護 (総論)	小児・AYA世代のがんに特有な看護の問題について総論的に学ぶ	1
8	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)	小児・AYA世代のがん経験者の就学、就職、就労、恋愛・結婚、出産など、壮年・高齢のがん患者とは異なる小児・AYA世代特有の問題についての概論、教育の現状と課題、精神発達への影響、病気や治療への不安・ストレスへの支援、意思決定支援、家族 (配偶者や兄弟姉妹) 支援およびエンドオブライフケアなどについて学ぶ。	妊婦に対するがん治療と看護	がん合併妊娠の治療と管理、治療方針決定における現状と課題、意思決定支援、多職種との連携、社会的資源、家族 (夫やきょうだい) への看護	1
			小児・AYA世代がん患者の家族ケア	家族が代理意思決定する際の支援、意思決定支援、親子関係・同胞との関係性	1
			小児・AYA世代がん患者の意思決定支援	発達段階を考慮した子供の意思決定支援、倫理的課題	1
			小児・AYA世代に対するがん緩和ケア	小児・AYA世代の緩和ケアの定義、利用できる社会資源、AYA世代の特性を踏まえた意思決定支援、小児緩和ケアに関する研究、国内外の体制	1
9	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	小児・AYA世代のがん経験者の就学、就職、就労、恋愛・結婚、出産など、高齢のがん患者とは異なる小児・AYA世代特有の問題についての概論、教育の現状と課題、精神発達への影響、病気や治療への不安・ストレスへの支援、意思決定支援、家族 (配偶者や兄弟姉妹) 支援およびエンドオブライフケアなどについて学ぶ。	小児・AYA世代がんサバイバーの問題点 (総論)	小児・AYA世代のがん経験者の就学、就職、就労、恋愛、結婚、出産など、高齢のがん患者とは異なる小児・AYA世代特有の問題について総論的に学ぶ	1
			入院患者への教育支援、復学支援	小児・AYA世代のがん患者の教育現状と課題、心理的サポート、国内外で比較した場合の教育の現状と課題、学校現場と医療機関の連携および看護師の役割、Webを使用した教育支援の現状、療養と教育のコーディネート、教育の意義	1
			がんの精神発達への影響	小児期、思春期にがん診療を受けることによる精神発達への影響について学ぶ	1
			小児・AYA世代がん患者に対する心理的支援	小児・AYA世代がん患者の特徴、病気や治療への不安、入院・治療やその副作用に伴うストレスへの支援、自立・自己管理を	1
		小児・AYA世代がん患者が遭遇する就労などの社会生活に対する支援について学ぶ、経済的な負担、学校の問題、友人との関係性、教育支援		1	

ライフステージに応じたがん医療のカリキュラム

講義項目		Chapter・・・全国で討議したデフォルト		
番号	講義項目名 (全国共通: fix)	シラバス	想定されるChapterタイトル (例)	chapter数 (15-20分/chapter)
1	ライフステージに応じたがん予防医学	がん医療における予防医学の重要性を理解し、具体的方法について各予防分類にそって学ぶと共にがん教育の実践方策についても学ぶ	一次予防のエビデンス	1
			がん検診の意義・エビデンスと課題	1
			一次・二次予防とがん教育	1
			多重がん・二次がん	1
			三次予防	1
2	ライフステージにおける壮年期がん医療	壮年期がん患者の社会的特徴を理解した上で、就労を継続しつつ有効ながん治療を提供するための方法について学ぶ。	壮年期の課題	1
			女性壮年期がんの医学的問題	1
			入院期間を最短化する外科治療と就労支援	1
			外来放射線治療と就労支援	1
3	ライフステージにおける高齢者ががん医療一機能・合併症の特徴と評価	高齢者における臓器機能の低下の特徴とその評価方法について学ぶ。	高齢者の臓器機能	1
			高齢者患者に多い合併症	1
			高齢者と認知機能	1
			高齢者の機能評価 (Comprehensive geriatric assessment)	1
			CGAの実際とエビデンス	1
			CGAの実践とエビデンス	1
4	ライフステージにおける高齢者ががん医療一治療の特徴	臓器機能低下を有する高齢者に対するがん治療方法の特徴と課題について学ぶ。	フレイルにおける外科治療	1
			腎機能低下時の薬物療法	1
			高齢者における緩和ケア	1
			CGAに応じた治療法選択	1
			高齢者が利用可能な社会的支援	1

講義項目		Chapter・・・全国で討議したデフォルト		
番号	講義項目名 (全国共通: fix)	シラバス	想定されるChapterタイトル (例)	chapter数 (15-20分/chapter)
5	ライフステージに応じた包括的支援	がん体験者のQOLを維持・向上させる具体的な働きかけについて、体験者のライフステージに対応した支援方法を学ぶ	健康関連QOLと臨床応用	1
			治療の晩期合併症	1
			サバイバーへの支援	2
6	ライフステージにおける終末期のがん医療	外科・放射線・薬物療法の適応がない終末期の緩和ケアを行うにあたってライフステージ毎の特有の問題点があること、その対策について学ぶ。	がん患者家族への支援	1
			Advanced Care Planning	1
			End of life care-1	1
			End of life care-2	1
7	社会とがん医療	社会保障、福祉、医療経済に焦点を当てがん患者をとりまく社会の状況について学ぶ。	グリーフケア	1
			がん患者が地域で暮らすための支援	1
			がん医療と医療経済学総論	1
			高齢者を取り巻く医療環境が抱える課題	1
			がん患者会の運営支援	1
8	ライフステージに応じたがん医療の臨床試験	ライフステージに応じたがん治療のクリニカルエッセンスを解決するためには臨床試験が必要である。高齢者を対象とした臨床試験を多職種で行う試験デザインについて事例から学び、その方向性を模索する。	がん教育	1
			高齢者臨床試験は何を目指すか？	1
			医学的観点からの高齢者臨床試験のエンドポイントと実際	1
			薬学的観点からの高齢者臨床試験のエンドポイントと実際	1
			看護学的観点からの高齢者臨床試験のエンドポイントと実際	1

e-learning 取り組み



外部評価シンポジウム

開催日時：2020年2月21日（金） 10:00～14:10

会場：秋葉原UDXカンファランス 4F ギャラリーNEXT-3

プログラム

代表者挨拶及び委員紹介 (10:00-10:05)

1部：各大学の取り組み (10:05-11:10)

総括・・・・・・・・・・5分
筑波大学・・・・・・・・・・10分
千葉大学・・・・・・・・・・10分
群馬大学・・・・・・・・・・10分
日本医科大学・・・・・・・・・・3分
獨協医科大学・・・・・・・・・・3分
埼玉医科大学・・・・・・・・・・3分
茨城県立医療大学・・・・・・・・・・3分
群馬県立県民健康科学大学・・・・・・・・・・3分
東京慈恵会医科大学・・・・・・・・・・3分
昭和大学・・・・・・・・・・3分
星薬科大学・・・・・・・・・・3分
上智大学・・・・・・・・・・3分
お茶の水女子大学・・・・・・・・・・3分

3コース毎の分科会 (昼食・コーヒープレイク) (11:10-12:10)

2部：コース毎の取り組みと今後の展望 (12:10-12:45)

がんゲノム医療人養成コース：群馬大学 (10分)
小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース：筑波大学 (10分)
包括的ライフステージサポート医療人養成コース：千葉大学 (10分)
インテンシブコース コース：筑波大学 (5分)

3部：講評 (13:00-14:00) 外部評価委員 (予定5名) から

松浦成昭
小嶋修一
矢野聖二
山本ゆき
志賀俊彦

代表者挨拶 (14:00～)

プレゼンテーション資料

1部：各大学の取り組み

【総括】

関東がん専門医療人養成拠点 コーディネーター
筑波大学医学医療系 消化器外科
小田 竜也
消化器外科 大和田洋平

目次

- 関東がん専門医療人養成拠点の概要
 - ▶ 関東がん専門医療人養成拠点の概要
 - ▶ 新3コース設定の取り組み
 - ▶ 全国e-learning取り組みについて
- 筑波大学の取り組みについて
 - ▶ 正規生受け入れについて
 - ▶ 今後の活動について

関東がん専門医療人養成拠点の概要について

文部科学省OP がんプロフェッショナル養成プラン (がんプロ)

がん対策基本法 (2007年4月1日施行) (基本的施策)

- がんの予防及び早期発見の推進
 - ・がんの予防の推進
 - ・がん検診の質の向上等
- がん医療の均てん化の促進等
 - ・専門的な知識及び技能を有する医師
 - ・そのほかの医療従事者の育成
 - ・医療機関の整備等
 - ・がん患者の療養生活の質の維持向上
- 研究の推進等

「がんに関わる人材育成・研究推進」の部分 → 大学院教育で!

がんプロの変遷

平成19年度 第1期
18拠点
平成24年度 第2期
15拠点
平成29年度 第3期
11拠点

新がんプロ多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン公募要項には、以下3つのコースを設置することが条件として記載されている。

- がんゲノム医療従事者の養成
- 小児・AYA・希少がんに対応できる医療人材の養成
- ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成

関東がん専門医療人養成拠点 11拠点の中で最多の連携大学数 (計13大学)

筑波大学

新3コース設定の取り組みについて

関東がん専門医療人養成拠点 コース設置一覧

●: リーダー校

設置するコース	ゲノム医療コース	小児・AYA・希少がん	ライフステージ	インテンシブコース
筑波大学	○	●	○	○
千葉大学	○	○	●	○
群馬大学	●	○	○	○
日本医科大学	○	○	○	○
慶応医科大学	○	○	○	○
埼玉医科大学	○	○	○	○
茨城県立医療大学	○	○	○	○
群馬県立県民健康科学大学	○	○	○	○
東京慈恵会医科大学	○	○	○	○
昭和大学	○	○	○	○
聖隷医科大学	○	○	○	○
上智大学	○	○	○	○
お茶の水女子大学	○	○	○	○

全国e-learningクラウド取り組みについて

全国e-learningクラウド取り組み

多大学、多職種連携に立ちあがる3つの壁

- 距離
- 時間
- 組織

e-learning system (PJ2)

プログラムジュークボックス (PJ) コンセプト

がんプロe-learning (プログラムジュークボックス™) は、多大学、多職種連携を叶えるために、一般のe-learningシステムとは全く異なる構造を持つ

① 1つのトピックスに複数の施設からの講義を登録できる。受講者の自由度、柔軟性を保つ。

② 複数大学の教員の共有：人的資源を効率的に集約する一つの対応方法。

③ 複数職種の教員の共有：人的資源を効率的に共有する一つの対応方法。

講義コンテンツの聴講画面

がんプロ拠点参加 (全国の大学) が提供している講義を聴講することができる



2017年～ 新がんプロ: 3科目の設定

がんゲノム医療	小児・AYA・希少がん	ライフステージに応じたがん医療
8項目 (コマ)	9項目 (コマ)	8項目 (コマ)

がんゲノム医療 e-learningの収録・アップロード状況 (全国全連携校)

講義項目	講義コマ登録数	全国公開	公開範囲制限
1 ゲノム医学の基礎とがんゲノム	8	7	1
2 がんゲノム医療概論	8	6	2
3 がんゲノム医療の実践: 1 体細胞変異がん (1)	10	9	1
4 がんゲノム医療の実践: 2 体細胞変異がん (2)	9	7	2
5 がんゲノム医療の実践: 3 生殖細胞変異がん (1)	10	8	2
6 ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	6	5	1
7 がんゲノム医療に必要な体制と人材	7	6	1
8 がんゲノム医療の応用と将来	4	4	-
合計	62	52	10

【筑波大学】

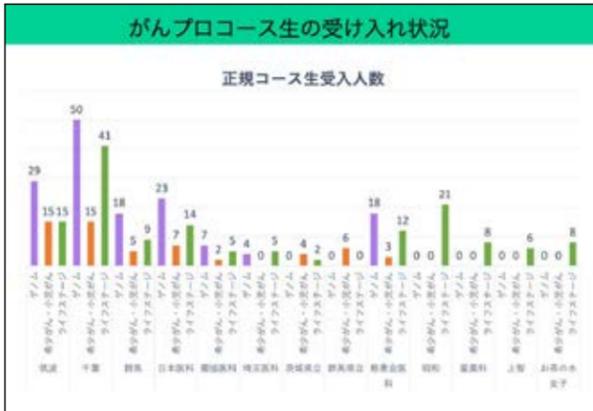
小児・AYA・希少がん e-learningの収録・アップロード状況 (全国全連携校)

講義項目	講義コマ登録数	全国公開	公開範囲制限
1 小児・AYA世代の特徴	7	7	-
2 小児・AYA世代のがん治療概論	11	8	3
3 小児・AYA世代治療各論① (この時期特有の腫瘍)	10	6	4
4 小児・AYA世代治療各論② (この時期に起る成人腫瘍)	8	8	-
5 希少がん(小児・AYA世代以外)	10	6	4
6 高齢合併症と長期フォローアップの問題①(1)	11	9	2
7 高齢合併症と長期フォローアップの問題②(2)	6	4	2
8 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援①(1)	4	3	1
9 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援②(2)	5	4	1
10 希少がん 粒子線治療の臨床	-	-	-
合計	72	55	17

ライフステージに応じたがん医療 e-learningの収録・アップロード状況 (全国全連携校)

講義項目	講義コマ登録数	全国公開	公開範囲制限
1 ライフステージに応じたがん予防医学	6	5	1
2 ライフステージにおける若年がん医療	6	6	-
3 ライフステージにおける高齢者がん医療—腫瘍・合併症の特徴と評価	7	6	1
4 ライフステージにおける高齢者がん医療—治療の特徴	7	5	2
5 ライフステージに応じた包括的支援	8	7	1
6 ライフステージにおける終末期のがん医療	12	12	-
7 社会とがん医療	7	6	1
8 ライフステージに応じたがん医療の臨床試験	6	5	1
合計	59	52	7

がんプロコース正規生受入状況について



がんプロコース正規生における論文・専門医取得などの活動について

論文・学会発表：英文 (筆頭のみ)

学部	学会発表	論文発表	総計
筑波大	19	15	34
千葉大	4	3	7
群馬大	13	7	20
日医	20	19	39
総計	56	44	100

論文・学会発表：和文 (筆頭のみ)

学部	学会発表	論文発表	その他	総計
筑波大	74	6	4	84
千葉大	11	1	-	12
群馬大	29	2	1	32
日医	74	2	3	79
埼玉医	12	-	1	13
お茶の水女子	5	-	-	5
総計	205	11	9	225

筑波大学 活動報告

- 大学院生受け入れ実績等
- インテンスコース生受け入れ実績
- 開催セミナー、シンポジウム

がんプロコースへのリクルート

プログラムパンフレット：新入生オリエンテーションにて配布

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績			
		H29	H30	R1	合計
ゲノム	医師	14	8	7	29
	医物理	0	0	0	0
小児AYA	医師	8	4	3	15
	医物理	0	0	0	0
ライフ	医師	4	3	6	13
	医物理	1	0	0	1
看護	看護	0	1	0	1

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

開催年月日	フォーラム等の名称	筑波大学 開催校 数	筑波大学 参加者 数	筑波大学 発表者 数	筑波大学 発表論文 数
平成29年2月14日	筑波大学がん生体医療ネットワークシンポジウム	○	35	50	3
平成29年7月13日	筑波大学がん生体医療ネットワーク	○	20	15	5
平成29年11月1日	がん生体医療ネットワーク (小児・AYA世代がん、希少がん関連)	○	17	8	14
平成30年2月1日	Cancer Area (ライフステージに応じたがん医療関連)	○	9	10	9
平成30年2月1日	HBOC教育セミナー (小児・AYA世代がん、希少がん関連)	○	10	10	3
平成30年4月25日	ライフステージ 看護国際セミナー	○	42	0	3
平成30年8月9日	講演会 がんゲノム医療の今後の展望	○	60	3	8
平成30年3月28日	がんゲノム医療 oxford week	○	271	10	3
平成30年11月29日	がんゲノム医療レクチャー 遠征平岡セミナー	○	50	5	2
平成30年12月22日	国際シンポジウムがん生体医療ネットワーク	○	83	46	30
平成31年2月27日	筑波大学生体医療ネットワーク	○	50	27	15
平成30年4月23日	ライフステージに応じたがん医療 市民公開講演	○	100	50	0
平成31年2月15日	キャンサーリサーチ アリーナ セミナー	○	40	15	2
平成31年2月15日	つくばがん研究会	○	40	15	2

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

開催年月日	フォーラム等の名称	筑波大学 開催校 数	筑波大学 参加者 数	筑波大学 発表者 数	筑波大学 発表論文 数
令和3年5月27日	がんゲノム医療 oxford week	○	183	3	1
令和3年7月18日	バイオバンクセミナー	○	15	0	0
令和3年7月18日	キャンサーリサーチアリーナ	○	150	10	10
令和3年7月20日	筑波大学生体医療ネットワーク	○	53	45	20
令和3年7月20日	がんゲノム医療 oxford week	○	59	0	0
令和3年2月14日	がんゲノム医療国際シンポジウム 予定	○	21	36	-
令和3年2月17日	Seminar for Pediatric Oncology in Tsukuba	○	50	-	-
令和3年2月18日	筑波大学生体医療ネットワーク	○	-	-	-
令和3年2月17日	キャンサーリサーチ アリーナ セミナー 予定	○	24	-	-
令和3年2月17日	つくばがん研究会 予定	○	24	-	-



- ### 今後
- e-learningの拡充
 - 教育リソースの共有
 - 新コース正規生募集の充実
 - インテンスコース 生募集の充実
 - 小児・AYA・希少がんネットワーク充実
 - 小児・AYA・希少がんの実践



第3期関東ガンプロ中間評価委員会-2020.2.21



関東がんプロ活動報告

千葉大学



千葉大学における取り組みの原則

- ・ 第3期開始時点で第2期がんプロ学生の2年次までは第3期プログラムに移行
- ・ がんを専門としない大学院生も参加可能とする
- ・ セミナー、演習などは多職種参加を原則とする
- ・ ライフステージ、小児・AYA、ゲノムコースの壁を作らない
- ・ 幅広い基礎を土台に、個人の専門性を高める
- ・ セミナー等開催には学生による運営を重視する

今後の展望

- ・ がんプロの利益を受けにくい薬学への対策
- ・ 専門医取得支援
- ・ 留学（国内・国外）支援
- ・ 患者会・患者支援団体との連携強化

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	種別	受入実績				在学者数(2現在)				修了者数
		H29	H30	R1	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	
ゲノム	医学	15	9	19	43	8	12	12	9	2
	看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児 AYA	医学	8	2	3	13	3	1	3	4	2
	看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ライフステージ	医学	16	5	8	29	6	5	16	2	0
	看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		48	21	36	105	21	20	33	23	8

医学：85
看護学：20

セミナー・シンポジウム開催状況

シリーズ	回数	Life-S	小・AYA	ゲノム	医	薬	看護	他
オノコロジーカンファレンス	13	○	○	○	○	○	○	○
薬剤師卒後教育研修講座	8 (9)	○	○	○	○	○	○	○
成人看護研究会	7	○	○	○	○	○	○	○
小児がん長期フォローアップ研究会	3	○	○	○	○	○	○	○
リンチ症候群対策協議会	5	○	○	○	○	○	○	○
ゲノム医療従事者研修会	3	○	○	○	○	○	○	○
ゲノム医療支援看護師研修会	3	○	○	○	○	○	○	○
ゲノム医療支援技師研修会	~70	○	○	○	○	○	○	○
Ad-hoc								
HBOC研修会in Chiba	1	○	○	○	○	○	○	○
エンドオブライフ研究会	1	○	○	○	○	○	○	○
クリニカルバイオバンク研究会シンポジウム	1	○	○	○	○	○	○	○

オノコロジーカンファレンス

回数	タイトル	開催日	参加者数
第55回	副腎がんの治療とその後	2017.8.2	48
第56回	がん化学療法のリスク管理	2017.9.26	72
第57回	がんと血栓症	2017.12.14	42
第58回	進歩するがんゲノム医療	2018.2.5	47
第59回	皮膚がん治療2018	2018.8.8	34
第60回	オンコカルディオロジー-腫瘍医と循環器専門医との連携	2019.1.25	35
第61回	下咽頭癌 治療と課題点	2019.2.13	33
第62回	千葉大学病院の化学療法導入の流れ	2019.9.11	45
第63回	緩和ケアの基本 痛み・気持ちのつらさ	2019.10.30	40
第64回	がん薬物療法の副作用マネジメント	2019.11.20	44
第65回	放射線療法	2019.12.11	37
第66回	社会資源	2020.1.15	36
第67回	免疫チェックポイント阻害薬-広がる適応とその課題-	2020.2.12 (予定)	

薬剤師卒後教育研修講座 (附属病院薬学部・大学附属薬学部・薬友会共催)

回数	タイトル	開催日	参加者数
第1回	疾病別シリーズ：腎臓、循環器、糖尿病 (2017年度)	2017/4/22	150人
第2回	処方監査の質の向上を目指して(2017年度)	2017/6/17	120人
第3回	かかりつけ薬局とプレアポイドを考える (2017年度)	2017/9/2	120人
第1回	高齢者の薬物治療を考える (1) (2018年度)	2018/4/21	140人
第2回	高齢者の薬物治療を考える (2) (2018年度)	2018/6/16	100人
第3回	スポーツ、サプリメント、ポリファーマシー (2018年度)	2018/9/2	100人
第1回	薬物相互作用を考える (2019年度)	2019/4/21	130人
第2回	がん、在宅医療、緩和医療を考える (2019年度)	2019/10/12	130人
第3回	感染症、心不全、在宅医療を考える (2019年度)	2019/11/30	120人

成人看護研究会

回数	タイトル	開催日	参加者数
1	専門職としての役割と向き合い活動における専門職の役割	2017.06.22	~20名
2	「がん社会科」の開設と看護学部の連携	2018.02.15	~20名
3	「がん社会科」の開設と看護学部の連携	2018.06.21	~20名
4	「がん社会科」の開設と看護学部の連携	2018.10.04	~20名
5	「がん社会科」の開設と看護学部の連携	2019.02.21	~20名
6	「がん社会科」の開設と看護学部の連携	2019.07.04	~20名
7	「がん社会科」の開設と看護学部の連携	2019.10.03	~20名

小児がん長期フォローアップ研究会

回数	タイトル	開催日	参加者数
1	小児がん長期フォローアップ研究会	2018.02.06	~50名 (ファミリー共催)
2	小児がん長期フォローアップ研究会	2019.04.04	~50名 (小児科共催)
3	小児がん長期フォローアップ研究会	2018.06.21	~70名 (小児科共催)

リンチ症候群・HBOC対策協議会 (ゲノム医療従事者の育成プログラム共催)

回数	内容	開催日	参加者数
1	第3回よりがんプロ共催となる	<情報収集中>	
2		2018.12.11	~30名
3		2019.06.11	~70名
4	毎回1~3の特別講演と施設間ディスカッション	2019.12.10	~80名
5		2020.07.07 (予定)	

ゲノム医療研修会

回数	開催日	参加者数
ゲノム医療従事者研修会		
1	2018.04.10	200
2	2019.06.11	120
3	2019.12.10	100
ゲノム医療支援看護師研修会		
1	2018.12.11	100
2	2019.11.29	50
3	2020.02.11	100
ゲノム医療支援技師研修会		
	2017~2019 隔週の火曜日	5~10名/回

市民公開講座 (2018)

がん市民公開講座

2018年12月17日(月) 13:00~16:00
千葉大学文化プラザ4階 (南)



市民公開講座 (2019)

「ひとり一人に合わせたがん治療」

1/13 (月) 13:00~16:00
千葉大学文化プラザ4階 (南)



市民公開講座 (2020)

「がんとのつきあい方」

1/19 (月) 13:00~16:00
千葉大学文化プラザ4階 (南)




千葉大学における取り組みの原則

- ・ 第3期開始時点で第2期がんプロ学生の2年次までは第3期プログラムに移行
- ・ がんを専門としない大学院生も参加可能とする
- ・ セミナー、演習などは多職種参加を原則とする
- ・ ライフステージ、小児・AYA、ゲノムコースの壁を作らない
- ・ 幅広い基礎を土台に、個人の専門性を高める
- ・ セミナー等開催には学生による運営を重視する

今後の展望

- ・ がんプロの利益を受けにくい薬学への対策
- ・ 専門医取得支援
- ・ 留学（国内・国外）支援
- ・ 患者会・患者支援団体との連携強化

医学のあふり (Forum)

患者のボランティア精神に依存するがん患者支援対策にもの申す
NPO 法人びあサポートわかば理事長、寺田佐代子
同理事 (藤田保健衛生大学医学部病理学)、堤 寛

※ 藤田 医学のあふり Vol. 244, No. 4, 2019年2月16日号

これくらいでは、病院側にしたら、人件費で消えてしまう。病院に協力する団体となる患者会には、別荘として、ボランティアによる連携が求められる。悪い手となる患者会に直接経済的援助をしている病院はおそらく少数に過ぎないだろう。

たとえば、病院機能評価やがん相談支援室の立ち上げに際して、「病院とがん患者会の連携」という条件を満たす必要から、患者会に対して院内での活動に関する資料提供が求められる。実際には、多くの場合、患者会の自助努力の成果であり、病院は活動場所の提供以外にはそれほど関与しなかったにもかかわらず……。このことを誰もおおいと思わないところが怖い。

金があればやる、なければしないとかでなく、ボランティアは自分が進んで行動するのが大原則であることはいうまでもない。しかし、患者の「ボランティア精神」を「利用する」がん対策は本末転倒ではないだろうか。必ずしも自分たちの要望ややりたいことでない企画にも、患者会が奉仕・貢献するハズになっている場合がある。医療機関も行政も、がん経験者が感じる、純粋にひとの役にしたいというひたむきな無償の貢献に「依存している」のが現状に近い。「がん対策って、誰がするのか？ 患者がするのか？」と感じること自体がおかしい。患者のための制度ははずが、その要件のために逆に患者側の金銭・マンパワーの持ちだしになっている現状をぜひ知ってほしい。

※ 藤田 医学のあふり Vol. 244, No. 4, 2019年2月16日号

千葉大学における取り組みの原則

- 第3期開始時点で第2期がんプロ学生の2年次までは第3期プログラムに移行
- がんを専門としない大学院生も参加可能とする
- セミナー、演習などは多職種参加を原則とする
- ライフステージ、小児・AYA、ゲノムコースの壁を作らない
- 幅広い基礎を土台に、個人の専門性を高める
- セミナー等開催には学生による運営を重視する

今後の展望

- がんプロの利益を受けにくい薬学への対策
- 専門医取得支援
- 留学（国内・国外）支援
- 患者会・患者支援団体との連携強化



【群馬大学】

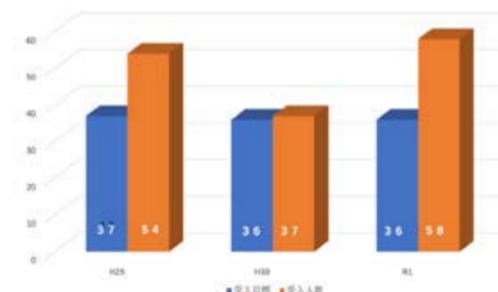
「多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材」養成プラン」
群馬大学の取り組み

群馬大学

群馬大学における各コースの受入状況

コース名	種別	受入実績				在学者数(2021年度)				修了者数
		H29	H30	R1	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	
ライフステージ	医学	1	4	3	8	3	3	1		1
	薬学									
	看護学	1			1					1
がんゲノム	医学	8	3	6	17	6	3	8		
	薬学	1	1		2	1				
	看護学	1			1					1
AYA小児	医学	1	2	1	4	1	2		1	1
	薬学									
	看護学	1			1					1

がんゲノムコースの受講状況の推移
目標との比較



e-ラーニングの充実

更新予定（講師に教材見直しのアンケート送付）

- 共通3-2 : 基礎腫瘍学
腫瘍生物学2
- 共通4-5 : 臨床腫瘍学概論
薬物療法の諸理論1
- 共通4-8 : 臨床腫瘍学概論
消化管がん
- 共通4-11 : 臨床腫瘍学概論
代表的疾患の標準治療4
造血器腫瘍

群馬大学における受講者へのヒアリング

群馬大学の受講者12名（全員医師）より意見聴取。

がんゲノム 6名
ライフステージ 6名

良い点

- e-learningは時間や場所の制約なく勉強できるのでよい。
- がんゲノムについて体系的に学べるよい機会。
- 統計や腫瘍学の基礎が学べてよかった。
- 一流の講師による充実した内容。
- ライフステージで普段学ぶ機会のない看護職さんの視点を学べて勉強になった。
- 医療倫理と研究発表の機会があり、参考になった。

悪い点

- 内容を更新してほしいところあり（免疫チェックポイントなど）。
- 講師によってだが、内容の重複がある。
- コマ数が多すぎる。
- 一つのビデオが長すぎる。

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)
1st International Symposium of MEXT Program "Fostering Health Professionals for Changing Needs of Cancer" (本学)	2018/2/17	64
2nd International Symposium of MEXT Program "Fostering Health Professionals for Changing Needs of Cancer" Genomic Medicine (千葉大担当)	2018/11/25	40
Genetic counseling related to cancer genome (筑波大担当)	2020/2/16	54
ゲノム医療市民公開講座 (本学)	2017/11/15	27
ゲノム医療市民公開講座 (埼玉医科大学主催)	2018/9/7,8	101
テクニカルセミナー-先端テクノロジーの基礎を学んで研究をステップアップさせよう:統計分析フリーソフトRを用いた統計解析の基礎	2018/8/7,8	27
IPAセミナー [Ingenuity Pathway Analysis]	2019/6/29	46
市民講座「気になる胃がんと大腸がん-内視鏡で早期発見・早期治療-」「がんになっても自分らしく働く~当事者と就労支援者の立場から~」(群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	2019/6/29	181

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)
研究会「化学療法について」「がん化学療法の看護」(群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	2019/7/11	72
研究会「癌の放射線療法」「放射線療法時の看護」(群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	2019/9/5	59
研究会「がんの痛みと薬物療法について」「疼痛マネジメントの実践」(群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	2019/10/10	72
研究会「胃癌治療の現状-手術療法と化学療法について-」「がん手術療法の看護(胃がん)」(群馬県がん診療連携協議会と共同開催)	2019/11/28	56

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況



参加人数: 54名
令和2年2月16日(日)

【日本医科大学】

第3期関東がんプロ中間評価委員会-2020.2.21



日本医科大学

e-learningコンテンツ

- ・ゲノム/小児AYA/ライフ3コースのコンテンツ作成
- ・75%のコンテンツは日本医科大学教員が作成
- ・15診療科、3基礎医学、看護など多くの分野教員が担当

【獨協医科大学】

第3期関東がんプロ中間評価報告会-2020.2.21



獨協医科大学



獨協医科大学

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績			在学者数(R.2現在)					修了者数
		H29	H30	R1	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	
ゲノム	医師	0	0	4	4	3	0	0	0	0
	歯科医師	3	0	0	3	0	0	0	0	1
小児AYA	医師	0	1	1	2	1	1	0	0	0
	看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ライフ	医師	0	0	1	1	4	0	0	0	0
	歯科医師	0	2	0	2	0	0	0	0	1
	看護教員	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	看護師	0	1	0	1	0	0	0	0	0

がんプロインテンシブコースは、開設していません。

がんゲノム医療 コース

講義名	単位数	担当教員	所属	修了者数
ゲノム医療の基礎	2.0	岡田 隆	東京大学	0
がんゲノム医療の現状	2.0	岡田 隆	東京大学	0
がんゲノム医療の未来	2.0	岡田 隆	東京大学	0

小児・AYA・稀少がん コース

講義名	単位数	担当教員	所属	修了者数
小児がんの診断と治療	2.0	小島 隆	東京大学	0
AYA世代のがん	2.0	小島 隆	東京大学	0
稀少がんの診断と治療	2.0	小島 隆	東京大学	0

「がんゲノム医療人養成協働コース」令和元年度修了者からの感想

- ・ゲノム医学の基礎から医療行為まで細かく勉強することができ、本質的な理解ができた。
- ・収録大学により内容や講義時間が異なり、どのような基準で区分されているのかが分りにくかった。

<改善点>

- ・各収録(各大学)ごとの講義内容の簡潔な要点を紹介を記述した一覧表(パンフレット)を作成すると、聴講しやすくなるのでは。

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	(学内参加者数)	(学外参加者数)
関東がん専門医療人養成セミナー	H29.11.29	15	0	0
がん細胞を用いた in vitro 実験法	R1.7.14	37	0	0

- ・関東がん専門医療人養成セミナー(2017)
 - ①ゲノム医学の基礎とがんゲノム テーマ：がんゲノム医療の基礎 担当教員：安戸博美(生化学)
 - ②小児・AYA世代の特徴 テーマ：小児・AYA世代がんの現状 担当教員：奥谷真由子(小児科学)
 これらの講義を収録し、e-learningとした。それぞれ60日以上聴講され好評か。
- ・がん細胞を用いた in vitro 実験法(2019) 基本医科学(大学院生対象の講義)の1コマとして、がん細胞の研究方法をがんプロ主催セミナーとして開催した。

ライフステージ コース

講義名	単位数	担当教員	所属	修了者数
がんの診断と治療	2.0	岡田 隆	東京大学	0
がんの予防と検出	2.0	岡田 隆	東京大学	0
がんの緩和ケア	2.0	岡田 隆	東京大学	0

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績			在学者数(R.2現在)					修了者数
		H29	H30	H31(R1)	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	
ゲノム	医師	10	4	9	23	10	4	9	0	0
小児AYA	医師	0	3	4	7	0	3	4	0	0
ライフ	医師	8	3	4	15	8	3	4	0	0

がんプロインテンシブコース 受入状況

コース名	職種	受入実績	修了者数
ゲノム		H31年度 (R1) 0	H31年度 (R1) 0
小児AYA		0	0
ライフ		0	0

<前がんプロからの履修者の活躍>

- 2017年度：2名修了
国際協力型集学的臨床腫瘍学指導者コース：内科学(呼吸器・アレルギー) 1名
国際協力型腫瘍外科学指導者コース：第一外科学 1名
- 2018年度：2名修了
国際協力型腫瘍外科学指導者コース：第一外科学 1名
呼吸器外科学 1名
- 合計4名が履修を修了し、同時に大学院を修了した。
4名とも医学博士を持つ医師として獨協医大で活躍中。

論文成果

- 総合がん診療センター
 - Otani R, Uzuoka T, Ueki K: Classification of adult diffuse gliomas by molecular markers-a short review with historical footnote. *Jpn J Clin Oncol*. 47(1):2-6, 2017
 - Otani R, Uzuoka T, Higuchi F, Matsuda H, Nomura M, Tanaka S, Mukasa A, Ichimura K, Kim P, Ueki K: IDH-mutated astrocytomas with 19q-loss constitute a subgroup that confers better prognosis. *Cancer Sci*. 109(7):2327-2335, 2018
 - Uzuoka T, Higuchi F, Matsuda H, Otani R, Kim P, Ueki K: Intravascular Lymphoma with an acute course of cerebellar hemorrhage: a case report. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 15:58(2):96-100, 2018
 - Nambu S, Otani R, Uzuoka T, Matsuda H, Kim P, Ueki K: Histology of hemangioblastoma treated with stereotactic radiosurgery confirms its effectiveness. *J Clin Neurosci*. 51:43-45, 2018
 - Otani R, Uzuoka T, Matsuda H, Higuchi F, Kim P, Ueki K: Brain invasion by chronic lymphocytic leukemia. *Neuropathology* 39(1):54-57, 2019
 - 大谷亮平 植木敬介: 脳腫瘍の遺伝子診断と病理診断. *Clinical Neuroscience* 36(5):530-532, 2018
- 呼吸器外科学講座
 - Hayashi K, Chida M et al: Fluvastatin is effective against thymic carcinoma. *Life Sciences* 240, 117110, 2020
- 生化学講座
 - Roh M, Radisky DC, Hashiguchi M, Sugimoto H: The exon 38-containing ARHGAP11 splice isoform is differentially expressed and is required for migration and growth in invasive breast cancer cells. *Oncotarget* 2017

がんプロ主催セミナー/シンポジウム開催状況

コース	セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	(学内参加者数)	(学外参加者数)
ゲノム	大学院特設講義	2019年7月24日(水)	21	21	0
小児AYA/希少	第13回関東がん存続研究会	2019年7月26日(金)	32	11	21
ライフ	第4回千代田がん免疫研究会	2019年8月29日(水)	29	25	4
小児AYA/希少	第14回関東がん存続研究会	2020年1月24日(金)	35	13	22
ライフ	千代田Resort Seminar	2020年3月(予定)			
ゲノム	p53, aging and lung cancer	2020年3月(予定)			

今後の展望

- ・e-learning動画コンテンツ見直し
→各教員に確認、現在第2期コンテンツ中心に掘り直し中
- ・がんプロインテンシブコース導入予定
- ・がんプロ履修生のリクルート
- ・がんに関するシンポジウム・講演会の継続

獨協医科大学 がんプロ実施体制

氏名	所属	担当
杉本 博之	生化学講座・医学研究科幹細胞学	がんプロフェッショナル委員 兼務
入澤 英志	内科学(消化器)講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
橋本 敏夫	総合がん診療センター学内教授	がんプロフェッショナル委員 兼務
橋本 敏夫	放射線医学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
川口 文彦	口腔科学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
小島 隆	公衆衛生学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
野村 文之	呼吸器内科学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
土田 正	第一外科内科学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
藤田 昭	皮膚科講座・臨床免疫学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
大澤 幸也	病理学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
吉原 美実	小児科学講座	がんプロフェッショナル委員 兼務
三井 英二	学際研究科	がんプロフェッショナル委員 兼務

今後の展望

- ・目標受け入れ人数：各コースごとに1名以上の医師/年
- ・がん医療や研究に関わるセミナーの開催
- ・がん研究を目指す大学院生に重点をおく研究指導

- ⇒ e-learning作成
小児科学教室は「小児・AYA・希少がん」、生化学教室は「がんゲノム医療」、公衆衛生学講座は、「ライフステージに応じたがん予防医学」
- ⇒ セミナー開催
病理学講座は、「がん研究法」の講義を行う。
- ⇒ 履修者募集
口腔科学講座をはじめ各講座で、がんプロ履修生を積極的に取り込む。
- ⇒ 研究成果
総合がん診療センターは症例のサンプルを利用し、がんの臨床的研究を行う。生化学講座では、がん転移メカニズムの基礎的研究を行う。

【埼玉医科大学】

第3期関東ガンプロ中間評価委員会-2020.2.21



関東がんプロ活動報告

埼玉医科大学
コーディネーター 解良恭一

- ▶3期がんプロにおける各大学の活動報告
 - 大学院生受け入れ実績等
 - インテンシブコース生受け入れ実績
 - 開催セミナー、シンポジウム
- ▶今後の展望

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績				在学者数(R2.2現在)				
		H29	H30	R1	R2(予定)	合計	1年次	2年次	3年次	4年次
ゲノム	医師	4			2	4				4
小児AYA										
ライフ	医師	3	1	2	5	6	2	1	2	1

がんプロより発行

がんプロインテンシブコース 受入状況

コース名	職種	受入実績			修了者数		
		H29	H30	R1	H29	H30	R1
ゲノム							
小児AYA							
ライフ	医師・看護師・PT・SW他	48	85	55	24	79	

R2.2.12現在。募集募集中。



がんプロ主催 ライフステージサポートがん医療人養成コース

2月8日(土)・3月7日(土) 13:00-17:00

受講者数: 21人

修了者数: 19人

- 自身の職種以外の方々の業務を知ったり、高齢者・家族へのサポートについて知ることができ、包括的に関わっていくと感じた。
- 病棟での勤務から在宅での支援まで、様々な立場の方の話が聞けたことで、様々な立場に立っての支援ができることと感動しています。
- がんについて、高齢者医療について、特に遺族ケア、在宅医療についてはとても学びが深まりました。
- 遺族への対応の仕方がわかった。
- E-learningを聴講できるのは有難いです。

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

年度	セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	学内参加者数	
				学内	学外
平成29年度	埼玉医科大学市民公開講座	H29.9.16	167		
	第1回放射線腫瘍学セミナー	H29.12.7	19	15	4
	第2回放射線腫瘍学セミナー	H30.2.15	20	18	2
平成30年度	第1回放射線腫瘍学セミナー	H30.6.21	16	14	2
	第1回RCGMアロシニア国際シンポジウム/第1回埼玉医科大学研究「3D-CT/3D-VIS」	H30.9.8-9	101	75	26
	第2回放射線腫瘍学セミナー	H30.11.1	17	15	2
令和元年度	埼玉医科大学市民公開講座	H31.1.12	117		
	第3回放射線腫瘍学セミナー	H31.2.25	17	15	2
	第1回放射線腫瘍学セミナー	R1.5.31	30	26	4
令和元年度	乳癌学会市民公開講座(共催)	R1.9.15	311		
	埼玉医科大学市民公開講座	R2.1.11	109		
	第2回放射線腫瘍学セミナー	R2.2.6	21	14	7
令和元年度	第3回放射線腫瘍学セミナー	R2.2.27			

- ### 今後の展望
- 包括的ライフステージサポート医療人養成インテンシブコースおよび放射線腫瘍学セミナーを今後も継続開催し、学内のみでなく、学外の医療職の方々に知識を広めていく。
 - 市民公開講座を定期的開催し、一般市民の方々に情報提供をしていく。
 - 本学のゲノム医学研究センターと連携し、がんプロ大学院生の研究サポートを行うとともに、ゲノム医療を担える人材を養成していく。
 - 多くのがん症例数を経験できる環境を生かした研究および臨床の実践により、がん医療人のリクルートおよび育成を継続していく。



【茨城県立医療大学】

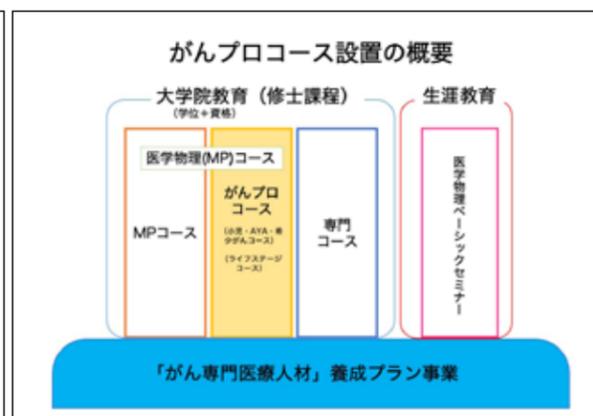
多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン

令和元年度 外部評価シンポジウム



茨城県立医療大学

コース責任者: 門間 正彦



医学物理(MP)コースの概要

- 認定医学物理教育コース
- 学生募集要項の整備、HP等での広報

大学院生の受け入れ(養成実績)

	H29(実績)	H30(実績)	H31/R1(実績)	R2(予定)
小児・AYA・希少がんコース	1	1		1
ライフステージコース	1		1	
合計	2	1	1	1

OUTCOME

専門資格取得実績(医学物理士認定試験合格)	H29	H30	H31/R1	R2
	-	1	1	-

生涯教育

実習にウェイトをおいた講習会を開催しています。

- 「第1回 医学物理ベーシックセミナー」H29年度, 17名 (15名実習)
- 「第2回 医学物理ベーシックセミナー」H30年度, 10名 (8名実習)
- 「第3回 医学物理ベーシックセミナー」H31/R1年度, 3月末



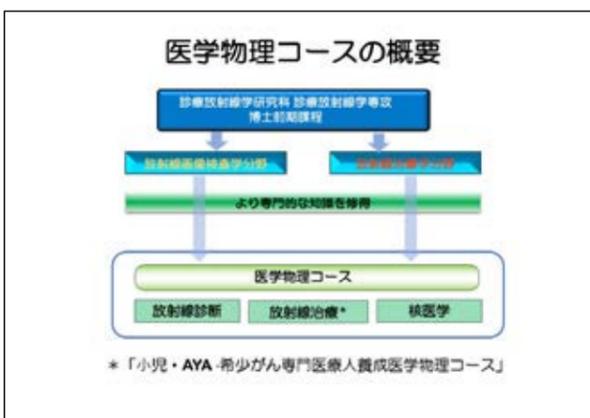
【群馬県立県民健康科学大学】

第3期関東ガンプロ外部評価委員会 2020.2.21

関東がんプロ活動報告



群馬県立県民健康科学大学



医学物理コースの概要

小児・AYA・希少がん専門医療人養成医学物理コース



医学物理教育コースとして認定されています

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績				在学者数(R.2現在)			修了者数
		H29	H30	R1	合計	1年次	2年次	H30	
小児AYA	医学物理士	2	1	3	4	3	1	2	

医学物理士認定：2名

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	(学内参加者数)	(学外参加者数)
H29年度 第1回医学物理学講演会	H30.2.24	59	8	51
H30年度 第1回医学物理学講演会	H30.11.10	70	7	62
H30年度 第2回医学物理学講演会 (PhITS 講習会)	H31.2.2 ~ 2.3	32	7	25
令和元年度 第1回医学物理学講演会	R1.12.15	59	19	40
令和元年度 第2回医学物理学講演会	R2.3.14 (予定)	22 (報告時申込者数)		

今後の展望

- 医学物理教育コースとして認定され、今後カリキュラムをさらに充実させる予定。
- 講演会・講習会は参加者も多く期待されている。継続して開催する予定。
- 大学院生のリクルート状況は順調。



【東京慈恵会医科大学】

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	課程	計画時受入人数	受入実績				在学者数(R.2現在)				修了者数	
				2017	2018	2019	合計	1年	2年	3年	4年		
ゲノム	医師	博士	1	-	6	10	16	10	4	2	0	0	
小児AYA	医師	博士	1	-	1	2	3	2	1	0	0	0	
ライフ	医師	博士	1	-	6	5	11	5	4	2	0	0	
ライフ	看護師	修士	1	-	3	0	3	0	3	-	-	3	

がんプロインテシブコース 受入状況 (eラーニング科目受講、がんチーム医療WS受講)

コース名	職種	受講期間	計画時受入人数	受入実績				在学者数(R.2現在)				修了者数	
				2017	2018	2019	合計	1年	2年	3年	4年		
がんプロインテシブ	医師	2年	5	-	-	17	17	1	7	9	0	0	

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	(学内参加者数)	(学外参加者数)
平成30年度4大学院連携がんチーム医療ワークショップ (大学院生多職種連携プログラム)	2018.9.29~30	56	23	33
2019年度東京慈恵会医科大学・がん研究センター連携大学院生による研究発表会	2020.1.16	40	17	23



成果：大学院生研究発表会

No.	発表者	発表コース	発表題目	発表内容	発表場所	発表日	発表時間
1	佐藤 大	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
2	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
3	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
4	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
5	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
6	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
7	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
8	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
9	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15
10	山本 悠	ゲノム	がんゲノム	がんゲノムとがん治療の関係	東京慈恵会医科大学	2019.11.15	15

【発表者からの意見】

- 医学系専攻の大学院として、どのような臨床的な質問が出てくるのか予想が難しく最も頭を悩ませた。学位論文審査に向けて研究・勉強を助んでいきたい。
- がん研究センター（連携大学院）に求められているものは非常に高いと感じた。発表を通じてreviewerからどのようなことが問われるかが分かり、勉強になった。

【参加者からの意見】

- 専門性の高い最先端の研究内容であり、大変刺激的だった。フロアからの鋭い質問からも日本最先端の着目点というものを体感することができた。
- 全てががんに関する研究ではあるが、多種多様な研究の発表を聞く機会は今までになく、とても貴重な機会だと思った。専門性の高い内容を極力わかりやすく平たく話さなければならぬため、発表がとても大変であると感じた。自身の発表の際には参考にしていきたい。

成果：多職種連携 4大学院連携がんチーム医療ワークショップ (昭和大学、星薬科大学、上智大学、東京慈恵会医科大学)

受講者振り返りシートから (抜粋) 実施日：2018.9.29~30

医師	患者さん・家族の思いをどう組み取るか、という点について考えさせられました。チームで患者さん・家族の思いをいかに引き出すかを、より意識していきたいと感じました。
歯科医師	他職種がどのような角度から問題をみていくのかそれぞれの視点を知ることができた。また、心理的背景を考慮した治療計画を立てることが重要と感じた。
看護師	患者の病期を身体的・心理的・社会的視点をもってアセスメントを行い、患者の背景や家族のことも含めた検討をすることができた。多職種の意見を聴けるよう発信し、多職種でカンファレンスを行えるよう調整したい。
薬剤師	他職種の目標から患者に対して最適な治療を行うにはどうしたらよいか議論ができ、化学療法以外の方法による患者の疼痛管理、認知機能低下に対する関わり方などについて学ぶことができた。
臨床心理士	普段は聞くことのできない職種の方の考えを聞くことができ、実際の臨床の現場に活かしていきたいと強く思いました。心理学だけでなく医学の知識においても、常にアップデートしていくようにしたいと思っています。

今後の展望

- 大学全体で本事業に取り組み、大学院生のオリエンテーション等でリクルートを行う
- 大学院生による研究発表を推進する
- 国立がん研究センターとの連携大学院を推進する
- eラーニングのブラッシュアップを図る
- インテシブコースの受講も促す
- 昭和大学、星薬科大学、上智大学、東京慈恵会医科大学の4大学院多職種連携プログラムを推進する



【昭和大学】

「多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材」養成プラン」 取組状況調査

昭和大学 活動報告

がんプロ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績			在学者数(R2.2現在)				修了者数
		H30	R1	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	
ライフ	全体	4	2	6	1	3	1	1	0
	医学	1	1	2	0	0	1	1	0
	薬学	0	1	1	1	0	0	0	0
看護学		3	0	3	0	3	0	0	0

がんプロインテンシブコース 受入状況

コース名	職種	受入実績	修了者数
ゲノム		0	0
小児AYA		0	0
ライフ	医師・看護師・PT他	0	0

今後の展望（主な事業予定）

- 【2020年度】
 ✓がんプロフェッショナル養成プラン講演会（昭和大学主催）
 2020年3月11日（水）18:00、旗の台キャンパス4号館
 「乳酸菌の抗腫瘍効果」
 竹田 和由 先生
 順天堂大学大学院・研究基盤センター細胞機能研究室 准教授
- 【2021年度】
 ✓4大学院がんチーム医療ワークショップ（星薬科大学主催）
 2020年9月12・13日（水・木）、星薬科大学キャンパス
 ✓Team Science Oncology Workshop（オンコロジー教育プロジェクトとの共催）
 2020年11月21～23日（土～月）、昭和大学上條記念館

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	(学内参加者数)	(学外参加者数)
4大学院がんチーム医療ワークショップ	R1.9.21 ～ 9.22	30名 医師6 歯科医師1 薬剤師8 看護師4 臨床心理士5 社会福祉士2	7名 医師3 歯科医師1 薬剤師1 看護師2 臨床心理士5 社会福祉士2	23名 医師7 薬剤師7 看護師2 臨床心理士5 社会福祉士2

がんプロ教育のための学会等参加状況

- 第34回札幌冬季がんセミナー R2.1.25 札幌
参加者：木内祐二（薬理学 教授）、小山田英人（薬理学 講師）
- 第34回日本がん看護学会学術集会 R2.2.22～23 東京
参加者：木内祐二（薬理学 教授）、小山田英人（薬理学 講師）



【星薬科大学】

第3期関東がんプロ中間評価委員会-2020.2.21



関東がんプロ
活動報告

星薬科大学



関東がんプロ活動報告 星薬科大学

実施概要

- 本学は、**がんライフ・QOLコース**を担当し、大学院薬学専攻博士課程に**がん医療・臨床薬学研究コース**を設置して、社会人学生として現役薬剤師を受け入れ、教育を行っている。
- 2020年2月現在、当該コースに所属している学生は、博士課程1年4名、2年1名、3年3名の**合計8名**である。
- 同じくがんプロフェッショナル養成プランに参加している**東京慈恵会医科大学、昭和大学、上智大学**と協働して**年1回2日間**、がん医療に特化したワークショップを開催しており、**医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床心理士、MSW**等によるがん患者に対するチーム医療の取り組みを**実践形式で学ぶ場を設定**しており、本学からも、当該コース学生が欠かさず、参加している。

実施体制

氏名	実務上の責任者	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
亀井 淳三	○	薬学研究科・薬学専攻・教授	全事業の統括
成田 年		薬学研究科・薬学専攻・教授	全事業の統括補佐
湯本 哲郎	○	薬学研究科・薬学専攻・教授	教育の実務担当(実務家教員・薬剤師)
清水 孝恒		薬学研究科・薬学専攻・准教授	教育の実務担当補佐(実務家教員・医師)
鳥越 一宏		薬学部・講師	教育の実務担当(実務家教員・薬剤師)
畦地 拓哉		薬学部・講師	教育の実務担当(実務家教員・薬剤師)

教育プログラム・コースの状況

	職種等	薬剤師
H29 (2017)	受入目標人数	1
	受入人数	3
H30 (2018)	受入目標人数	3
	受入人数	1
R1 (2019)	受入目標人数	3
	受入人数	4
R2 (2020)	受入目標人数	3
	受入人数	3
R3 (2021)	受入目標人数	3
	受入人数	3

年度	職種等	薬剤師
H29(2017)	受入目標人数	1
H29(2017)	受入人数	3
H30(2018)	受入目標人数	3
H30(2018)	受入人数	1
R1(2019)	受入目標人数	3
R1(2019)	受入人数	4
R2(2020)	受入目標人数	3
R2(2020)	受入人数	3
R3(2021)	受入目標人数	3
R3(2021)	受入人数	3

取組全般における成果・効果①

- 本事業の特徴の一つである**e-learningクラウド教育体制**において、本学での**対応組織を編成し、コンテンツの作成と活用**を図ることができた。
- 本事業に参加している**東京慈恵会医科大学、昭和大学、上智大学**と共同開催している「**4大学院がんチーム医療ワークショップ**」の**多職種演習**において、「**ライフステージとがん治療**」、「**AYA世代とがん治療**」をテーマとしたシナリオの導入、また、「**遺伝カウンセラーによる講演**」の実施など**新規教育プログラムを開発・導入**することができた。

取組全般における成果・効果②

- 令和元年度のワークショップにおいては、**参加募集枠を本事業関連者に一部拡充**できた。
- 本学では、従来生涯学習事業を独自に運用している。社会人大学院生や現役薬剤師を対象として、**がん治療の第一線で活躍する医師による講演**を通じた知識のアップデートを図っているが、**ライフステージ、AYA世代など、本事業と関連する新規性の高い内容を講演**に盛り込むことができた。

今後の展望

- 継続かつ安定した大学院生の確保
- e-learningクラウド教育体制のさらなる拡充
- WS(来年度：本学主幹)、各種講演等のさらなる拡充



【上智大学】

第3期関東がんプロ中間評価委員会-2020.2.21



関東がんプロ活動報告

上智大学

▶3期がんプロにおける上智大学の活動報告

- 大学院生受け入れ実績
- 開催講座

▶今後の展望

ライフステージ正規課程 受入状況

コース名	職種	受入実績				在学者数(R.2現在)				修了者数
		H29	H30	R1	合計	1年次	2年次	3年次	4年次以上	
上智大学	臨床心理士/公認心理師	1	1	2	4	1	2	1	3	0

がん医療心理学講座開催状況 2017年度

開催月日	フォーラム等の名称	主催大学	参加者数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数
3月21日	がん医療心理学講座 第1回【講演】乳癌後の生活に寄り添う「おひげ」講座	上智大学	13	2	0	1
4月16日	がん医療心理学講座 第2回【講演】がん患者さんへ子どもへの支援 多職種によるサポートグループの実践と学び	上智大学	13	2	0	1
9月2日	4大学連携がんチーム医療ワークショップ 第1回	上智大学	8	23	0	0
9月2日	4大学連携がんチーム医療ワークショップ 第2回	上智大学	8	23	0	0
10月1日	がん医療心理学講座 第3回【講演】緩和ケアを実現するために「おひげ」講座	上智大学	13	2	0	1
12月17日	がん医療心理学講座 第4回【講演】がんの子どものための緩和ケア「おひげ」講座	上智大学	13	2	0	1

がん医療心理学講座開催状況 2018年度

開催月日	フォーラム等の名称	主催大学	参加者数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数
3月1日	がん医療心理学講座 第1回【講演】がんの発病を助えた「おひげ」講座	上智大学	13	2	0	1
7月15日	がん医療心理学講座 第2回【講演】緩和ケアにおける心理的ケア「おひげ」講座	上智大学	13	2	0	1
10月20日	がん医療心理学講座 第3回【講演】緩和ケアにおける心理的ケア「おひげ」講座	上智大学	15	6	0	1
11月11日	がん医療心理学講座 第4回【講演】がん医療における緩和ケア「おひげ」講座	上智大学	15	6	0	1

がん医療心理学講座開催状況 2019年度

開催月日	フォーラム等の名称	主催大学	参加者数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数
4月20日	がん医療心理学講座 第1回【講演】がん緩和ケアの現場から学ぶ「おひげ」講座	上智大学	4	1	0	1
7月14日	がん医療心理学講座 第2回【講演】がん医療現場で働く「おひげ」講座	上智大学	8	2	0	1
11月17日	がん医療心理学講座 第3回【講演】緩和ケアにおける心理的ケア「おひげ」講座	上智大学	4	3	0	1
12月15日	がん医療心理学講座 第4回【講演】緩和ケアにおける心理的ケア「おひげ」講座	上智大学	1	2	0	1

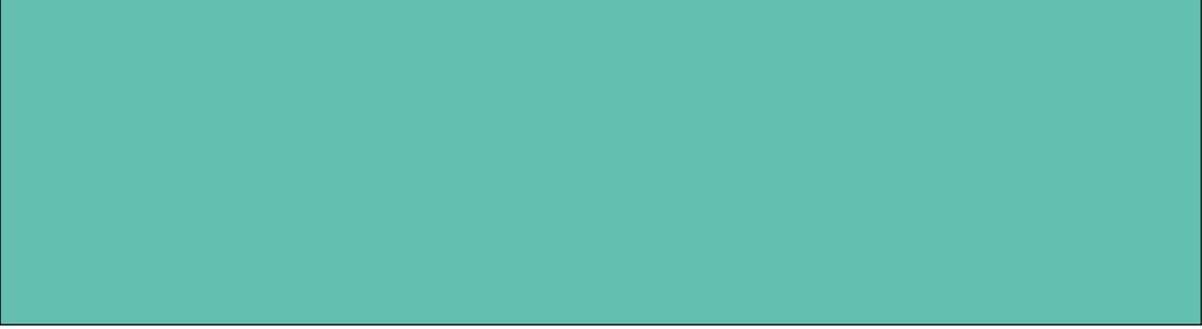
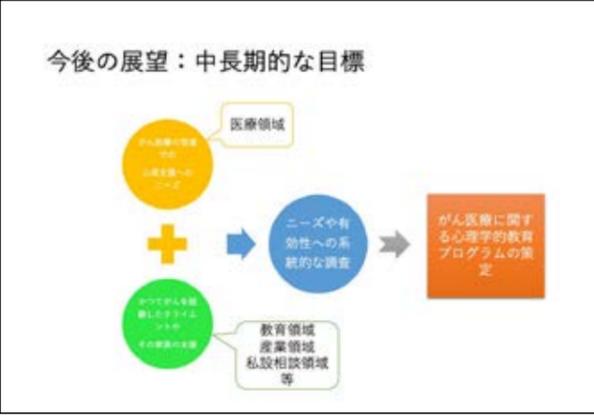
今後の展望：短期的な目標

- コース修了かつ博士号取得の卒業生を輩出することを目指す
- 心理の特性を主とした「おひげ」の教材を作成
- 現在がん医療に携わっている心理士・公認心理師、他職種からの講義を聴き、心理学の知見をどのように生かし、発展させることができるかについて検討を重ねる

番外編：2020年度の試み

- 上智大学プロフェッショナルスタディーズの中での発信
- <https://www.sophia-professionalstudies.jp>
 - ・実業界と本学が一体となって産学協働で学びの場を創生する、従来とは全く異なるかたちの産学連携プロジェクト
 - ・現在18社の企業がアドバイザーパートナーとして登録
 - ・企業から企画会議への参画してもらい、講座への企業側からのニーズやビジネスの最前線で求められる国際通用性などについて意見を頂く等協力をいただいている

1141病とともに「生きる」を支える
<https://www.sophia-professionalstudies.jp/syllabus/04/>



【お茶の水女子大学】

第3期関東がんプロ中間評価委員会-2020.2.21



関東がんプロ活動報告

お茶の水女子大学

お茶の水女子大学 遺伝カウンセリングコース受入状況

コース名	職種	受入実績				在学者数(R.2現在)				修了者数
		H29	H30	H31	合計	1年次	2年次	3年次	4年次	
CGC	CGC	(4)	4	4	8	4	4	-	-	4

CGC：認定遺伝カウンセラー

がんプロ主催 セミナー・シンポジウム開催状況

セミナー・シンポジウム名	開催日	参加者数(計)	学内参加者数	学外参加者数
遺伝カウンセリングコース 15周年記念シンポジウム	H31.3.2	80名	8名	72名
特別講座 がんゲノム医療と心理社会的サポート	R2.1.11	32名	6名	26名

H30年度修了生4名の進路

遺伝カウンセラーとして就職

- 2名 がんゲノム医療中核拠点病院
- 1名 がんゲノム医療拠点病院
- 1名 がんゲノム医療連携病院

H31 (R1) 年度も、
 がんゲノム医療拠点病院に1名
 がんゲノム医療連携病院に2名就職予定

2部：コース毎の取り組みと今後の展望

がんゲノム医療人養成コース:群馬大学

「多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材」養成プラン」
がんゲノムコースの取り組み

・群馬大学

ゲノム医療に必要とされる要件

必要要件	中核拠点病院	連携病院
ゲノム検査実施体制	11病院	34病院
エキスパートパネル	122病院	
遺伝カウンセリング		
情報管理		
検査保存体制		
臨床試験実施体制		

ゲノム医療に必要とされる人材

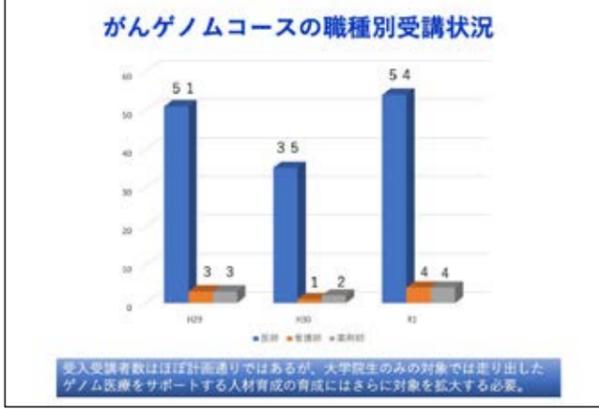
ゲノム医療に必要とされる医師の要件

- 臨床遺伝専門医
- 家族性腫瘍カウンセラー
- ジェネティックエキスパート
- 臨床細胞遺伝学認定士
- 認定遺伝カウンセラー

ゲノム医療に必要とされる医師以外のスタッフの要件

- ジェネティックエキスパート
- 臨床細胞遺伝学認定士
- 認定遺伝カウンセラー
- 家族性腫瘍カウンセラー
- 家族性腫瘍コーディネーター
- GMRC
- 類遺伝子学会 (ゲノムメディカルコーディネーター)
- バイオインフォーマティクス技術者日本バイオインフォーマティクス学会

日本人類遺伝学会
日本家族性腫瘍学会
日本遺伝子診療学会
日本人類遺伝学会
日本遺伝カウンセリング学会
日本家族性腫瘍学会
日本家族性腫瘍学会
日本人類遺伝学会



がんゲノムコースの取り組むべき課題

- E-learningの内容の再構築とブラッシュアップ
 - ゲノム医療の保険収載、体制確立を踏まえたゲノム医療への理解
 - ゲノム医療の現状と課題に関する内容
 - 家族性腫瘍の倫理的側面、カウンセリングについて
 - 免疫チェックポイント阻害剤の最新情報
- ゲノム医療をサポートする人材育成基盤形成のシンポジウム開催
 - 人材のリクルートや導入に資するシンポジウム
- ゲノム医療に必要とする人材育成の加速
 - インテンシブコースの受講者の規定とリクルートへの協力



遺伝カウンセリングロールプレイ演習

- HBOC、Lynch症候群、がんゲノムのロールプレイ演習を実施した
- 遺伝カウンセリングを行うだけでなく、患者役および家族役を演じるため、深い学びを得られた。

ロールプレイ
(遺伝性乳癌卵巣癌症候群：HBOC) 場面設定

基本設定：クライアントは、安田詩織（やすだしおり）さん46歳。1か月前に胸にしこりを自覚し、乳腺外科を受診したところ1.5cm大の腫瘍が見つかった。2週間前に受けた針生検でがん細胞が確認された。他臓器への転移所見はない。

詩織さんは4人家族で、夫（46歳）と長女（20歳）、次女（17歳）と暮らしている。母親は8年前に卵巣癌に罹患し、62歳で亡くなっている。また、母方の叔母は乳癌にかかっていたとのことである。父親（76歳）は高血圧と診断されている。詩織さんには兄（50歳）と妹（43歳）がいるが、がんの話は聞いていない。

ロールプレイ
(遺伝性乳癌卵巣癌症候群：HBOC) 場面設定

場面1：詩織さんは、担当医に、家族に乳がんの方が多いので、「遺伝子検査」を勧められた。治療方針にも影響するとのことである。検査の前に遺伝カウンセリングを受けてくれるように言われ、遺伝診療部に来談された。

場面2：場面1の遺伝カウンセリングの後、遺伝学的検査を受検し、BRCA1に病的変異[NM_007294.3(BRCA1):c.415delC (p.Gln139Argfs)]が確認された。今回検査結果の説明のために来談された。検査を担当した臨床遺伝専門医が結果を開示し、その詳細な説明を遺伝カウンセラーに依頼された。

ロールプレイのねらい

- 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の特徴を説明できる。
- 家族性腫瘍における遺伝学的検査の意義と、結果に基づく対応を、家族に関する事項も含めて説明できる。
- 心理社会的課題に対応しながら、遺伝学的検査の開示ができる。

令和元年度提出 修士論文

提出された4本の論文のうち、2本で腫瘍と関連する研究が行われた

- 遺伝性腫瘍当事者における次世代への遺伝情報開示に関する調査
- がん教育における「遺伝」の取り扱いに関する調査研究

朝日新聞デジタル 2020年1月26日
遺伝性乳がんは？命の選別？ 着床前診断拡大めぐり議論

認定遺伝カウンセラーは、幅広い視点から、「がん」をもつ患者さん、ご家族の支援することが期待される



外部評価

小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース：筑波大学

関東がんプロ外観評価シンポジウム_2020.2.21

関東がんプロにおける小児・AYA・希少がんの取り組みについて

関東がん専門医療人養成拠点 コーディネーター
筑波大学医学医療系 消化器外科 小田 竜也
腎泌尿器外科 古城公佑

目次

- ▶ 関東AYA希少がんセンターネットワークについて
- ▶ 小児・AYA・希少がんコース正規生受入状況
- ▶ 小児・AYA・希少がんのe-learnigの取り組み
- ▶ 小児・AYA・希少がんにおける研究発表
- ▶ 小児・AYA・希少がんにおけるシンポジウムなどの活動について
- ▶ 今後の活動について

関東がん専門医療人養成拠点 11拠点の中で最多の連携大学数 (計13大学)

がんゲノム医療コース (G)

小児・AYA・希少がんコース (C)

がんライフ・QOLコース (Q)

E-learning教育課程

メンタリングコース

プロローグに学ぶ臨床実習支援

小児・AYA・希少がんコース正規生受入状況

小児・AYA・希少がんコース正規生の受入状況 (連携校合算)

職種等	医師	薬剤師	看護師	医学物理士	合計
H29 (2017)	18	1	1	2	22
H30 (2018)	21	0	3	5	29
R1 (2019)	16	0	0	4	20
R2 (2020)	20	2	2	4	28
R3 (2021)	15	0	0	3	18

小児・AYA・希少がんのe-learnigの取り組み

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ①

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
1 小児・AYA世代の特徴	小児・AYA世代の身体的特徴	小児・AYA世代の身体的特徴	小児およびAYA/Adolescent and Young Adult世代の身体的特徴について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の精神心理社会的特徴	小児・AYA世代の精神心理社会的特徴	小児およびAYA/Adolescent and Young Adult世代の精神心理社会的特徴について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の社会的特徴	小児・AYA世代の社会的特徴	小児およびAYA/Adolescent and Young Adult世代の社会的特徴について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん overview	小児・AYA世代のがん overview	小児・AYA世代のがんの概要について学ぶ。	2
	小児・AYA世代に発症する遺伝性腫瘍・遺伝性疾患	小児・AYA世代に発症する遺伝性腫瘍・遺伝性疾患	小児・AYA世代に発症する遺伝性腫瘍・遺伝性疾患について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ②

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
2 小児・AYA世代のがん治療概論	小児・AYA世代のがん治療概論	小児・AYA世代のがん治療概論	小児・AYA世代のがん治療の概要について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん治療の最新動向	小児・AYA世代のがん治療の最新動向	小児・AYA世代のがん治療の最新動向について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん治療の課題	小児・AYA世代のがん治療の課題	小児・AYA世代のがん治療の課題について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん治療の展望	小児・AYA世代のがん治療の展望	小児・AYA世代のがん治療の展望について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん治療の将来	小児・AYA世代のがん治療の将来	小児・AYA世代のがん治療の将来について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ③

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
3 小児・AYA世代の腫瘍学概論1 (この時期特有の腫瘍)	小児・AYA世代の腫瘍学概論1	小児・AYA世代の腫瘍学概論1	小児・AYA世代の腫瘍学概論1について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の腫瘍学概論2	小児・AYA世代の腫瘍学概論2	小児・AYA世代の腫瘍学概論2について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の腫瘍学概論3	小児・AYA世代の腫瘍学概論3	小児・AYA世代の腫瘍学概論3について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の腫瘍学概論4	小児・AYA世代の腫瘍学概論4	小児・AYA世代の腫瘍学概論4について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ④

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
4 小児・AYA世代の腫瘍学概論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	小児・AYA世代の腫瘍学概論2	小児・AYA世代の腫瘍学概論2	小児・AYA世代の腫瘍学概論2について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の腫瘍学概論3	小児・AYA世代の腫瘍学概論3	小児・AYA世代の腫瘍学概論3について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の腫瘍学概論4	小児・AYA世代の腫瘍学概論4	小児・AYA世代の腫瘍学概論4について学ぶ。	1
	小児・AYA世代の腫瘍学概論5	小児・AYA世代の腫瘍学概論5	小児・AYA世代の腫瘍学概論5について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ⑤

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
5 希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)について学ぶ。	2
	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)について学ぶ。	1
	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)について学ぶ。	1
	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)	希少がん (小児・AYA世代以外)について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ⑥

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
6 統合的評価と長期フォローアップの課題点 (1)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (1)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (1)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (1)について学ぶ。	1
	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (2)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (2)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (2)について学ぶ。	1
	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (3)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (3)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (3)について学ぶ。	1
	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (4)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (4)	統合的評価と長期フォローアップの課題点 (4)について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learnig講義のカリキュラム作成 ⑦

講義項目	シラバス	想定されるchapter名 (P)	概要	Chapter数
7 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (3)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (3)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (3)について学ぶ。	1
	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (4)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (4)	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (4)について学ぶ。	1

小児・AYA・希少がん e-learningの収録・アップロード状況 (全国連携校)

講義項目	チャプター数	全国公開	公開範囲制限
1 小児・AYA世代の特徴	7	7	-
2 小児・AYA世代のがん治療概論	11	8	3
3 小児・AYA世代腫瘍学概論1 (この時期特有の腫瘍)	10	6	4
4 小児・AYA世代腫瘍学概論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	8	8	-
5 希少がん (小児・AYA世代以外)	10	6	4
6 統合的評価と長期フォローアップの課題点 (1)	11	8	2
7 統合的評価と長期フォローアップの課題点 (2)	6	4	2
8 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)	4	3	1
9 小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	5	4	1
合計	72	55	17

小児・AYA・希少がんにおける研究発表

Clinicopathological features and their impacts on the prognoses of patients with honourotical carcinoma: A hospital-based cancer registry in Japan.

Presented Friday, February 14, 2020

Discrepancy between clinical stage and pathological stage based on the tumor location of urothelial carcinoma: A hospital-based cancer registry in Japan.

Presented Friday, February 14, 2020

Molecular mechanism of FGFR activation and resulting differences in the tumor-immune environment of bladder cancer.

Presented Friday, February 14, 2020

2019年度東京医科歯科大学 大学院生研究発表大会

midline glioma発症年齢およびstem like cellsのネオアンタゲンに関する検討

2019/12

小児・AYA・希少がんにおけるシンポジウムなどの活動について

タイトル	開催日	参加者数
第1回 茨城県がん生殖医療ネットワークシンポジウム	2018.2.14	105
がん生殖医療ネットワーク（小児・AYA世代がん、希少がん）	2018.3.7	23
茨城県がん生殖医療ネットワーク	2019.2.27	77
茨城県がん生殖医療ネットワーク	2020.2.19	57

今後の活動

- e-learningの拡充
- 教育リソースの共有
- 小児・AYA・希少がんネットワーク充実
- 小児・AYA・希少がんの実践



包括的ライフステージサポート医療人養成コース：千葉大学

茨城県ネットワーク立ち上げまでのあゆみ

精子凍結・民間病院2施設のみ
卵子凍結：施設なし

2017年4月 『小児・AYA患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン』が発刊

2017年7月 茨城県医師会との会議

2017年8月 筑波大学における妊孕性温存事業のワーキンググループの発足

2017年11月 海外のがん生殖医療施設を視察

2018年2月 第1回茨城県がん生殖医療ネットワークシンポジウムの開催

2018年5月 弁護士と法的手続きの調整

2018年7月 筑波大学で精子凍結保存運用開始

海外視察 Bern大学 Women's Hospitalの見学

FertiPROTEKT

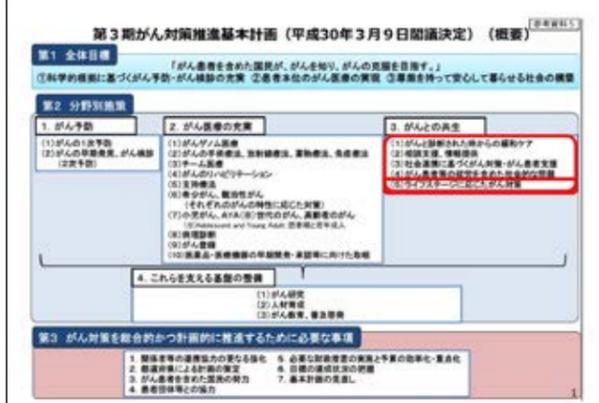
卵巣移送と長期凍結保存を中心事業とするがん生殖医療の地域ネットワーク

Bern大学 Women's Hospital はスイス 3 実施施設の1つ

第3期関東ガンプロ中間評価委員会-2020.2.21

関東がんプロ 活動報告

ライフステージ



筑波大学 University of Tsukuba

アジアにおけるがん生殖医療

Seminar for Pediatric Oncology in Tsukuba

17th Feb 2020 Mon. 14:00 - AT: 1270th Plaza

Long-term follow-up and questionnaire-based study in University of Tsukuba

Application of Precision Medicine for Pediatric Cancer

Genetic Counseling in Pediatric Oncology: Ethical Issues and Special Considerations

2017.07.20: 第1回拠点会議
ライフステージコースワーキンググループ会議

- 教育プログラム草案作成
- E-ラーニング構成案
- がん医療に係るテーマはすべてライフステージに応じて行う！！

2018.02.12: ライフステージコース・シンポジウム

- 目標学生数見直し
- 教育コンテンツの見直し
- プロダクトの検討
 - 高齢者治療ガイドライン作成？
 - 高齢者治療テキストブック作成？

- カリキュラム
1. ライフステージに応じた予防医学
 - 一次予防としてがん教育をいれる
 2. ライフステージにおける若年がん医療
 3. ライフステージにおける高齢者がん医療一機能・合併症の特徴と評価
 4. ライフステージにおける高齢者がん医療一治療（緩和含む）の特徴
 5. ライフステージに応じた包括的支援
 - QOL
 - 晩期合併症
 - サバイバーシップ
 6. 終末期のがん医療
 - Advanced care planning
 - End of life care
 - グリーフケア
 7. 社会とがん医療
 - がん教育を含める
 8. ライフステージに応じたがん医療の臨床試験

大学	タイトル	開催日	参加者数
千葉	「医師と小児がん経験者、患者からみた小児がん長期フォローアップ-小児がん経験者の長期フォローアップ」	2018.2.6 (フアビザ-共催)	~50名
千葉	「小児がん患者における妊孕性温存治療-日本における移行医療-ケア」今後の課題	2019.4.4 (小野薬品工業共催)	~30名
千葉	「CCSでみられる生殖機能障害の原因と診断について-CCSの内分泌系について」	2018.6.21 (小野薬品工業共催)	~70名
日医	第13回がん生殖医療シンポジウム	2019.7.26	32
日医	第14回がん生殖医療シンポジウム	2020.1.24	35
上智	がん生殖医療学講座第2回【講演「小児がんの子どもの家族を支える-精神科立こども病院での取り組み」および事例検討】	2019.12.15	
上智	がん生殖医療学講座第2回【講演「小児がんの子どもの「生きる」を支える」およびドキュメンタリー映画「子どもが闘ってくれたこと」に学ぶ】	2019.7.14	

茨城県立医療大学

第1回医学物理学講演会開催：平成30年11月10日（土）

第2回医学物理学ベーシックセミナー@茨城県立医療大学

「小児がんの放射線治療技術、放射線治療技術に関する最近の話題」をテーマに平成30年度第1回医学物理学講演会を開催：69名の参加

医学物理的観点から小児がん、就労年代や高齢の患者に対して知識、技能および研究からアプローチ

LS 目標学生数

	2017	2018	2019	2020	2021	合計	大学合計
筑波大 医師	4	4	4	4	4	20	
筑波大 看護士	0	3	3	3	3	12	40
筑波大 医学物理士	0	2	2	2	2	8	
千葉大 医師	6	6	6	6	6	30	
千葉大 看護士	2	2	2	2	2	10	45
千葉大 薬剤師	1	1	1	1	1	5	
千葉大 医師	3	3	3	3	3	15	
群馬大 看護士	0	0	1	0	0	1	17
群馬大 薬剤師	0	0	0	1	0	1	
日本医大 全て	6	6	6	6	6	30	30
埼玉医大 医師	2	2	2	2	2	10	10
埼玉医大 全て	0	1	1	1	1	4	4
昭和医大 医師	0	1	1	1	1	4	
昭和医大 薬剤師	0	1	1	1	1	4	16
昭和医大 その他	0	1	1	1	1	4	
慶応医大 医師	0	1	1	1	1	4	
慶応医大 看護士	0	1	1	1	1	4	
茨城県立医療大 医学物理士	0	1	0	1	0	2	
茨城県立医療大 薬剤師	1	3	3	3	3	13	13
上智大 臨床心理学士	0	1	1	1	1	4	4
合計	25	41	41	42	40	189	189

3年で107名

ライフステージ正規課程 受入状況

大学	医師	看護士	薬剤師	医学物理士	合計
筑波大	4	3	6	13	26
千葉大	1	0	1	0	2
群馬大	0	1	2	1	4
日本医大	16	5	8	5	34
埼玉医大	0	0	0	0	0
昭和医大	1	4	3	3	11
慶応医大	0	0	0	0	0
茨城県立医療大	1	0	1	0	2
上智大	0	0	0	0	0
合計	48	27	47	132	254

インテンシブコース コース：筑波大学

ライフステージ - E-ラーニング

がんプロフェッショナル養成プラン
がんプロ全国 e-learning クラウド

このプラットフォームは、がん医療従事者の継続的な学習を支援するためのオンライン学習環境を提供しています。最新の臨床ガイドラインや実践的なケーススタディを通じて、専門知識を深め、患者のケアに貢献するための学習機会を提供します。

2017.07.20：第1回拠点会議 ライフステージコースワーキンググループ会議

- 教育プログラム草案作成
- E-ラーニング構成案
- がん医療に係わるテーマはすべてライフステージに応じて行う！！

2018.02.12：ライフステージコース・シンポジウム

- 目標学生数見直し
- 教育コンテンツの見直し
- プロダクトの検討
- 高齢者治療ガイドライン作成？
- 高齢者治療テキストブック作成？

2020.02.15：ライフステージコース・シンポジウム

- 明日の高齢者がん医療を考えるシンポジウム

高齢者がん治療のテキスト作成

- 高齢者のがん治療プラクティス（仮題）

関東がんプロにおけるインテンシブコースの取り組みについて

関東がん専門医療人養成拠点 コーディネーター
筑波大学医学医療系 消化器外科 小田 竜也
腎泌尿器外科 古城公佑

包括的ライフステージサポート医療人養成インテンシブコース

筑波大学 がん専門医療人養成拠点

「明日の高齢者がん医療を考えるシンポジウム」

2020年2月15日(土) 13:00-17:00
会場：AP第8会議室

高齢化が進む中、がん患者の増加に伴って、高齢者に対する適切な医療の提供が求められています。本シンポジウムでは、がん医療従事者、研究者、行政関係者などが一堂に集まり、高齢者がん医療の現状と課題、今後の取り組みについて議論を行います。

高齢者がん治療のテキスト作成 高齢者のがん治療プラクティス（仮題） - がんプロで学ぶ学生・教員のために

出版社： 南江堂
読者対象： がん治療医、老年医学専門医
体裁： B5版、1段組、2色刷（一部4色）
約250~300頁、並製、7,000~8,000円

企画主旨：

- 現在、全がん死亡の8割以上は65歳以上の高齢者が占めており、がんは「高齢者の慢性疾患」とも言える。2018年には、総人口に対する65歳以上の高齢者人口割合（高齢化率）は27.7%にのぼり、今後も高齢がん患者は増加することが確実である。
- 高齢者は生理学的機能が低下していることから、高齢がん患者では必ずしも「標準治療」が実施可能なケースばかりではなく、個別対応が必要となるが、実際の対応法を示す指針が存在しない。また、高齢がん患者でも標準治療が実行できるケースを見極めることも重要となっている。
- そこで本書は、臨床医が高齢がん患者の治療を組み立てることができるよう、老年医学と臨床腫瘍学の知識を併せ持ったエキスパートが、老年医学・臨床腫瘍学双方の基礎的な知識と、これまでの治療のエビデンス・プラクティスを集積して提供する書籍として企画する。

インテンシブコース 新設（@筑波大学）

関東拠点インテンシブコース設置大学（6大学）

	H31年度	H32年度	H33年度	計
受入目標人数（申請書上）	50	50	50	150

インテンシブコースの講義設定

講義設定は、新3科目をベースに各大学が自由に設定

高齢者がん治療のテキスト作成 高齢者のがん治療プラクティス（仮題） - がんプロで学ぶ学生・教員のために

進行スケジュール

2020年1月：執筆依頼（済み）
2020年4月：原稿締切
2020年5~6月：原稿査読（*編集者において）
2020年6~7月：査読に基づく原稿修正
2020年8月~2021年1月：制作期間（初校・再校の校閲）
2021年1月：印刷・製本・刊行
*2021年2月：第18回日本臨床腫瘍学会学術集会（京都）

高齢者がん治療のテキスト作成 高齢者のがん治療プラクティス（仮題） - がんプロで学ぶ学生・教員のために

目次

1. 高齢者のがん治療の現状	1. 高齢者のがん（2018）	48
2. 高齢者のがん診療	2. 高齢者のがん診療	49
3. 高齢者のがん診療の課題	3. 高齢者のがん診療の課題	49
4. 高齢者のがん診療の展望	4. 高齢者のがん診療の展望	49
5. 高齢者のがん診療の展望	5. 高齢者のがん診療の展望	49
6. 高齢者のがん診療の展望	6. 高齢者のがん診療の展望	49
7. 高齢者のがん診療の展望	7. 高齢者のがん診療の展望	49
8. 高齢者のがん診療の展望	8. 高齢者のがん診療の展望	49
9. 高齢者のがん診療の展望	9. 高齢者のがん診療の展望	49
10. 高齢者のがん診療の展望	10. 高齢者のがん診療の展望	49
11. 高齢者のがん診療の展望	11. 高齢者のがん診療の展望	49

2019年度インテンシブ募集（筑波大）

筑波大学がんプロ全国e-learning：2019年度インテンシブコース募集要項（案）

概要
がんゲノム医療/小児・AYA・希少がん/ライフステージに応じたがん医療について最新の講義コンテンツをe-learning講義により提供し、がん診療をとりまく課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。

募集資格
筑波大学大学院生、筑波大学附属病院及び県内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士および多職種の医療従事者（学内と近隣の医療機関）。
※受講希望者は、筑波大学大学院がんプロ科担当教員の推薦、または所属先の承認を得ること

募集期間 随時 **受講料** 無料 **開講期間** 2019年4月開設
以降募集は随時受け付け

受講までの流れ
①メール連絡→②申請フォーム入手→③郵送にて申込→④大学からメールにて受講用のIDとパスワードを通知→⑤自宅のパソコンで受講開始→がんプロセミナーやシンポジウムへ参加

インテンシブ新設（筑波大）

遵守事項
インテンシブコースを履修するため利用する「がんプロ全国e-learningクラウド」に登録されている講義コンテンツの著作権は、講義担当教員、所属大学・拠点などに帰属する。講義コンテンツを複製・二次利用・頒布・公開・公衆送信してはならない。本e-learningシステムにおいては、講義コンテンツを保存することができないようになっているが、コンテンツを画面キャプチャなどの方法によって保存することも認められない。

申し込み方法 筑波大学医学大学院教務・がんプロ事務局までメール連絡

申請フォームを入手の上、必要事項を記載し、郵送にて返送してください
筑波大学医学大学院教務 iga-in@un.tsukuba.ac.jp
筑波大学がんプロ事務局 ga-pro@un.tsukuba.ac.jp

2017.07.20：第1回拠点会議 ライフステージコースワーキンググループ会議

- 教育プログラム草案作成
- E-ラーニング構成案
- がん医療に係わるテーマはすべてライフステージに応じて行う！！

2018.02.12：ライフステージコース・シンポジウム

- 目標学生数見直し
- 教育コンテンツの見直し
- プロダクトの検討
- 高齢者治療ガイドライン作成？
- 高齢者治療テキストブック作成？

2020.02.15：ライフステージコース・シンポジウム

- 明日の高齢者がん医療を考えるシンポジウム

高齢者がん治療のテキスト作成

- 高齢者のがん治療プラクティス（仮題）

取り組みの原則

- がんを専門としない大学院生も参加可能とする
- セミナー、演習などは多職種参加を原則とする
- ライフステージ、小児・AYA、ゲノムコースの壁を作らない
- 幅広い基礎を土台に、個人の専門性を高める
- セミナー等開催には学生による運営を重視する

今後の展望

- ライフステージコースはがんプロの入り口
- 高齢者と関連問題 以外の課題対策は十分か？
- 学生個人において他コースとの連携は？

シンポジウム
がん薬物療法の基本講義 + ヴァーチャル・キャンサーボード

包括的ライフステージサポート医療人養成インテンシブコース

年度	医師	薬剤師	看護師	放射線技師	ケアマネジャー	看護系教員	その他	合計	備考
H29 (2017)	30	※	※	※	※	※	※	30	その他：学生3名、SW-PT、臨床心理士、看護士、看護士各1名
H30 (2018)	30	※	※	※	※	※	※	30	その他：SW-PT、臨床心理士、放射線技師各1名
R1 (2019)	30	※	※	※	※	※	※	30	2月開講予定
R2 (2020)	30	※	※	※	※	※	※	30	
R3 (2021)	30	※	※	※	※	※	※	30	

がん専門医療人養成インテンシブコース（6大学連携）

年度	医師	薬剤師	看護師	放射線技師	ケアマネジャー	看護系教員	その他	合計
R1 (2019)	50	※	※	※	※	※	※	50
R2 (2020)	18	1	22	※	※	※	※	42
R3 (2021)	50	※	※	※	※	※	※	50
R4 (2022)	50	※	※	※	※	※	※	50

今後の活動

- 看護を始めとする多職種の医療者にむけ、積極的に募集活動をする。



外部評価委員による 講評

評価委員



松浦 成昭

全国がんプロ協議会 会長
大阪大学/大阪国際がんセンター 総長



小嶋 修一

TBSテレビ 報道局
解説委員兼プロフェッショナル部長



矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター長
北信がんプロ統括コーディネーター

※ご欠席につき、当日の記録動画及び資料による評価。



山本 ゆき

NPO法人がん患者団体支援機構 副理事長
一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク 理事



志賀 俊彦

茨城がん体験談スピーカーバンク 代表

評価結果

総合評価

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
グループ全体の活動を総合的に評価してください	5	3	4	5	5

委員	総括（自由記載）
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期目から全国のがんプロをけん引してこられましたので、引き続き、他の拠点の模範になって頂くよう期待します。 ・他の拠点との交流や合同事業も考えて頂ければ幸いです（例えば、東京医科歯科拠点と合同で行った妊孕性国際シンポジウム等）
小嶋委員	<p>◆関東がんプロで是非、取り入れて頂きたい視点</p> <p>☆妊孕性について ※とにかく、女性にばかり注目される傾向があるが男性にも目を向けていただきたい。シンポでも市民公開講座でも、男性の妊孕性をテーマにして取り上げて欲しい。 ※精巣腫瘍は、多くは20代30代で罹患する。日本人の感覚では、話題にはなりづらいが、ライフステージのがんにおいては、性生活も重要なものだととらえて欲しい。性生活を送れなくなり、その結果、子供を作れなくなる。結婚も遠いものになっていく。その精神的ダメージを、患者と一緒に考える場を作って欲しい。 ※精巣腫瘍に関しては、情報が極めて少なかったため、20世紀に、私が患者会を作った。パートナーである女性がその患者会に相談が寄せる場合も少なくない。其れはなぜか？20代30代の男性がん患者が完治し、職場復帰すると、仕事人間に戻るだけ。社会やがんの患者会からも孤立していく。一人になって落ち込んでいく。それを支える社会システムもない。見るに見かねてパートナーが患者会に駆け込むわけである。</p> <p>☆チーム医療について ※ゲノム医学では、チーム医療が極めて重要になる。私は、「チーム医療推進協議会」も作った。今から10年ちょっと前だが、この10年か余り、医師の団体が入らない。大学院生が、がんプロで「チーム医療」の意義と重要性をみっちり学んで、こうした事態に陥らないようにしてほしい。 ※最近、チームカンファランスの中で、治療法について議論を始めると「先生が早く決めて下さい」と医師任せにするメディカルスタッフが増えてきているという。こんなので、いいのだろうか、考える場をがんプロで提供してほしい。 ※医師・看護師・薬剤師・認定遺伝カウンセラー・臨床心理士（がん専門心理士）など、まさに多職種を抱えるがんプロである。こうした多職種であることは、関東がんプロの宝である。それを最大限に生かし、際立ったその立場を強みにしてほしい。</p> <p>☆e-learningについて ※関東がんプロ以外、医学部のある全国の大学で、自大学の講義で十分と考えている大学にも、このe-learningのコンテンツを教育のリソースとして活用することを呼びかけ、関東がんプロのe-learningに巻き込んでほしい。 ※関東がんプロの多彩な実践のありかたを、もっともっと広めてほしい。学生のニーズはあるはず。改めて全国に広げていってほしい。</p> <p>☆HP ※HPは、がんプロの“顔”。イベントの告知板だけではなくイベントの結果や、がんを学ぶ大学院生への提言などを発信する場としてもう少し力を入れて、変えていって欲しい ※各大学のHPにあるリンクから、それぞれ大学の「がんプロHP」に飛ばないのは残念である。</p>

委員	総括（自由記載）
	<p>☆小児がん ※治療法が定まっていながんが少なくない。例えば網膜芽細胞腫というがんでは、親が子供の将来を決める厳しい判断を迫られることが多い。化学療法や放射線療法で治して子供の目を残そう。いや、転移・再発の怖れを避けるため、眼球を摘出したほうがいい・・・両親が激しく対立することも少なくない。果たして、親が子供の一生を決めて良いのか？！ ※厳しい対立で離婚する夫婦も増えてきているという。こういう時に、チーム医療が大きな役割を果たす。それぞれの医療スタッフの本領発揮の時だ。小児がんの患者をとりまく、親や家族への心理的サポートが必須である。 ※また、きょうだいの問題もある。両親は患児の看病に精一杯で、健康なきょうだいは、鍵っ子になったり、祖父母に預けられたり。そうこうしているうちに、健康なきょうだいの心に問題が生じてしまい・・・精神的なケアは、がん患者以外でも必要な時は多い。是非、がんプロでも取り上げてほしい問題である。</p> <p>☆リハビリ ※理学療法士へのがん教育を、是非、進めていただきたい。理学療法士は患者さんと接する時間が長く、医師にも看護師にも聞けない相談を受ける時があるという話を取材で知った。</p> <p>☆最後に ※“医者任せ”のチーム医療はチーム医療ではない。教官のみなさんにも、そうならないか、自問自答して頂きたい。“雑音”が入る前の“大学院生のうちに”多職種のメディカルスタッフと交流し、接点を増やし、本当のチーム医療を、頭でなく、体で覚えて欲しい。そういう場を作るのが、がんプロの大きなミッションだと思う。</p>
矢野委員	E-learningクラウドを中心に、妊孕性保存への取り組み、高齢者医療の教科書作成など、関東がんプロの独自性を出す事業に取り組んでおられて素晴らしいと思います。また、受講生リクルートのためのパンフレットやビデオを今後関東がんプロ内で共有し、より多くの受講生にがん教育を行っていただくよう期待しております。
山本委員	<p>13もの大学が一つのグループを結成し連携してがん専門医療者の育成に鋭意取り組んでくださっていることに、患者の立場として心より感謝いたします。がん医療のプロフェッショナルをめざす若い人たちが、自らの感性を磨き、個々の能力と人間としての魅力を高められる場、それが関東がんプロであると思います。</p> <p>「がん難民をなくしてほしい」ーがん患者の悲痛な声が国会を動かし、2006年のがん対策基本法の制定につながりました。標準治療で治る患者ですら地方においては、治療を受けられない患者も多くみられた時代でした。全国にがん診療拠点病院が整備され、専門医療者の養成をめざし「がんプロフェッショナル養成プラン事業」が創設され、今ではがんプロ事業で養成された医療者が、各地域のがん診療拠点病院等でリーダー的存在となって貢献してくださっております。</p> <p>ある地方で何年か前に、「腫瘍内科医はゼロだったが今では6人いる」という話を聞きました。手術・放射線治療・化学療法の分野において専門医・専門医療従事者が数多く養成され、着実にがんプロ事業が成果をあげています。</p> <p>また、グローバルに活躍している修了生も多くおられると思います。症例の少ない希少がんにおいては国際共同治験への参加なども必要とされ、がんプロ第2期の「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」での成果も役立ってくるのではと思います。</p> <p>関東がんプロのロゴマークの優しい色合いと医療者も患者も一緒に集う雰囲気がとてもいいです。今後もがん医療の向上に継続的なご尽力をお願いいたします。</p> <p>がんプロ事業は着実に実績を積み上げてきています。「継続は力なり、蓄積は宝なり」ー山本孝史の言葉を思い出します。</p>
志賀委員	<p>グループ全体の活動は順調に運営されていると思います。</p> <p>小田先生が「関東がんプロは全国のがんプロの中で最も積極的に取り組んでいる自負がある」とおっしゃっていましたが、その言葉通り各大学が連携を図りながら様々な活動を広げていると思いますし、さらに継続していただければと思います。</p> <p>医療の発展は日々めまぐるしく進化し、医療従事者に求められるレベルも高くなってきています。それと同時に患者自身も正しい情報を身につけていかなくてはいけません。そのためには患者会として協力できることがあれば、積極的に関与していきたいです。今回初めて外部評価委員なるものを拝命しましたが、関東がんプロの発展に貢献できるようさらに自分自身研鑽を積みしたいと思います。</p>

コース毎の取り組みにおいて

【評価項目】がんゲノム医療人養成コース全体の活動において

【評定について】
 5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	コースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	4	4	4	5
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・養成すべき人材像、教育内容の特色など優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は全体的には及第点ですが、大学間および職種間のばらつきがあります。凸凹のない大学院生の確保に努力頂きたいと思います。
小嶋委員	<p>★ゲノム医療の進展にきちんとキャッチアップできているのか、e-learningのコンテンツをみても、疑問に思われる。</p> <p>★がんにおける大変重要な分野だけに、関東がんプロの威信を賭けて、取り組むべきだ。</p> <p>具体的には、※関東がんプロで、どんなコンテンツが必要か検討し、うまく調整しながら、各大学の専門家に、e-learningのコンテンツの作成に当たってもらう。しかも、スピード感を重視して・・・。</p> <p>※また、少なくとも半年おきに、コンテンツの内容を変更した方がいいかどうかを吟味し、必要に応じて改訂していく。</p> <p>※がんゲノムは、国際競争の世界だから、関係各大学の持ち回りで、その道の世界の第一人者を呼び、講演&ディベートの場を積極的に作る。</p> <p>※勝負はやはり、論文だ。大学院生が、論文をどんどん書けるような研究環境も作ってあげる。そのために、教官も最大限の協力を惜しまない。加えて、語学力に不安のある大学院生の個別指導をする。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>薬剤師や医学修士で受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては（特に医師は大幅に目標を上回る）目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。</p>
山本委員	<p>がん医療においてゲノム医療は最前線、花形の分野であり、どの大学も医師に人気が集まる傾向が見られます。実際、遺伝子検査を受ける患者数も増えていきます。結果を正しく分析・解析し、患者に説明できる医師のニーズは非常に高いと思いますので、医師の履修者が多いのはよいことだと思います。現在、遺伝子検査は、希少がんの病期が進んでいる患者が優先されています。希少がんの知識を得ることも必要かと思えます。今後、この分野における薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー、臨床心理士等の更なる養成にもご尽力をお願いいたします。</p> <p>病理との連携も求められます。検体から遺伝子を調べ、適応となる治療薬があるのかどうか調べることも必要になると思いますので、この分野における病理医の養成も必要ではないでしょうか。</p> <p>コースが始まったばかりでご苦労は多いと思いますが、なぜ、今ゲノム医療なのか、倫理的な問題も見据えて、医の根本を見失うことのない教育方針を貫いていただきたいと思えます。</p> <p>ゲノム医療には患者も大きな期待を抱いています。しかし、まだ、恩恵を受けられる患者はごくわずかであり、失望しながらこの世を去る患者もいます。多くの患者が恩恵を受けられる日まで、継続的な研究と治療開発が必要な分野であり、今後のがんプロの貢献に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>人材も安定して確保されており、順調であると思います。できれば医師以外の薬剤師などの人材も確保できればと思います。</p> <p>ゲノム医療については「第3期がん対策推進基本計画」（平成30年3月9日閣議決定）にもあるように分野別施策である「がん医療の充実」の中の一歩最初に示されており、患者会の中でも最も注視している分野の一つでもあることから、多くの人材の育成を願っております。</p>

【評価項目】小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース全体の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	コースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	4	3	4	4	4
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・養成すべき人材像、教育内容の特色など優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は全体的には及第点ですが、年度、大学間および職種間のばらつきがあります。凸凹のない大学院生の確保に努力頂きたいと思います。
小嶋委員	<p>★小児も、AYAも希少がんも、多職種連携、他施設連携が必要な分野だ。とりわけ希少がんは、自分の大学に専門医がいないことも決してまれではない。だからこそ、関東がんプロは多くの医学部を抱えるだけでなく、看護学も薬学も歯学も、心理士も遺伝カウンセラーも抱える。贅沢な陣容を備えている、数少ない拠点だ。</p> <p>そうしたスケールメリットを最大限生かすべく、“連携”をこえた“合同研究会”や“合同ゼミ”等、大学の壁を取り除いた。</p> <p>学びの場を、もっと増やすべきだろう。お互いに、自分の大学の弱いところを強い大学が補完しあう。同じ大学内でも、学部間に大きな河辺があることは少なくない。こうしたこともあって、チーム医療もうまくいかないことがある。学部間の壁を取り除くことも、この分野でのがんプロ増進の大きな推進力になるに違いない。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>全体としては受け入れ人数の目標数におおむね到達しており、順調に進められていると思います。妊孕性保存の問題にも取り組んでおり、さらに活動が広がることを期待します。</p>
山本委員	<p>国立がん研究センター希少がんセンターによりますと希少がんは約190種あるといわれ、がん全体の20%を占め、がんの死亡者の35%が希少がん患者とも言われています。個々のがんの治療は、得意とする大学がリードして研究・開発を進めてくださればいいと思います。それと並行して、希少がん全体に対してどのように取り組んでいくべきかを、総合的に考え解決策を見いだせる人材の養成が望まれます。この分野においては、国立がんセンター希少がんセンターや全国のがんプロチームとの連携による知識の習得、経験・臨床の機会提供など幅広い交流が望まれます。一丸となつての総合的なシステム開発などの取り組みに期待いたします。</p> <p>この分野では、研究・臨床データなどがバラバラに存在しています。AIや最新技術を駆使してこれまでのデータを整理統合し、そこから個々のがん、あるいはグループ化できるがん種などの治療方針の確立などができたらいいと思います。がんプロ4期目のメインテーマにもなりうると思いますし、産官学患連携で取り組めないものでしょうか。</p> <p>関東がんプロにおいては、「希少がんの課題総論」「希少がんの定義」「希少がん診療上の課題」「希少がんセンター」「希少がん治療開発への取り組み」等の講義がアップロードされているようです。他のがんプロチームの講義も視聴できるのはいいことだと思います。日本医科大学が「消化器希少がん」の講義を設けられているように、呼吸器、泌尿器、頭頸部、血液がんなど、領域ごとの講義も設定されることが望まれます。</p> <p>現在、遺伝子検査は、希少がんの病期が進んでいる患者が優先されていますので、ゲノムコースと連携しての講義などの設定もありうるのでしょうか。</p> <p>市民・患者参加型の希少がんセミナーの開催も考えられるかと思います。現状、問題、治験、創薬、患者の思いなど、知っていただきたい課題はたくさんあります。</p> <p>小児がんやAYA世代に特有のがんに関しては小児がんの晩期合併症のフォローや生殖医療など社会生活重視の視点からの積極的な取り組みがみられます。</p> <p>継続して取り組むことが大切であり、発展が期待できる分野だと思います。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>もう少し人材が確保できればと思います。</p> <p>小児・AYA・希少がんという幅の広い分野であるため、取り組まなければいけない課題も山積されているかと思いますが、さらなる展開を期待します。</p>

【評価項目】 包括的ライフステージサポート医療人養成コース全体の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	コースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	3	4	5	4
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・養成すべき人材像、教育内容の特色など優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は目標人数をクリアしており全体的に及第点です。職種間のばらつきも少なく評価できます。 ・高齢者がん治療のテキスト作成は大変素晴らしい取組みで高く評価できます。
小嶋委員	<p>★ワーキンググループ会議が割とうまく、機能しているのではないかと推察する。カリキュラムの適宜の見直しや、e-learningのコンテンツ見直しなどで成果が上がっているからこの会議を、よりいっそう、実効性のあるものにすべく、邁進して行って欲しい。</p> <p>★ライフステージという、人が生まれてから死ぬまでの間にできるがん。そのがんとの付き合いを学ぶことの、本当の意味や意義をうまく大学院生に伝え、また、リクルートにつなげて行って欲しい。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>ほとんどの教育コースで受け入れ人数が目標を上回っており、順調に進められていると思います。</p> <p>高齢者がん医療の教科書作成は高く評価されると思いますので、発刊されるよう引き続きリーダーシップを発揮してください。</p>
山本委員	<p>この分野は安定的に履修者の確保ができています。多職種連携によって、どのライフステージにあっても、また病期にあっても、患者一人ひとりの人生を支えていくという使命感に裏打ちされたコースになっていると思います。がんプロ事業過去10年の蓄積が活かされていると思います。</p> <p>がん医療を社会全体の問題として捉え、医学系の枠をとりはらい、非医療職の参加を促し、医療心理学コースを新規に取り入れるなどチーム医療の幅を広げての研修・実践を高く評価いたします。</p> <p>がん患者の尊厳を守りながら人生をサポートする継続的な取り組みが必要です。</p> <p>この分野での更なる発展を期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>最も多くの職種が関わる分野であり、連携している大学間にもける波及効果が期待できると思います。</p> <p>また、全国のがんプロで最も連携大学が多いだけでなく、がん医療心理学など他のがんプロにはないカリキュラムもあり、今後さらなる発展を期待します。</p> <p>さらに「がん教育」や「サバイバーシップ」など患者会として研究に協力できる分野であり、機会があれば積極的に関与していきたいと思います。</p>



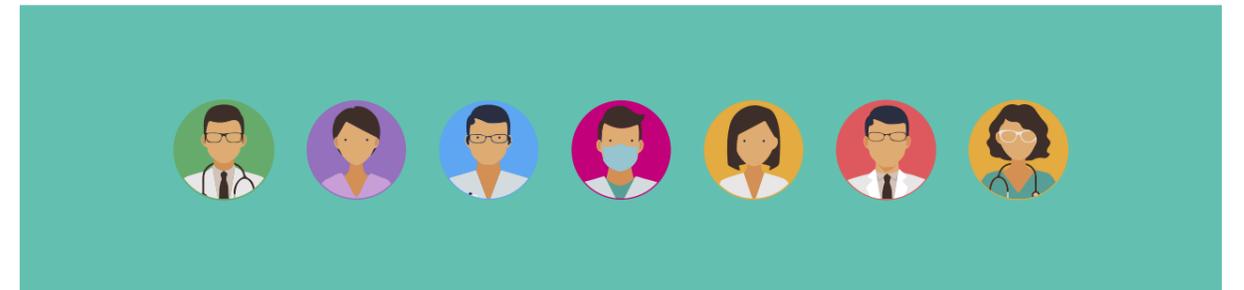
【評価項目】 インテンシブコース全体の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	コースのコンセプトに従って、運営されている	5	2	4	4	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	4	2	4	3	4
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	3	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・養成すべき人材像、教育内容の特色など優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は全体的には及第点ですが、年度、大学間および職種間のばらつきがあります。凸凹のない大学院生の確保に努力頂きたいと思います。
小嶋委員	-
矢野委員	医師の受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。
山本委員	<p>医師の受け入れ目標人数に対して実際の受け入れ人数が極端に少ないようです。一方、看護系の履修者が多いという特徴がみられます。e-learningは、どこにいても視聴できて知識を深めることができるというシステムですので、さらに多くの医療者に活用してもらう方法も考えていただけたらと思います。</p> <p>病院はどこも患者からの相談が多いと思います。特に症例が少なく治療法が確立されていない希少がんでは早期発見が大切です。かかりつけ医が、もう少し早くがんを疑ってくれば手遅れにならなかった、という嘆きも耳にします。地域の医療者も活用できるシステムであれば尚いいかと思います。</p> <p>継続的な取り組みの拡大と発展を期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>受入人員が年度によってバラつきがあるのが気になりました。</p> <p>ベースがe-learningになるので、そこの充実が肝になるかと思います。</p> <p>また一般病院を対象にするなど大きく門戸を開いて人材の育成につないでいただければと思います。</p>



【評価項目】 e-learningについて

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1 利用者が本システムを簡便に操作できる	5	5	4	5	3
2 国際化に対応できるシステムである	4	4	3	-	3
3 カリキュラムが充実している	5	4	4	4	5
4 講義内容が充実している	5	4	4	4	5
5 講師が充実している	5	4	4	-	5
6 外部講師、連携施設からの講師を十分活用している	5	3	3	-	5
7 学生に十分利用されている	5	4	4	5	5
8 本プロジェクト（がんプロ）の目的達成のために有益である	5	4	4	5	5
9 本事業（がんプロ）終了後も継続的発展が期待できる	5	5	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期がんプロの各テーマにそって体系的な充実したe-ラーニングのコンテンツの作成にご尽力頂いたことを高く評価します。 ・ コンテンツの作成について、大学間で違いがあるようなので、全体としての協力を望みます。 ・ 教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。
小嶋委員	<p>★少なくとも、関東がんプロ内においては、プログラム（あるいはコンテンツ）委員会を作り、定期的な会合を重ねて新しく加えた方がいい内容と、どの先生にその内奥を講義してもらおうか。</p> <p>あるいは、他拠点のコンテンツを利用するかなどを決める</p> <p>★がんゲノムなど、とりわけ、変化が激しく大きい分野に関してはスピード感が求められる。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>第3期がんプロにおいてもe-learningクラウドを取りまとめられたリーダーシップに敬意を表します。今回の評価項目に国際化や外部講師・連携が取り入れられている点も、今後を見据えた取り組みと評価できます。</p> <p>一方、外部講師取り入れ、連携を進めることと、各大学で教材をたくさん作成することの整合性を今後とられると、より質の高い教材を必要最小限で取り揃えられて、受講者の「教材数が多すぎる」、「内容が重複している」というコメントに対応できるように思われます。</p>
山本委員	<p>システムを開発し、講義教材を揃え、履修者の皆さんに利用され、視聴回数から見ても成果をあげていると思います。全国の学生が視聴できるコンテンツも用意されていることはとてもよいことだと思います。</p> <p>今後も、全国がんプロe-learningクラウド活動会議等で、連携して質の高いコンテンツの積み上げをお願いします。特に、ゲノム医療は日進月歩であり、教材の見直しは大変な作業かと思います。現在、ゲノム検査、治験、治療等は希少がんの患者が優先されています。ゲノムコースと希少がんコース連携で、「希少がんとゲノム医療」のようなコンテンツも考えられるのでしょうか。</p> <p>それぞれの大学が、それぞれ得意とする分野において積極的にコンテンツ作成・バージョンアップに貢献して下さることを期待いたします。</p> <p>（2）国際化に対応できるシステムであるか、（5）と（6）の講師に関する設問においては判断できませんので回答なし、とさせていただきます。</p>
志賀委員	<p>e-learningの中身まで見る事ができないのでシステムについては評価できませんが、カリキュラムや講師陣は充実していると思います。</p> <p>その結果が視聴回数・視聴時間・ユーザー総数の伸びにつながっていると思います。</p> <p>eクラウドにおいて教育コンテンツが集積できるので教育の標準化も見込めると思います。しかしその反面、受講者の知識取得の質の保証についてはバラつきが出るかと思います。また、各大学で中身の更新なども課題になるかと思います。</p>

【評価項目】教育コース全体について

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	コンセプト・活動方針・計画が充実している	5	4	4	5	5
2	コンセプト・活動方針・計画に従って、運営されている	5	3	4	5	5
3	現時点での達成度について					
	a. 養成人数	5	3	4	4	5
	b. 人事交流（各大学間連携）	3	2	4	4	5
	c. 国際化	4	3	4	5	5
	d. 地域連携	4	2	4	4	5
4	本事業（がんプロ）終了後も継続的発展が期待できる	5	3	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの大学をそれぞれの特徴を活かしながら、e-ラーニングを中心にまとめていただき、高く評価します。 ・各大学がそれぞれ特徴を持っているだけでなく、養成する職種もバリエーションに富んでおり、総力として全国のがんプロの中でも他の追随を許さない養成がされていると思います。 ・各大学および全体としての各コースに掲げられた養成すべき人材像、教育内容の特色など大変優れたコンセプトと思います。現状の教育体制で、このコンセプトにそっての運営は必ずしも容易ではないと考えられますので、もう一工夫を考慮頂きたいと思います。
小嶋委員	<p>★第二期までの関東がんプロの方が、勢いがあったと思う。それはやはり、今より、こじんまりとしていて、小回りもきいた。関東がんプロの中で、1つの大学が主張しやすかった。大きくなったからこそその対応を考えるべき。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	-
山本委員	<p>がんプロフェッショナル養成事業の基本的な考え方は、2006年に制定されたがん対策基本法にあると思います。「がん難民をなくし、患者一人ひとりの尊厳を守る医療」が基本法を支えるコンセプトでありました。関東がんプロはその原点をしっかりと若い医療者のみなさんに伝えてくださっています。そして、各大学が、それぞれ建学の理念のもとにがんプロにおける教育の目標を掲げ、それぞれの特徴を活かし得意分野で頑張ってくださっていると評価いたします。</p> <p>大学間連携、地域連携においては、各大学が努力されていると思います。互いに切磋琢磨し研鑽を積み、地域医療において中核的なリーダーとなるべく人材が多く輩出されることが期待できます。国際的なセミナーやシンポジウムの開催、留学の奨励、留学生の受け入れなどにも力を入れているように思います。</p> <p>また、がんプロは、履修者がそれぞれの「理想の医療」を考える場であってほしいと思います。理想の医療とはどういうものなのでしょう。</p> <p>胸腺がんになった夫は、2年の闘病の間に「理想の医療とは何か」を考え続けました。そして、「理想の医療とは、生きたいと願う患者とその気持ちに寄り添ってくれる医師（医療者）が出会ったとき、そこに理想の医療は生まれる」と言い残しました。</p> <p>医療が進歩し、社会が変化し、患者のニーズが多様化していくなかでの新たな領域における第3期のがんプロの挑戦において、引き続きのご尽力をお願いいたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。活動方針・内容・養成人員とも順調に進んでいると思います。さらなる継続と発展に期待します。</p>



【評価項目】グループ全体（13大学）の活動について

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	コンセプトを生かした運営がされている	5	2	4	5	5
2	がんの特化した講座が設置されている	4	4	4	5	5
3	グループの広報活動について					
	a. ホームページについて	3	2	4	3	4
	b. パンフレットについて	4	2	4	4	4
	c. その他（チャレンジングか?）	5	3	4	5	5
4	グループの社会的啓蒙活動について					
	a. 内容的に優れている	5	3	4	4	5
	b. 量的に優れている	5	2	4	4	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・性格の異なる多くの大学からなるグループですので、まとまるのは大変と思いますが、現時点ではそれぞれの特徴を活かして運営されていると思います。 ・このことは強みにもなりますし、多職種連携の観点からも有利な所がありますから、出来る限り、様々な形で交流を図って頂きたいと存じます。 ・大学間の距離があるので難しいかもしれませんが、大学間の連携・交流を活発にして頂ければと思います。 ・職種間の連携も必ずしも活発ではないように見受けられますので、それを克服する事業を考慮頂きたいと思います。 ・慈恵医大・昭和大学・星薬大・上智大学の4大学院連携がんチーム医療ワークショップは素晴らしい取組みと高く評価します。可能であればこの取組みを関東がんプロ全体に拡大して頂ければと希望します。 ・関東がんプロのホームページは発信源として大事な広報なので、さらに充実を考えて頂きたいと思います。 ・ニュース&トピックスでセミナー等を広報していますが、掲載されているのは5-6大学にとどまっています。掲載していない大学もセミナーを実施しているので、是非、ここで広報いただきたいと思います。 ・活動の成果の広報も弱いと思います。せっかく行った事業は宣伝の意味もこめて、できるだけ発信頂きたいと思います。 ・各大学でも固有のがんプロのホームページを作って頂き、そこでの活動を知らせて頂きたいと思います。

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
小嶋委員	<p>★第三期に入り、加入大学が増えたことや、それだけでなく、これまでグループを形成してきた大学群がそのまま入ってくるなど、関東がんプロが、一枚岩になっていない状況が続いていると思われる。</p>
矢野委員	<p>主幹校の筑波大学、リーダー校の群馬大学、千葉大学を中心に13大学が連携して事業を進められていると思います。</p>
山本委員	<p>社会全体でがん医療の問題解決に取り組んでいかねばならない時代にあって、医療系の学部をもたない上智大学とお茶の水女子大学の関東がんプロへの参画は大きな意義があると思います。</p> <p>シンポジウム・講演会の開催においては、主催校が他校に参加を呼びかけて行われ、4大学の大学院連携がんチーム医療ワークショップや6大学インテンシブコース連携などでも協力し合い、多職種から学ぼうとする意欲が感じられます。さらに連携校を増やしていったらいかがでしょうか。市民・患者会との交流においては、活発な大学と活動が不足しているのではと考える大学があるようです。今期最終の年には13大学合同の成果発表を市民公開の形で実施されたいかがでしょうか。</p> <p>「小児・AYA世代、希少がん」は特に取り組みが難しい領域です。難しいがゆえに、研究・開発においてチャレンジングな分野でもあります。グループ全体でこの分野における取り組み（来期への課題も含めて）について更に議論を深めていくことを願います。</p> <p>HPには実際に医療現場で中核となって活躍しておられる修了者の紹介があっただけだと思います。</p>
志賀委員	<p>大学数がすべてのがんプロの中で最も多いこともあり、プロジェクトを進める上で難しいこともあるかもしれませんが、今以上に連携を図りさらなる発展を望みます。</p> <p>ホームページについては他の評価委員から話もありましたが、「告知」も重要ですが「成果報告」も同じくらい重要であると思うので、細目な更新をされることが「関東がんプロ」の宣伝にもつながると思います。</p> <p>ホームページにリンクされている「がんプロ×OCW」は患者・一般向けに非常に分かりやすい内容になっています。しかしOCWは筑波大学のすべての学問が載っているため、「OCWの関東がんプロ版」があればさらにいいと感じました。</p>

各大学の取り組みにおいて

【評価項目】筑波大学の活動において

【評定について】
5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	5	4	5	5
2	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
3	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	4	4	4	4	4
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	5	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期がんプロの各テーマにそって体系的な充実したeラーニングのコンテンツの作成にご尽力頂いたことを高く評価します。 ・Eラーニングにはメリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・3つのコースはそれぞれのコンセプトにそって運営されていると評価します。 ・受入れ人数は全体的には及第点と思いますが、0が続いている所（ゲノムコース医科学修士、小児・AYAコース医学物理士）は大学院生の確保に努力頂きたいと思えます。 ・職種間の連携を図る取組みを検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思えます。
小嶋委員	<p>1-A)</p> <p>★リクルーティングもうまくいっているようで、受け入れ実数も満足いく数字になっている。</p> <p>★がんゲノムは、まさに日進月歩で、目まぐるしく変化していく分野。e-learningも日々更新するくらいの気概を持って、対応して頂きたい。</p> <p>★多職種連携が大きな役割を果たす分野だけに、医学物理士の参加がないことが、極めて残念。リクルーティングに、大きな工夫と積極的な勧誘が必要か・・・。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
	<p>1-C)</p> <p>★こちら、多職種連携が要となる分野。医師の参加意欲は評価できるが、医学物理士、看護師のリクルーティングに、大いに難あり。要工夫。</p> <p>全般)</p> <p>★論文発表数が他の大学に比べ多く、成果が上がっていることの好例と高く評価できる。</p>
矢野委員	<p>一部の教育コースで受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。受講者獲得に向けたパンフレットやビデオを作成しており、さらに受講生が増えることを期待します。</p>
山本委員	<p>「豊かな人間性と生命の尊厳について深い倫理観をもつ医療人の養成」をめざしておられることに共感いたします。2006年のがん対策基本法が制定されたのは「がん難民」をなくすためでした。「がん患者が尊厳をもって人間らしく生きられるがん医療の提供」というがん対策の原点に根ざし、関東がんプロ13大学の主幹校として精力的に取り組みを進めておられます。また、小児・AYA・希少がんコースにおけるリード校としてこの分野における人材不足等の諸課題をどう解決していくのかという非常に難しいテーマに挑戦されています。</p> <p>希少がんは約190種あると言われ、がん全体の約20%を占め、死亡者はがん全体の約35%とも言われています。個々のがんについては、得意とする大学がリードして研究・治療開発を進めてくださればいいと思います。それと並行して、希少がん全体に対してどのように取り組んでいくべきかを、総合的に考え解決策を見いだせる人材の養成が望まれます。</p> <p>全国e-learningシステムの開発に大きく貢献をされ、関東がんプロの枠を超えて、講義を全国公開もされていることを高く評価いたします。希少がんにおいてもコンテンツの内容が充実していくことと期待いたします。</p> <p>ゲノム、生殖医療、在宅緩和などのセミナー・シンポジウムの開催にも積極的に取り組まれています。受入数においては、医師は目標を達成していますが、他の職種では更なるリクルートの工夫が求められます。</p> <p>がんプロ事業においては、1期、2期と実績を積み、社会のニーズに沿ったがん専門医療人を数多く養成され、修了者は地域の医療施設にて中核的存在となって活躍されています。今後も関東がんプロの主幹校として全国のがんプロチームとの連携を図りながら、患者のためのがんのプロフェッショナル医療人育成の継続的な取り組みをお願いいたします。</p>
志賀委員	<p>すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。第3期がん対策推進計画に乗った内容で将来性のある活動であると思います。</p> <p>強いていうならば「小児・AYA・希少がん専門医療人養成大学院コース」が受け入れ目標の人員に達していないので、是非多くの院生に興味を持ってもらえたらと思います。</p> <p>茨城県は医師不足が深刻であることから、知事を筆頭に医師の確保を県政の最重要課題に挙げており、茨城県内の大学で唯一の「医学部」を有している筑波大学には今後も強いリーダーシップを発揮し、医療の発展に貢献いただければと願っております。</p>

【評価項目】 千葉大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	5	4	5	5
2	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
3	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	5	4	5	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	4	4	4	4	5
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	5	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> 全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 第1期、第2期の時から多彩なセミナー、シンポジウム、カンファレンスを数多く、開催し、多面的な教育をしておられることに敬意を表します。 教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 受入れ人数は全体的には及第点ですが、薬学系がずっと0というのが目立ちます。難しい面があるとは思いますが、少人数でも大学院生の確保に努力頂きたいと思えます。 職種間の連携を図る取組みを検討ください。 他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思えます。
小嶋委員	<p>2-A) ★ゲノム医療分野において、患者と最も接点の大きい看護師が、最先端の知識を持てば、まさに、鬼に金棒。今後も、看護師の積極的な参加に期待したい。</p> <p>2-B) ★年々、受入数が減ってきているような状況が、残念。それに伴うことでもあるが、多職種連携によるチームが求められる分野だが、その連携もうまく見えてこない結果になっている。</p> <p>2-C) ★がんが、世代をこえて治療の対象となる疾患であること。そのことを医学・薬学の大学院生らにうまく伝えることに成功していると高く評価できる。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
	<p>全般)</p> <p>★3つのコースの壁を作らず、また、専門の壁も外して、がん専門でない大学院生も受け入れることで、医師は勿論、看護師、薬学からの参加者を獲得できていることは高く評価。</p> <p>★薬学からの参加者へ、どのようなメリットを与えていくか、また、受け皿をどのように広げていくか、今後の取り組みに注目したい。</p>
矢野委員	<p>一部の教育コースで受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。</p> <p>薬剤師コースの受け入れの難しさがありますが、どの職種にも特別なインセンティブを与えることは難しいので、コースリーダーにリーダーシップ発揮してもらい受け入れ数を増やすことが必要かもしれません。</p>
山本委員	<p>がんプロ事業1期から2期へ、そして3期へと連携校を拡大しながらチーム連携を重視されて患者中心の医療の確立へ尽力されてきておられます。市民公開講座を定期的開催されるなど、市民への情報発信にも力を注がれています。市民、地域があつての医療であることを深く理解されていて、患者会・患者支援団体との交流が活発に行われている点を高く評価いたします。</p> <p>ライフステージのリード校として尽力されています。地域医療の中核となって寄り添いの医療を実践ができる人材の育成が期待されます。この分野での医師と看護師の受け入れは目標に達しているようですが、薬剤師のリクルートに工夫が必要かと思えます。がん患者がQOLを維持しながら最後まで生を全うするには、医療用麻薬など薬剤の助けが必要です。また、薬剤の領域では、創薬の研究・開発に携わる人材も必要ですので専門家の養成が望まれます。</p> <p>各コースともに医師の履修者が多くなっています。難しい分野であります小児、AYA、希少がんコースにおいて「課題・その対応策を解決・開発する実践的実習」を掲げられています。コースの壁を作らないという方針の方針ですので、この課題に向け、他コースとの協力体制で取り組んでいただけたらと思えます。</p> <p>セミナー等は学生が運営しているとのことで、リーダー養成の点で評価できます。継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。また、各コースとも人員も予定以上に確保されており、学内における関心の高さが伺えます。</p> <p>スライド発表の中で「がん患者団体との連携」に触れていただいたことは、患者団体を主宰する者として大変ありがたい言葉であり、是非協力していきたいと考えております。</p>

【評価項目】群馬大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
2	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
3	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	4	3	4	4	5
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・E-ラーニングのコンテンツの更新の予定により、さらに充実を図るのは高く評価できます。 ・セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・受入れ人数は全体的には及第点と思いますが、小児・AYA・希少がんコースの少ないのが目立ちます。難しい面があるとは思いますが、大学院生の確保に努力頂きたいと思います。 ・職種間の連携を図る取組みを検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★多職種連携検査-ボード等、積極的な取組みを目指していることは伝わるが、実際の受け入れ実績が少々心許ない。医師以外のリクルーティングに工夫を。</p> <p>★国立がん研究センターなどの人材交流や、モンペリエ大学との人材交流・国際セミナー開催、WHOの教育研修システム導入など、他大学との差別化をはかれる取組みは高く評価される。そういった独創性から、どのような実が結ばれるか大いに注目したい。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	一部の教育コースで受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。
山本委員	<p>「がんゲノム医療人養成コース」のリーダー校として、最先端研究基盤と連携したゲノム医療の教育・研究ができる環境の強みを活かして取り組みがなされていると思います。受講においても目標をクリアされています。ゲノム医療は市民の関心も高く、市民公開講座も開催され情報提供を行っている点を評価いたします。一方で、ゲノム医療が進歩しても、がん医療はゲノムだけで解決するものではなく、従来の薬物療法や放射線治療、外科的治療等の集学的治療も大切であり、その点においても実践できる環境を有していることも強みかと思います。</p> <p>希少がんにおいては、他施設（国立がんセンター希少がんセンター、埼玉県立小児医療センターなど）との交流を積極的に行っているとのことで、国立がんセンターと連携する「希少がんサテライト医療センター」の設立を実現し、希少がん患者のためにご尽力をお願いします。希少がんにおいては治療法が確立されていないことが多く、希少がんの病理・治療のコンサルテーションシステムも必要と思いますので、ダイナミックにしかもきめ細やかな治療戦略をお願いします。</p> <p>ライフステージや希少がん領域における歯科医師や看護師の養成にも更にご尽力をお願いいたします。</p> <p>継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。人員も目標以上に安定的に確保されていると思います。e-learningについては運用の中で課題も出てきているようなので、適宜更新をしさらなる充実を図っていただければと思います。



【評価項目】日本医科大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	5	5
2	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	5	5
3	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	4	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	3	4	4	5
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・E-ラーニングに多くのコンテンツを提供しておられ、経緯を表したいと思います。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は多少の凸凹はありますが、全体的として十分な学生を確保しておられ、及第点と思います。 ・セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・職種間の連携を図る取組を検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組を考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★高度の専門的知識と医療倫理を備えた“愛と研究心”を有する・・・。</p> <p>“愛と研究心”を持った人材育成を行うという姿勢は大いに評価されるべき。 (日本医大の建学精神ですか?)</p> <p>どんな人材が育っていくか注目して見ていきたい。</p> <p>★多職種連携でないとうまく処理できない場面が多いのも、がん医療の特徴。医科大学ゆえ、多職種からの参加は難しいが、知恵を絞って、是非、他の職種を入れたプログラムの開発を考えて欲しい。</p> <p>★e-learningのコンテンツの4分の3を、自学の教員で作成しているのは特筆に値する。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>一部の教育コースで受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。E-learning作成においては、自施設で75%の講義を作成したこと、令和1年からインテンシブコースを新設されたことなど、評価できると思います。</p>
山本委員	<p>「高度化・多様化する医療動向を見据えた体系的かつ実践的な大学院教育の推進」を目指されて、がんの基礎研究から効果的な治療法の開発まで研究体制を確立し、取り組んでおられることを高く評価いたします。がん医療の包括的なシステムを作ることが今、特に希少がん（小児がんを含む）で求められています。先端技術を駆使しての問題解決の戦略を立て解決を図る人材の育成の更なる拡充に期待いたします。小児がんの研究などで中心的役割を果たされており、他の希少がん領域においても、研究・教育の機会が豊富に提供されているとのこと、成果が期待されます。</p> <p>e-learningにおけるコンテンツ作成・見直しへの貢献がなされています。さらに希少がんの領域でもコンテンツへの貢献も期待されます。</p> <p>多職種連携の機会をもつことも必要かと思えます。また、市民参加型のセミナーやシンポジウムにも取り組まれたらいかがでしょうか。直接、患者の声を聞き、患者の思いに触れることは、履修生のモチベーションの向上にもつながるかと思えます。</p> <p>継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。特に大学一丸となって多くの先生がe-learning講座に参加されているのが印象的でした。</p> <p>がんプロインテンシブコースについても積極的に取り組んでいただければと思います。</p>

【評価項目】 獨協医科大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	4	5
2	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	4	5
3	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	5	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	3	4	4	5
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	3	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・セミナー・シンポジウムをもう少し充実させて頂きたいと思います。 ・受入れ人数はどのコースも目標人数をクリアして評価できると思います。 ・セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・職種間の連携を図る取組を検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組を考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★コンセプトの②「教育内容の特色」を読む限り、新規性や独創性を余り感じられない。大学院生のリクルートに直結する項目だけに、コンセプトを塗り替えるなど大幅に見直してみるのもいいのではないかと。</p> <p>★論文可につなげる試みは、もっともっと力を入れていただきたい。がんの分野では益々論文力が求められていると言えるからだ。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	いずれの教育コース目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。
山本委員	<p>大学は130年以上の歴史を有し、常に社会や地域のニーズに応じてながら発展を続け、地域貢献の使命感のもと、医師、歯科医師、看護教員、看護師と幅広く人材を育成されています。留学生も受け入れ、国際協力型関連のコースにおいて4名が履修を修了し、医学博士として活躍されています。今後もさらに実績を伸ばしていただきたいと思います。学内給付制度を用いての海外留学も積極的に支援され、国際的な人材養成に力を注がれている点も評価できます。</p> <p>臨床と研究の連携で白血病と脳腫瘍など希少がんの得意分野での根治をめざす治療の開発、人材の育成に期待いたします。また、ゲノムの基礎知識を習得し、遺伝子情報の解析から個別化治療の実践ができる医療者の育成を目指しており、継続的な取り組みによる成果を期待いたします。ライフステージにおいては、口腔ケアの重要性の認識が高まり、歯科医師や看護系の活躍が見込まれます。</p> <p>がんプロ養成プランの第1期から継続的に参加されてe-learningのコンテンツの提供も行われています。セミナー・シンポジウムの取り組みを一層進められて、市民や患者の声も直接聞く機会を設けられてはいかがでしょうか。</p> <p>継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。さらに受入目標人員の枠を広げてほしいかと思いました。緩和ケア部とがん相談支援部門の連携が取れているということなので、うまく活用し、さらなる人材の育成を期待します。

【評価項目】 埼玉医科大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	3	4	4	5
2	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	4	5
3	インテンシブコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	4	3	4	4	4
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	4	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は正規コースが目標人数をやや下回り、インテンシブコースは多数を集めて、全体的としては及第点だと思います。インテンシブコースは職種の偏りが見られるので、バランスも考えた受講生の確保に努力頂きたいと思います。 ・職種間の連携を図る取組みを検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>6-C・D)</p> <p>★がんの支持を中心に据え、緩和ケアチームのリーダーをも育成しようという贅沢なコンセプトを高く評価する。</p> <p>★日本のがん医療の、まだまだ弱い点でもあり、医師も、他のメディカルスタッフも一丸となって、成果を上げ、日本全国のがんプロに、範を示すものになっていただきたい。</p> <p>★インテンシブコーナーでは、看護師の参加が突出していて、他の職種からの参加者はチョロチョロだ。</p> <p>リクルーティングの作戦は、練り直した方がいいのかもしれない。</p>
矢野委員	<p>正規の教育コースでは目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。インテンシブコースでは、メディカルスタッフの受講が進んでおり評価できると思います。学内の医師にも勧めてもよいのではないのでしょうか。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
山本委員	<p>「地域医療に貢献できるすぐれた臨床医の育成」を建学の理念とされ、第1期、第2期のがんプロ養成プランで実績を積み、すでに数十名の大学院生が学位を取得し、専門医として第一線で活躍されているということが大きな特徴かと思えます。</p> <p>インテンシブコースに力を入れておられ、医師以外のコメディカル技能アップにも貢献されています。支持療法や終末期の緩和ケア等の分野でのリーダー育成が効果的に行われ、地域貢献を果たされているように思います。「終末期も光り輝く人生の時」であることを実践で示していただきたいと思います。</p> <p>セミナー・シンポジウムを積極的に開催されております。一般市民への情報提供とともに、患者・市民から意見をもらうという視点も取り入れたいかがでしょうか。</p> <p>「国際的な基準の安全安心ながん医療」習得の環境が整っているとのことですが、更に国際的な基準作りに参画できる人材の育成も望まれます。</p> <p>今後も継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。特に「包括的ライフステージサポート医療人養成インテンシブコース」においては看護師を中心に多職種かつ多くの人材を確保、育成されていることは将来の緩和ケア医療において非常に重要であると思いました。</p> <p>「ゲノム医療」の人員確保が苦戦しているように見受けられますので、是非頑張ってください。</p>



【評価項目】茨城県立医療大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	3	2	4	5	5
2	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	3	3	4	4	5
3	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	2	4	4	5
4	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	3	3	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価委員会でプレゼンがなく、提出資料も少数の図表だけで、これだけの資料で評価することは困難です。真剣に取り組んでいるのか、やる気があるのかないのかもわかりません。 ・養成すべき人材像、教育内容ともすばらしいコンセプトをもって教育されていますが、適切に運営されているかどうかの評価は困難です。 ・第1期、第2期の時から医学物理のセミナーに大変力を入れていることはホームページなどで把握しており、その点には敬意を表します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・受入れ人数は及第点と思います。 ・他職種との連携を図る取組みが望ましいと思います。 ・その意味でも他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★日本では、益々需要の高まる医学物理士。その育成に当たる貴学への期待は大きい。是非、他大学との交流や連携によって、チーム医療の中心になれる人材の育成を進めて欲しい</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>一部の年度において受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。医学物理士は全国的にも人数が不足していますので、一人でも多くプロフェッショナルを養成されることを期待します。</p>
山本委員	<p>医療大学として、医療専門職に求められる臨床の実践能力とともに問題解決能力を養うことも重要視し、特に小児・AYA・希少がんとライフステージの領域で医学物理コースに特化して医療人を養成されています。</p> <p>教育用リニアクを用いての実践・研究の環境が整備されているという特色を強みとして、小児・AYA世代の長いスパンでの人生を考慮した、「医学物理の観点から恒常的に小児がん放射線治療が安全に行える体系開発」に期待いたします。また、放射線治療によるQOLの維持・向上も患者に理解されてきておりますので、それらの基礎となる体系の構築に期待いたします。</p> <p>地方によっては、放射線機器があっても作動させる医療者が不足しているという事例もあります。医療者の偏在かと思いますが、そういう日本の現状（地域格差）の改善にも、専門の強みを発揮されて貢献していただきたいと思います。</p> <p>多職種との連携によるQOLの向上の研究も必要かと思います。また、市民向けセミナーなどの開催で、医学物理の重要性などをアピールされたいかがでしょうか。</p> <p>今後も継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。研究用リニアクを保有しているという武器を生かしながら、さらなる人材の育成を期待します。</p> <p>個人的な話ですが、看護学科においては毎年「成人看護学」の授業の中の「がん経験者の話を聞く」という講座でお邪魔しておりますが、学生さんたちの授業に対する取り組みが真剣で感心しています。</p>

【評価項目】群馬県立県民健康科学大学の活動において

【評定について】
5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	3	2	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	3	4	4	5
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	3	2	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価委員会でプレゼンがなく、提出資料も少数の図表だけで、これだけの資料で評価することは困難です。真剣に取り組んでいるのか、やる気があるのかわかりません。 養成すべき人材像、教育内容とも素晴らしいコンセプトをもって教育されていますが、適切に運営されているかどうかの評価は困難です。 教育手段がeラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題とします。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 受入れ人数は及第点と思います。 セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 他職種との連携を図る取組みが望ましいと思います。 その意味でも他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★発展途上故、今後の取り組み次第では、大きな発展が期待できる。</p> <p>★通常に、設定されている講座（コース）ではなく、がんプロのコースとして行われているので、e-learningの導入や他大学主催研究会やセミナーへの参加も積極的にとりいれるべきだとも思う。</p>
矢野委員	すべての年度で受け入れ目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
山本委員	<p>関東がんプロの中で、希少がん（小児・AYAを含む）の領域に特化して履修コースを開設されているという特徴があります。難しい分野ですので希少がん患者にとっては心強い存在です。</p> <p>大学院生のリクルートは順調にっており受入れの目標人数は達成されています。重粒子線や陽子線といった高度な放射線治療においては、医学物理士が不足していると思いますので、取り組みに対し大いに期待いたします。がんの放射線治療の分野で中心的存在となる人材の養成が期待されます。チーム医療の中での活躍にも期待いたします。</p> <p>e-learning における講義にも貢献ができるのではないのでしょうか。</p> <p>医学物理士の仕事はあまり一般には理解されていないようです。また、「医学物理士」という名称も馴染みがないかと思います。講演会を市民にも開放し、タイトルも市民向けにして存在をアピールしてはいかがでしょうか。</p> <p>小児・AYA・希少がんコースはライフステージとも深く繋がっています。患者のQOLの向上のために継続的な取り組み・発展を期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>医学物理コースをメインにさらなる人材の育成を期待しております。</p>



【評価項目】東京慈恵会医科大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	がんゲノムコースのコンセプトに従って、運営されている	5	2	4	5	5
2	小児・AYA・希少がんコースのコンセプトに従って、運営されている	5	2	4	4	5
3	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
4	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	3	4	4	5
5	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	3	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・慈恵医大・昭和大・星薬大・上智大の4大学院連携がんチーム医療ワークショップは素晴らしい取組みと高く評価します。可能であればこの取組みを関東がんプロ全体に拡大して頂ければと希望します。 ・ワークショップも含めて活動の一切が関東がんプロホームページ等から知ることができません。せっかく意義のある活動をしておられるので、広報にも注力頂ければ幸いです。 ・受入れ人数はどのコースも目標を上回り全体的として及第点と思います。 ・セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・職種間の連携を図る取組みを検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般的)</p> <p>★学生の質と研究成果の高さは、一定以上の評価が得られていると言えるが、がんのプロフェッショナルを育成しようという、がんプロの“原点”を余り感じられないのはなぜだろう。</p> <p>これまでの4大学連携で培ってきたことを、もっと前面に出し、国がんと連携強化によって、がんプロの大きな柱となっていきたい。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	<p>多くの教育コースで受け入れ人数の目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。特にがんゲノム医療人養成コースでは目標を大きく上回っており評価できます。修了に向けてさらに教育を続けてください。</p>
山本委員	<p>「病気を診ずして病人を診よ」の理念のもと、患者中心の医療の実践に尽力されていると思います。</p> <p>ゲノムコースに関しては履修者が多く、大学院生による発表も活発に行われています。発表者と参加者の意見交換も効果的だったと思います。</p> <p>小児・AYA・希少がんの分野での今後のリクルートに工夫が必要かと思います。希少がんは約190種類といわれ、幅広い腫瘍に対応できる治療の専門医や集学的治療に携わる医療者が必要です。小児がんの専門医やがん薬物専門医、がん専門看護師等の養成にも期待いたします。</p> <p>昭和大学、星薬科大学、上智大学との4大学院連携がんチーム医療ワークショップに多職種の方々が積極的に参加され多くの学びを得ているように思います。研究発表も多く行われ履修者の積極的に学び発表する意欲を大切にしていることが伺われます。</p> <p>e-learning コンテンツ作成への更なる貢献に期待いたします。また、国立がん研究センターとの連携大学院の成果にも期待いたします。</p> <p>各コースにおいて継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>すべてのコースにおいてコンセプト通り運営されていると感じました。また、受入実績も計画以上であり、順調のように見受けられます。さらに成果発表も多く実施していると思います。国立がんセンターとの連携や、昭和大学・星薬科大学・上智大学との連携など独自性のプログラムを活かし、関東がんプロの活動にも反映できればと思います。</p>

【評価項目】 昭和大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	2	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	2	4	4	4
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	3	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としてどのコースもそれぞれの優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・慈恵医大・昭和大・星薬大・上智大の4大学院連携がんチーム医療ワークショップは素晴らしい取組みと高く評価します。可能であればこの取組みを関東がんプロ全体に拡大して頂ければと希望します。 ・ワークショップも含めて活動の一切が関東がんプロホームページ等から知ることができません。せっかく意義のある活動をしておられるので、広報にも注力頂ければ幸いです。 ・受入れ人数は目標を上回り、及第点と思いますが、2019年度、少なかったもので、今後の確保にも努めて下さい。 ・セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・職種間の連携を図る取組みを検討ください。 ・他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>★医系総合大学として誇るべき多職種連携が、コースの内容をもっと豊かにしてしかるべきだと思うが、実際は、学内での多職種連携が、それほどうまくいっていないのではないかと感じるような内容だと思うが、如何だろうか？ 受入れ実数にしても、満足する数字とは言えないだろう。</p> <p>★プレストセンター内では、高く評価されるチーム医療が形成されているのだから大学全体として取り組むべき未知もすぐに見つかるはずだ。 今後の展開に期待したい。</p>
矢野委員	<p>一部の職種で受入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
山本委員	<p>医系総合大学として、患者を中心とした医療をめざし、幅広い人材を養成できる環境を有し、教育にも役立てられるという利点があるかと思えます。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、作業・理学療法士の育成が可能とのことで、学内においてチーム医療の実践が可能となっている点も特徴かと思えます。多職種連携においては、さらに慈恵会医科大学、星薬科大学、上智大学との4大学院連携がんチーム医療ワークショップにも参加されて切磋琢磨されています。</p> <p>ライフステージのみのコース設定ですが、平成30年度の受け入れ人数が目標を大きく上回っています。知識・技能のみならず、「態度」の習得をめざしておられる点も評価されます。各ライフステージの患者に対する治療・ケアから終末期の疼痛緩和、在宅ケアまでチーム医療への貢献が期待されます。この分野におけるe-learningのコンテンツ作成への更なる貢献にも期待いたします。</p> <p>市民公開講座なども企画されて、患者・市民との交流にも力を注がれたらいかでしょうか。学びの幅が広がると思えます。</p> <p>患者の尊厳を守りながら患者に寄り添う医療でのリード役をお願いいたします。 今後の継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。 2019年度の受入人数が少ないのが気になりました。 「4大学院がんチーム医療」だけでなく「関東がんプロ」としても多くの大学院と連携しさらに研究の幅を広げていただけたらと思います。</p>



【評価項目】 星薬科大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	2	4	5	5
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的ライフステージサポートのコースは優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・ 教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題と思います。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・ 慈恵医大・昭和大学・星薬大・上智大学の4大学院連携がんチーム医療ワークショップは素晴らしい取組みと高く評価します。可能であればこの取組みを関東がんプロ全体に拡大して頂ければと希望します。 ・ ワークショップも含めて活動の一切が関東がんプロホームページ等から知ることができません。せっかく意義のある活動をしておられるので、広報にも注力頂ければ幸いです。 ・ 受け入れ人数は年度によるむらがありますが、全体的には及第点だと思います。 ・ セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・ 他職種との連携を図る取組みが望ましいと思います。 ・ その意味でも他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★世界に先駆けた「包括的がん・緩和医療分子生物学研究」をもとに患者のライフステージに応じて、ファーマシューティカルケアに対応できる。包括的がん薬物療法管理専門薬剤師の育成が狙いというこのコース。そうした高い使命感に駆られた学生が参加することで、この関東がんプロ自体に大きな影響を与えていると思う。</p> <p>★e-learningに魅力を感じ取り組む学生が多いことも、好材料。関東がんプロに、もっともっと刺激を与えるべく、コースを充実させて下さい。</p>
矢野委員	<p>一部の年度で受け入れ人数が目標を下回っていますが、全体としては目標数をクリアしており、順調に進められていると思います。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
山本委員	<p>関東がんプロ唯一の薬科大学として大きな期待を背負っているかと思います。がんに特化した薬剤師の養成は患者側としてとてもありがたく思います。</p> <p>第3期からの参加とのことですが、「がん医療・臨床薬学研究コース」を開設され、意気込みが感じられます。チーム医療で大きな役割を担っている分野でもありますので、今後の継続的な発展に期待いたします。東京慈恵会医科大学、昭和大学、上智大学との4大学院連携がんチーム医療ワークショップの開催は今後も継続していただきたいと思います。e-learningでのコンテンツの作成など更なる貢献に期待いたします。</p> <p>AYA世代を含む全般的なライフステージのがん患者のQOL向上のために、現役の薬剤師をも対象に知識のアップデートの機会を提供するなど積極的に地域医療に貢献していると思います。</p> <p>痛みを取り除く緩和医療はQOLの面で一番大切なことと感じています。正しい使用法のもと、医療用麻薬の普及は患者が痛みをコントロールしながら、職場でも働き続けることができることを意味します。個人的なことになりますが夫・山本孝史も医療用麻薬のおかげで、最期まで国会議員として仕事をすることができました。病床にあっても秘書に指示を出し「命を守る仕事」を全うできました。また、病棟を回って来てくれた薬剤師さんにも助けられました。病院内でも在宅においても患者に信頼され活躍できる薬剤師の育成に期待いたします。</p> <p>継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>人材も安定して確保されており、順調であると思います。</p> <p>薬学の単科大学としての強みを生かしたさらなる拡充を願います。</p> <p>大学ホームページの「大学院薬学研究科」のページから「関東がんプロ」のページのリンクが貼られているのはとても分かりやすいです。</p>



【評価項目】 上智大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	3	4	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	3	4	5	5
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	3	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価委員会でプレゼンがなく、提出資料も数枚の図表だけで、これだけの資料で評価することは困難です。 ・養成すべき人材像、教育内容ともすばらしいコンセプトをもって教育されていますが、適切に運営されているかどうかの評価は困難です。 ・教育手段がe-ラーニングによるもので、メリットがたくさんありますが、どうしても学生任せの面があり、教育効果をどのようにとらえるかが課題とします。その意味で実習・演習を効果的に組み合わせることを検討頂ければと考えます。 ・慈恵医大・昭和大・星薬大・上智大の4大学院連携がんチーム医療ワークショップはすばらしい取組みと高く評価します。可能であればこの取組みを関東がんプロ全体に拡大して頂ければと希望します。 ・ワークショップも含めて活動の一切が関東がんプロホームページ等から知ることができません。せっかく意義のある活動をしておられるので、広報にも注力頂ければ幸いです。 ・受入れ人数は目標をクリアして及第点と思います。 ・セミナーや活動についてホームページで広報をお願いします。 ・他職種との連携を図る取組みが望ましいと思います。 ・その意味でも他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★がんのチーム医療において、活躍が期待される「がん専門心理士」。その育成をする研究科が、がんプロに加わったことは大きい。ほかの地域のがんプロにも影響を与える存在になりつつある。</p> <p>★関東がんプロとしても、医学物理士や薬剤師、遺伝子カウンセラーといった、数々の目玉をもつことで、ほかのがんプロ拠点とは差別化を図ることもでき、また、関東がんプロの強みにもなっている。</p> <p>そうした自覚のもと、コースの充実と卒業生を増やすことに力を入れてほしい。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
矢野委員	すべての年度で受け入れ人数が目標をクリアしており、順調に進められていると思います。
山本委員	<p>臨床心理士の養成に半世紀以上の歴史をもつ上智大学が、関東がんプロチームに参加された意義は大変大きいと思います。医療系の学部をもたない大学が、日本初のがん医療心理学コースを開設され、社会の要請に応え、積極的に日本のがん医療に貢献しておられることは高く評価できると思います。</p> <p>がん患者の心は繊細で常に揺り動いています。がんの特徴を理解し患者の心によりそう臨床心理士の存在に、患者はどれだけ救われていることでしょうか。緩和ケア病棟、小児病棟、相談支援センターなど様々な場で臨床心理士の存在が求められています。また、医療者、特に医師も患者の心理について専門の心理士から学ぶことが多いのではないのでしょうか。患者と医師のコミュニケーションの取り方に関しても貢献されていることと思います。患者同士のピアサポートにおいても教わる人が多い分野です。</p> <p>東京慈恵会医科大学、昭和大学、星薬科大学との4大学院連携がんチーム医療ワークショップに参加されていることも評価いたします。</p> <p>継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>人材も安定して確保されており、順調であると思います。</p> <p>がん医療心理学は患者の立場からみてもピアサポートなどとても重要な分野であるだけでなく、患者会としても連携の取りやすい分野であると感じております。</p>



【評価項目】お茶の水女子大学の活動において

【評定について】

5: とても良い 4: 良い 3: どちらとも言えない 2: 悪い 1: とても悪い

	質問	松浦委員	小嶋委員	矢野委員	山本委員	志賀委員
1	ライフステージサポートコースのコンセプトに従って、運営されている	5	4	4	5	5
2	現時点での達成度（養成人数、地域連携など）	5	4	4	5	5
3	本事業終了後も継続的な発展が期待できる	5	4	4	5	5

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
松浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブコースは優れたコンセプトにそって、適切に運営されていると評価します。 ・教育方法としてe-ラーニングをどのように取り入れているのか、プラス面による教育効果を発信頂ければと思います。 ・受入れ人数は目標人数をクリアして及第点です。 ・他職種との連携を図る取組みが望ましいと思います。 ・その意味でも他の大学との密な交流ができる取組みを考慮頂ければと思います。 ・がんゲノム医療が始まり認定遺伝カウンセラーの必要性がやっと世間に認識されてきましたので、引き続きがんプロで質の高い教育を行い、けん引役になって頂くことを期待します。
小嶋委員	<p>全般)</p> <p>★遺伝カウンセラーの活躍の場を、がん分野にまで拡大してきた功績は大きく、高く評価される。</p> <p>★全国のがんプロの範となるべく、益々、インテンシブコースを充実させていただきたい。</p>
矢野委員	<p>すべての年度で受け入れ人数が目標をクリアしており、順調に進められていると思います。</p>

委員	ご意見、ご提案があれば自由にご記入ください
山本委員	<p>がん対策基本法が制定されたのは2006年ですが、それより以前の2004年にすでに日本初の遺伝カウンセラー養成課程として大学院に「遺伝カウンセリングコース」を開設され、この分野で時代をリードして来られています。</p> <p>ゲノム解析が進み、がん領域における遺伝カウンセラーのニーズは高く、今期からお茶の水女子大学が関東がんプロに参加された意義は大変大きいと思います。30年度修了生がすでにかん拠点病院に勤務し活躍しており、遺伝性のがんをもつ患者にとって大きな頼れる存在となっていると思います。</p> <p>家族性遺伝について心配している市民やがん患者は多くいます。正しい知識の普及のためにも、市民講座の開催などを企画されたいかがでしょうか。</p> <p>すでに輩出されている数多くの認定遺伝カウンセラーの皆さんの活躍と、関東がんプロへの今後の更なる貢献に期待いたします。</p> <p>継続的な取り組み・発展に期待いたします。</p>
志賀委員	<p>コンセプト通り運営されていると感じました。</p> <p>人材も安定して確保されており、順調であると思います。</p> <p>非医療系の大学という特性を活かして、他大学と違った視点で「関東がんプロ」と連携していただくことを期待します。</p>



委員からのコメント

・ e-learningについて
 クリアしてほしい点はふたつ
 1.e-learningの受講では、個々の学生がせっきくの多職種との連携が取りづらい
 セミナーやシンポジウムで学生同士のディスカッションの場を提供してほしい
 学生間の交流をはかってほしい
 2.大学間の連携 東京東京慈恵会医科大学取組の4大学間連携のような研鑽の場を拡大させて、オープン参加で交流して欲しい



・ がんプロに期待している
 基本法から教育に発展したのは奇跡的
 がん教育について、何を専門とする学生が何人欲しいとまで目標設定されていて、可視化が来ている。
 医療系学部のない大学までも加わっているのは、感動した。
 ぜひ幅広いがんの専門医の人材育成に期待したい。



・ がんプロ事業について
 19年前に肝臓がん25歳の時ステージ4
 当時はAYA世代とか希少がんとかの言葉も知らなかった 時代が変わった感があり灌漑深い



・ 妊孕性について
 男性にも目を向けてもらいたい
 精巣腫瘍の男性も含めて20代30代でなる
 性生活を重要なものだととらえて欲しい
 男性20代30代は職場復帰するも、社会にささえられない
 患者会などからも孤立する
 むしろパートナーである女性のほうから相談が寄せられる



・ チーム医療について
 ゲノム医学に注目したい
 チーム医療推進協議会を作って11年目を迎えているが、医師の団体が入らない
 患者サイドと医師との相互の理解がすすんでいない
 若い医学生の発想を生み出せるような場をがんプロに提供してほしい
 医学物理士、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、臨床心理士。
 多職種の連携は関東がんプロの宝。それを最大限に生かしほしい綿立った立場を強みにしてほしい



・ 患者会との連携強化について
 茨城がん体験談スピーカーバンクを主催している。学校や医療機関などで患者として経験談を話している。最近では、相談支援部会の関東グループ大会で4名が発表した。
 患者会のメンバーは病気をもちながら、仕事を持ちながら生活しており、患者の立場から積極的にがん教育・医療の向上発展に尽力したい思いが人一倍ある。ぜひ、出来ることがあれば協力していきたい。



・ 小児がん
 治療法が分らないがんが多い 例えば網膜浮腫など親が子供の将来を決める厳しい判断を少ない情報のなかから突き付けられる
 小児がんの患者をとりまく親や家族への心理的サポートが必須
 子供への治療を巡る対立から離婚のケースもあった
 家族が、病気の子供に全力を尽くし、兄弟で元気な方が子が放っておかれる
 ぜひがんプロで取り上げてほしい問題である多職種の連携は関東がんプロの宝。それを最大限に生かしほしい綿立った立場を強みにしてほしい



・ 希少がんについて
 長年、治療法がない 治験がない エビデンスがない 薬もない
 ガイドラインがない状況 ゲノムもヒットするものがない
 薬物に頼る状態 標準的な治療の模索
 三官学患で連携をとってできるだけ症例をまとめて協力体制がとれないか
 患者会も協力したい社会的啓発に努めていきたい



編集後記

2017年にスタートした第3期がんプロ事業も5年計画のうち3年が経過し中間評価の時期を迎えました。第3期がんプロのテーマは「多様な新ニーズに対応するがんプロフェッショナル養成プラン」ということで、これまでの第1期、第2期でカバーされていなかった領域が対象でした。これまでにあまりフォーカスされてこなかった新しい分野で、事業発足時にはシラバスの作成やe-learningの講義項目の設定などにも大変苦労したものでした。年を追うごとにゲノム医療、小児・AYA・希少がん、ライフステージ医療に対する社会のニーズが高まり、それに応えるように多くのシンポジウム、セミナーを開催し大学院教育を進めてまいりました。今回、関東拠点各大学の報告を拝見し、事業は順調に推進されており一定の成果を挙げられていると実感しました。中間外部評価シンポジウムの委員の方々からも高いご評価をいただきましたが、これに満足することなく、残り2年間、今回の評価でいただいた課題に向き合い、やるべきこと、出来ることを整理し取り組んでいきたいと思っております。今回、COVID-19が猛威を振るう中、外部評価シンポジウムを開催すべきか、ぎりぎりまで悩みました。皆様のご理解、ご協力のもと無事開催出来ましたことを心より感謝申し上げます。外部評価委員の先生方におかれましては、大変ご多忙な中、遠方よりご出席いただき感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも変わらぬご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

関東がん専門医療人養成拠点
編集委員 一同

「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン事業
関東がん専門医療人養成拠点

発行者：関東がん専門医療人養成拠点
筑波大学がんプロ事務局
Tel：029-853-7316
e-mail：ganpro-jimukyoku@un.tsukuba.ac.jp

発行日：2020年3月31日

印刷・製本：株式会社ヒラマ写真製版

・小児・AYA・希少がんの取組 新しいセンターの設立について
国立がんセンターと連携する希少がんサテライトセンターの設立は評価したい
大学病院でAYAセンター設立を目指すなどの取組に期待する
そのような施設での卒業生の活躍をみたい



・e-learningについて
他大学の講義も聴ける点、非常に評価したい
非常に有効な教育手段であると思う



・e-learningについて
e-learningを構築したノウハウを生かして、テクニカル面でデータシステムを構築する人材を育てることはできないか
病理のコンサルティングのシステムや治療のコンサルティングシステムがほしい
データ集結する方法がないのか 患者還元にもなる



・最後に
がんプロ事業は4期も進めたい 財務省を納得させるためにも、次のテーマを見据えて取り組んでほしい
世の中は、自分たちに何を求めているのか、切り口を考え、第4期めざしその先頭にたってほしい



・セミナーについて
地域密着型のセミナーの取組は良いことだと思う
患者向けの緩和ケアセミナーや、やさしいがんゲノムセミナーの企画
など患者・市民向けのものがあってもよいと思う







「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル養成プラン事業

関東がん専門医療人養成拠点

筑波大学がんプロ事務局

【お問い合わせ】

Tel : 029-853-7316

e-mail : ganpro-jimukyoku@un.tsukuba.ac.jp